

一般国道8号

柏崎バイパス関係発掘調査報告書Ⅱ

下沖北遺跡Ⅰ

2003

新潟県教育委員会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

一般国道8号

柏崎バイパス関係発掘調査報告書Ⅱ

しもおききた
下沖北遺跡Ⅰ

2003

新潟県教育委員会

財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

近年、柏崎市周辺では産業・経済の変化により市街地が大きく郊外へ拡大しています。周辺地域の商業地、宅地化の進行に伴う道路交通量の増加によって、柏崎市周縁部の既存道路でも慢性的な渋滞が多くみられるようになり、旧市街の外側を通過する国道8号でも休日や通勤通学時間帯を中心に混雑を見せています。そのような状況の中で、柏崎市の長崎地内と鯨波地内を結ぶ、総延長11.0kmの国道8号柏崎バイパスの建設は、道路混雑の解消と円滑な交通の確保及び都市機能活性化のために重要な役割を果たすものと期待されています。

新潟県教育委員会でも、道路建設に係る箕輪遺跡の発掘調査を平成8～12年度まで、小峯遺跡の発掘調査を平成10・11年度に行い、そして今回、下沖北遺跡の発掘調査を平成14年度に実施しました。既に箕輪遺跡の平成10年度調査の一部と平成12年度調査分は報告書が刊行されています。

調査の結果、下沖北遺跡は、掘立柱建物や井戸などを一辺60m以上の溝が方形に取り囲む、13～14世紀の鎌倉時代に築かれた集落跡であることが明らかとなりました。また、建物の周辺からは青磁や白磁などの中国製の輸入陶磁器や石鍋、茶道具などが出土しています。これらの中国製輸入陶磁器や九州地方で作られた石鍋からは約700年前の日本海をめぐる活発な交流がうかがえます。

今回の調査結果が、地域の歴史を解明するための資料として広く活用され、併せて埋蔵文化財に対する理解と認識を深める契機になれば幸いです。

最後に、今回の調査に関して多大な御協力と御援助をいただいた柏崎市教育委員会ならびに地元住民の方々をはじめ、国土交通省北陸地方整備局・長岡国道工事事務所に対して厚く御礼申し上げます。

平成15年3月

新潟県教育委員会

教育長 板屋越 麟一

例 言

- 1 本報告書は、新潟県柏崎市大字下方字下沖38番地1ほかにある下沖北遺跡の発掘調査記録である。
- 2 調査は一般国道8号柏崎バイパスの建設に伴い国土交通省から新潟県が受託したもので、発掘調査は調査主体である新潟県教育委員会（以下、県教委と略す）が財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団と略す）に委託し、平成14年度に実施したものである。
- 3 整理作業及び報告書作成に係る作業も、発掘調査に引き続き、平成14年度に埋文事業団がこれにあたった。
- 4 出土遺物及び調査・整理・自然科学分析に係る各種資料・データ類は、一括して県教委が保管・管理している。
- 5 遺物の注記は下沖北遺跡の略記号「下オキ北」とし、遺構番号や出土地点・層位を続けて記した。
- 6 本書の図中で示す方位はすべて真北である。
- 7 遺物番号は、土器・木製品・石製品・土製品・金属製品の順で一連の通し番号を付し、本文及び観察表・図面図版・写真図版の番号は一致している。
- 8 引用文献は著者及び発行年（西暦）を文中に〔 〕で示し、巻末に一括して掲載した。
- 9 航空写真撮影は、株式会社国際航業に委託した。
- 10 遺構の平面測量は、株式会社榮技術に委託した。
- 11 土器の実測及びトレースは、有限会社JAWSに委託した。
- 12 自然科学分野に係る木製品の樹種同定は、株式会社バリノ・サーヴェイに委託した（第Ⅵ章）。
- 13 遺物・遺構図の各種図版作成・編集に関しては、株式会社セビアスに委託してDTPソフトにより実施し、デジタルデータから直接印刷した。
- 14 本書の執筆は、山本 肇（埋文事業団 班長）、高橋 保（同 国土交通省担当課長代理）、加藤義孝（同 主任調査員）、佐藤弘一（同 主任調査員）、金子正宏（同 主任調査員）、山崎忠良（同 文化財調査員）がこれにあたり、編集は山本、高橋が担当した。執筆分担は以下の通りである。
第1章高橋、第Ⅱ章1加藤、2佐藤、第Ⅲ章1・2高橋、3・4山本、第Ⅳ章1山本、2A加藤、2B・G加藤、2C山本、2D金子、2E佐藤、2F金子、第Ⅴ章1山本、2A山崎、2B加藤、2C金子、2D佐藤、2E・F・G山本、第Ⅶ章1山本、2山崎、3山本
- 15 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々及び機関から多くのご教示・ご協力を賜った。ここに記して厚くお礼申し上げる。（敬称略 五十音順）
伊藤正敏 伊藤啓雄 柏崎市教育委員会 倉部繁雄 国生 尚 国土交通省長岡国道工事事務所 小林昌二
小林 卓 笹沢正史 品田高志 関矢 隆 館野和己 鶴巻康志 三井田忠明 水澤幸一 横山勝栄

目 次

| | |
|---------------------------|----|
| 第 I 章 序 説 | 1 |
| 1 調査に至る経緯 | 1 |
| 2 調査と整理体制 | 1 |
| 第 II 章 遺跡の環境 | 2 |
| 1 地理的環境 | 2 |
| 2 遺跡周辺の歴史的環境 | 4 |
| 第 III 章 調査の概要 | 6 |
| 1 試掘調査 | 6 |
| A 調査方法 | 6 |
| B 調査結果 | 6 |
| 2 グリッドの設定 | 8 |
| 3 層 序 | 8 |
| 4 調査の経過 | 8 |
| 第 IV 章 遺 構 | 13 |
| 1 遺構の概要と記述の方法 | 13 |
| A 遺構の概要 | 13 |
| B 記述の方法 | 14 |
| 2 遺構各説 | 14 |
| A 区 画 溝 | 14 |
| B 道状遺構 | 15 |
| C 掘立柱建物・柵列 | 15 |
| D 方形竪穴状遺構 | 19 |
| E 井 戸 | 19 |
| F 土 坑 | 21 |
| G 溝 | 24 |
| 第 V 章 遺 物 | 25 |
| 1 遺物の概要 | 25 |
| 2 遺物各説 | 26 |
| A 土器・陶磁器 | 26 |
| B 木 製 品 | 32 |
| C 石 製 品 | 35 |
| D 土 製 品 | 37 |
| E 金属製品 | 37 |
| F 製鉄関連遺物 | 38 |
| G 銭 貨 | 38 |
| 第 VI 章 自然科学分析 | 39 |
| 下沖北遺跡から出土した木製品などの樹種 | 39 |

| | |
|--------------|----|
| 第Ⅶ章 ま と め | 45 |
| 1 遺 構 | 45 |
| 2 土器・陶磁器について | 47 |
| 3 遺跡の性格 | 50 |
| 《要 約》 | 51 |
| 《引用文献》 | 52 |
| 《観 察 表》 | 53 |

挿 図 目 次

| | | | |
|--------------------|----|-----------------------|----|
| 第 1 図 鶴川の旧河道跡 | 3 | 第 7 図 出土木材の顕微鏡写真 (1) | 43 |
| 第 2 図 鶴川流域の中世遺跡分布図 | 5 | 第 8 図 出土木材の顕微鏡写真 (2) | 43 |
| 第 3 図 試掘調査トレンチ設定図 | 7 | 第 9 図 出土木材の顕微鏡写真 (3) | 44 |
| 第 4 図 グリッド設定図 | 9 | 第 10 図 出土木材の顕微鏡写真 (4) | 44 |
| 第 5 図 土層柱状図 | 10 | 第 11 図 遺構模式図 | 45 |
| 第 6 図 土師質土器皿分類図 | 27 | 第 12 図 土師質土器皿の変遷 | 49 |

表 目 次

| | | | |
|-------------|----|------------------|----|
| 第 1 表 作業工程表 | 12 | 第 2 表 土師質土器皿の分類表 | 26 |
|-------------|----|------------------|----|

図 版 目 次

【図面図版】

| |
|------------------|
| 図版 1 遺構全体図 |
| 図版 2 遺構分割図 (1) |
| 図版 3 遺構個別図 (1) |
| 図版 4 遺構個別図 (2) |
| 図版 5 遺構分割図 (2) |
| 図版 6 遺構個別図 (3) |
| 図版 7 遺構個別図 (4) |
| 図版 8 遺構個別図 (5) |
| 図版 9 遺構分割図 (3) |
| 図版 10 遺構個別図 (6) |
| 図版 11 遺構個別図 (7) |
| 図版 12 遺構分割図 (4) |
| 図版 13 遺構個別図 (8) |
| 図版 14 遺構分割図 (5) |
| 図版 15 遺構個別図 (9) |
| 図版 16 遺構分割図 (6) |
| 図版 17 遺構個別図 (10) |
| 図版 18 遺構分割図 (7) |

| |
|-------------------|
| 図版 19 遺構個別図 (11) |
| 図版 20 遺構分割図 (8) |
| 図版 21 遺構個別図 (12) |
| 図版 22 出土土器 (1) |
| 図版 23 出土土器 (2) |
| 図版 24 出土土器 (3) |
| 図版 25 出土土器 (4) |
| 図版 26 出土土器 (5) |
| 図版 27 出土土器 (6)・銭貨 |
| 図版 28 木製品 (1) |
| 図版 29 木製品 (2) |
| 図版 30 木製品 (3) |
| 図版 31 木製品 (4) |
| 図版 32 石製品 (1) |
| 図版 33 石製品 (2) |
| 図版 34 石製品 (3)・土製品 |
| 図版 35 金属製品他 |

【写真図版】

- 図版 36 遺跡周辺空中写真（昭和22年）
- 図版 37 調査区近景（南から 左奥に番神堂）調査区近景（東から 左奥に米山）
- 図版 38 調査区完掘状況
- 図版 39 遺構集中区完掘状況（西側部）
- 図版 40 2C・2J区（北から）2F・2J区（南西から）SK86完掘（東から）SK86土層断面（東から）SE8遺物出土状況（東から）SE9最深部遺物出土状況（東から）SE101土層断面（東から）SE101完掘（東から）
- 図版 41 SK81土層断面（東から）SK81完掘（北から）SB255完掘（東から）SK235土層断面（東から）SK42土層断面（東から）SK42遺物出土状況（東から）SK33土層断面（南から）P2H14遺物出土状況（東から）
- 図版 42 2M・2N・3M・3N区（北西から）2I・2J区（南から）SK80遺物出土状況（南から）SK80土層断面（南から）SE407最深部遺物出土状況（南から）SE407土層断面（南から）SK79土層断面（南から）SK71土層断面（南から）
- 図版 43 2～4・I～K区 4I・5I・5J区（北から）SK89土層断面（南から）SK89完掘（北東から）SK89土層断面（東から）SK93土層断面（東から）SK94土層断面（東から）SK401土層断面（東から）
- 図版 44 4I・4J・5I・5J区 5I・5J・5K区（南から）SD301A-A'土層断面（南から）SD301B-B'土層断面（南から）SE139土層断面（南から）SK438土層断面（東から）SK124完掘（東から）SE125完掘（東から）
- 図版 45 2N・2M区（南から）2N・3M区（南から）SD145A-A'土層断面（東から）SD145B-B'土層断面（西から）SE180土層断面（南から）SK187土層断面（西から）SK130遺物出土状況（南から）SE129最深部遺物出土状況（東から）
- 図版 46 SB275P2（SK171）（南から）SB275P5（SK149）土層断面（東から）SK182土層断面（南から）SK135土層断面（南から）SK225完掘 SK204完掘（西から）SK209完掘（東から）SK239完掘（東から）
- 図版 47 3N・4M区（南から）SD145C-C'土層断面（西から）SD301土層断面（南から）SK228土層断面（南から）SK331完掘（南から）SK331土層断面（南から）SK222土層断面（北から）SK227土層断面（北東から）
- 図版 48 2L・3L区（北から）2M・3M区（東から）2O・2P区（北から）SK234土層断面（東から）SE140土層断面（東から）SE111土層断面上層（北から）SE111土層断面上層（北から）SE407完掘（東から）
- 図版 49 2J・3K区 3I・3J・4I・4J区（北から）4K・4L区（北から）SK445完掘（南西から）SK445土層断面（南から）SK445土層断面（南から）SE435遺物出土状況上層（北から）SE435遺物出土状況最下層（北から）
- 図版 50 3L・3K・4L・4K区（東から）2～3I区（東から）4M・4N区（北西から）SE236土層断面（南から）SE236完掘（南から）SE144土層断面（東から）SE144完掘（東から）SK440土層断面（南から）
- 図版 51 SE111遺物出土状況（東から）SK207遺物出土状況（東から）SE205遺物出土状況（東から）SE205土層断面（東から）SK94土層断面（東から）SK93完掘状況（西から）SK401土層断面（東から）SE190土層断面（南から）
- 図版 52 10I～12M区（東から）10I～12M区（南から）10I～11J区（北から）11I・11J区（北から）10J・11J区（北から）10N・11N区（南から）SK371土層断面（南から）SK222土層断面（北から）
- 図版 53 B・C区 C区 SK436土層断面（東から）SK206土層断面（東から）B・C区（西から）B・C区（東から）9I・9J区（北西から）9I・9J区（東から）
- 図版 54 出土遺物（土器・陶磁器）
- 図版 55 出土遺物（土器・陶磁器）
- 図版 56 出土遺物（土器・陶磁器）
- 図版 57 出土遺物（土器・陶磁器・木製品）
- 図版 58 出土遺物（木製品）
- 図版 59 遺物（木製品）
- 図版 60 遺物（木製品・石製品）
- 図版 61 遺物（石製品・金属製品）

第1章 序 説

1 調査に至る経緯

一般国道8号柏崎バイパスは、柏崎市大字長崎字本郷～大字鯨波間延長11kmで計画され、現在一般国道252号と353号間が供用している。この供用区間については平成8年度から12年度にかけて箕輪遺跡が、平成10、11年度に小峯遺跡がそれぞれ発掘調査されている。

平成12年度に入って、国道353号から西側鶴川の左岸までについて、建設省長岡国道工事事務所から県教育委員会に分布調査の依頼があった。これを受けて、県埋蔵文化財調査事業団では平成12年12月19日に分布調査を実施した。調査の結果、鶴川の東側で古代から中世の土器、陶磁器が採集された。また、西側では、市教育委員会が既に確認調査を実施している剣野B遺跡をはじめとして、剣野沢遺跡、香積寺沢遺跡が周知遺跡として存在している。このことから、香積寺沢遺跡までの間については、全面試掘調査が必要な旨を、国土交通省に通知した。

平成13年8、9月には、国道353号～鶴川右岸までの間の試掘調査を実施した。一部用地の関係から実施できなかった部分もあったが、調査の結果、多くのトレンチから遺物が出土し、溝、ピットなどの遺構が確認されたトレンチもあった。遺物の年代は古代～近世までである。この結果、一部を除いてほぼ全面について、本調査が必要な旨回答した。面積は20,000m²以上に及んだ。なお、新遺跡としての遺跡名は、小字が「下沖」であったが、既に市内に近接して「下沖遺跡」が存在したため、市教育委員会と協議の結果「下沖北遺跡」とした。国土交通省からは、平成14年度の調査要望があり、これを受けて6,500m²の調査を実施することとした。

2 調査と整理体制

調査は、試掘調査を平成13年度に、本発掘調査・整理作業を平成14年度に実施した。なお、整理作業については、遺物の水洗・注記・接合復元・実測の一部を、10月末まで現場で発掘調査と並行して行い、図版作成、原稿執筆などは、11月以降、埋蔵文化財センターで行った。

| 調査内容 | 試掘調査 | 本発掘調査・整理作業 |
|------|--|--|
| 調査年度 | 平成13年8月～9月の13日間 | 平成14年4月～平成15年3月 |
| 調査主体 | 新潟県教育委員会（教育長 板屋越麟一） | 同左 |
| 調査 | 財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団 | 同左 |
| 総括 | 須田益輝（事務局長） | 黒井幸一（事務局長） |
| 管理 | 長谷川司郎（総務課長） | 同左 |
| 庶務 | 椎谷久雄（総務課主任） | 高野正司（総務課主任） |
| 調査総括 | 岡本郁栄（調査課長） | 同左 |
| 調査指導 | 高橋保（調査課課長代理） | 同左 |
| 調査担当 | 沢田敦（文化行政課主任） | 山本肇（調査課班長） |
| 調査職員 | 後藤孝（調査課主任調査員） 渡辺弘（同上） 田中一穂（同 嘱託） | 加藤義孝（調査課主任調査員） 佐藤弘一（同上） 金子正宏（同上） |

第Ⅱ章 遺跡の環境

1 地理的環境

下沖北遺跡は、柏崎平野南部の丘陵の縁に沿った沖積地に立地し、柏崎平野の西側を北流する鶴川の河口より約3kmほど上流の右岸に位置する。

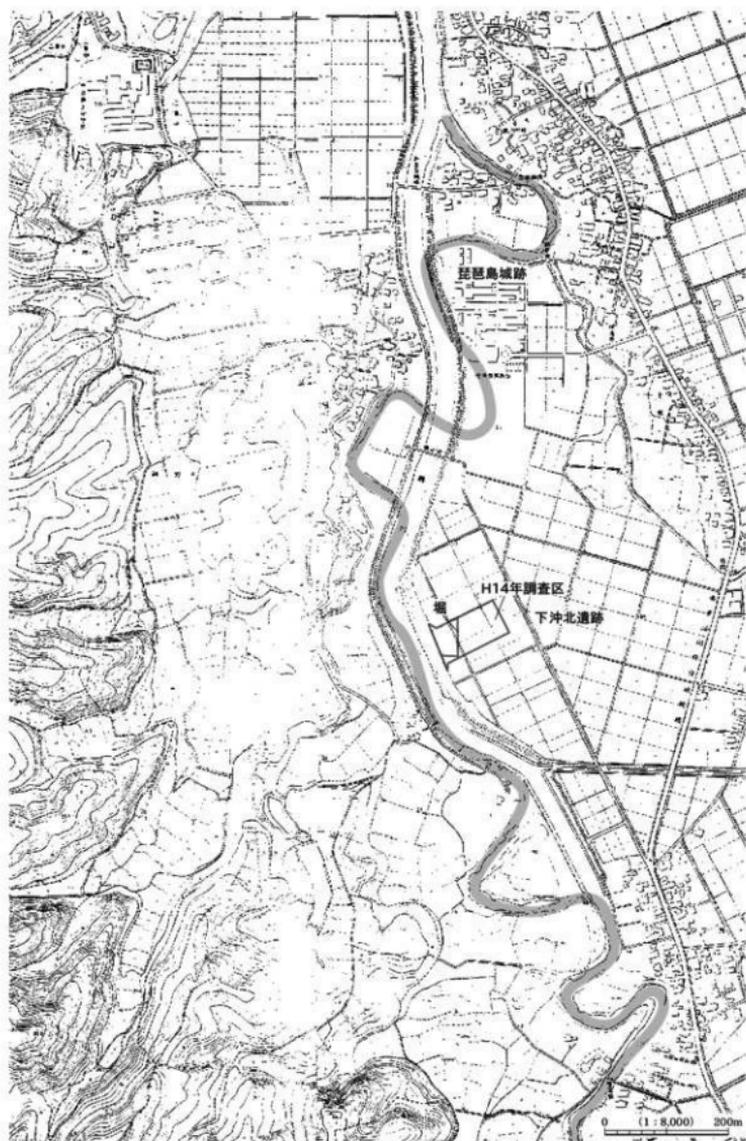
柏崎平野は、新潟県の南西部に位置する幅約7km、長さ約18kmの南南西から北北東方向に延びる小規模な臨海沖積平野である。主要河川である鶴川や鮎石川は、顕著な扇状地を形成せず、平野内を蛇行して流れている。平野部は、刈羽三山と称される米山・黒姫山・八石山を頂点とする山地や丘陵（東頸城丘陵）によって囲まれ、北西部を日本海に開口する。沿岸部は荒浜砂丘が形成され、その後背地をなす沖積地は特に湿地性の低地となっている。砂丘形成の激しい時期には河口部が閉ざされると湛水し、「鏡ヶ沖」などと称される湖沼と化した。丘陵縁辺は、中・高位段丘が分布している。地層の大部分は、軟弱な粘性土層を主体とする沖積層から構成され、新第三紀層の上位に直接堆積している。

鶴川は、その源を尾沖岳に発し、阿相島川・折居川を合わせ、清水谷を経て野田地内で田屋川、更に芋井川・軽井川とを合わせてから柏崎市街地を貫流し、日本海へと注ぐ。流域面積112.4km²、全長24.6kmの2級河川である。かつては複雑な蛇行が見られ、大雨の度に氾濫し、水害の歴史を繰り返してきた。

河口からおおむね3kmほどの範囲を占める鶴川下流域は、東岸域と西岸域とでは対照的な環境にある。東岸は、中位段丘が浸食され鳥状に沖積地内に浮かぶ地区もあるが、大半は標高が2～4mと低く、湿地性の強い水田地帯となっている。激特（激甚災害対策特別緊急整備事業）以後宅地化も進んでいる。また鶴川沿いには、自然堤防が形成されるが、丘陵や台地の縁辺とともに集落立地の適地を提供している。西岸は、米山山塊、前川などの幾つかの小河川によって分断されるが、奥の深い丘陵が広がる。

第1図は、現在の鶴川の流路と明治期の鶴川の蛇行の様子を示したものである。当遺跡付近における鶴川は、昭和期に行われた河川改修により川幅も広くほぼ直線状に緩やかに流れているが、以前は複雑な蛇行が認められる。流路は、当遺跡を中心に西方向（丘陵側）に緩やかに湾曲しており、北側約500mほどの地点では北西－南東方向に大きな蛇行が認められる。ここには、市指定史跡越後宇佐美氏の居城である琵琶嶋城跡（現柏崎総合高校）がある。西側の鶴川本流と東側から北側へ回り込んで合流する支流の横山川を堰とした合流点に築城された平城である。本丸、二の丸、三の丸の区分けに鶴川の蛇行部が利用されている。当遺跡の西側部分で蛇行の振幅は小さくなるものの、南東方向の上流部分では南西－北東方向に不規則な蛇行が再び繰り返されている。これらの蛇行は、更に中流域に広がっている。

今回の調査から、溝によって方形に区画された遺構群は、調査区の西側及び北側に更に広がっていたことが推察され、鶴川の氾濫や昭和期の河川改修などにより遺跡の一部が削平されたものと考えられる。当時、もし鶴川がより西側を蛇行していたとすれば、遺跡は川に隣接する形で存在したといえる。一方、東側に大きく流路をとっていたとすれば、今回の調査範囲より東側を流れていたといえる。大雨の度に氾濫を繰り返してきた鶴川は、その度に流路が変わり、姿を変えてきたことが十分考えられる。いずれにしても現段階では、当遺跡付近での鶴川の流路の変遷についての詳細は、今後の調査に期待するところが大きく不明である。



第1図 鶴川の旧河道路

(明治42年の地形図を参考に昭和39年船崎市都市計画図面に加筆)

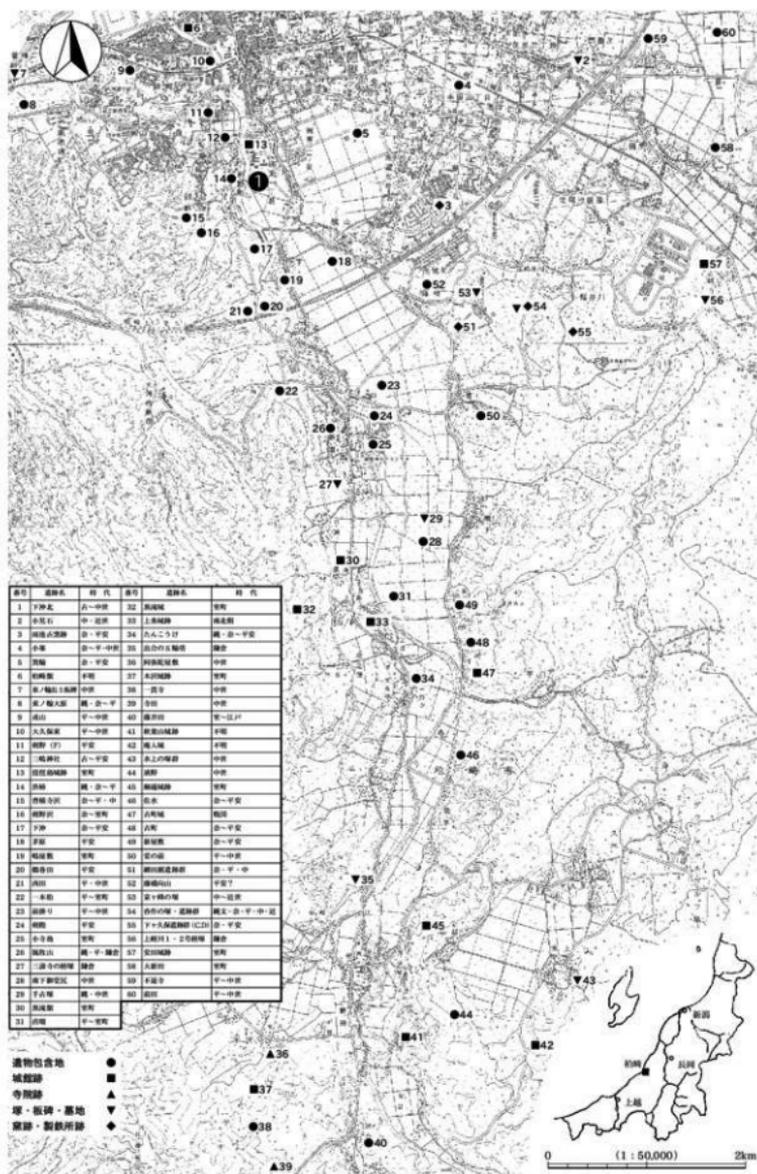
2 遺跡周辺の歴史的環境－鶴川流域の中世遺跡

『吾妻鏡』文治2年(1186年)3月12日条の「三箇国々々未進注文」には、柏崎平野に比定される荘園として「宇河荘」・「佐橋荘」・「比角荘」の三荘園が記されている。「宇河荘」の「宇河」とは「鶴川」とされていることから、「宇河荘」(以下鶴川荘)は鶴川の流域筋が主な荘城であったと考えられる。[柏崎市史、品田1997a]さらに、鶴川荘の荘内は「安田条」、「上条」、「下条」など、少なくとも3条に分かれていたと想定できる[品田1996a]。しかし、荘内の境界域は不明瞭であり、下沖北遺跡がどの条内に位置していたかを断定することは難しい。

鶴川流域にある中世の遺跡(第2図)を概観すると、上流域には中世の遺跡は少なく(略地図では省略)、兜中山ふもとに宮原遺跡、高原田遺跡、尾神岳ふもとに宮ノ下遺跡などがある。中流域では、遺跡が多く確認されており、ほとんどが自然堤防上、沢内、丘陵沿いなどの沖積地に集中している。集落跡(館跡も含む)が約7割を占めると推定[品田1997a]され、一貫寺遺跡(38)、直観遺跡(31)、前掛り遺跡(23)、小寺島遺跡(25)、西田(21)・鶴巻田遺跡群(20)、鶴屋敷(19)、堂の前(50)、香積寺沢遺跡(15)、剣野沢遺跡(16)などがある[柏崎市資料集考古編1 柏崎市教委1990]。このうち、中世前期の遺跡と推定されるのが西田・鶴巻田遺跡[県教委1988]であり、珠洲焼、青磁及び土師質土器、鉄洋、銭貨などが検出されている。遺構は、鶴巻田遺跡から、素掘りの井戸が検出されている。また、当遺跡から約200メートル上流には、下沖遺跡(17)があり、土師器、須恵器、珠洲焼などが出土している[県埋蔵文化財包蔵地カード柏崎市No.357]。しかし、集落遺跡は未調査遺跡が多く、さらに古代と中世の遺物が採集される例が多いため両者の明確な区分が難しいのが現状である[品田1997a]。集落以外の遺跡としては、鶴川東側丘陵部に網田瀬遺跡群(51)、京ヶ峰の塚(53)、香作の遺跡群(54)、下ヶ久保遺跡群(55)など奈良・平安時代の鉄生産関係施設や中世の屋敷跡と推定される建物跡や井戸、墓地、窯跡が調査されている[品田1995・1997a]。

城館については、中流には15世紀前半の上条上杉氏の上条城(33)が存在し、佐橋荘一帯から鶴川荘の一部に勢力を延ばす毛利安田氏に対しての要害となっている[中世越後の歴史 花ヶ前盛明1986]。さらに、下流域には越後守護上杉氏の被官であった宇佐美氏の居城である琵琶島城(13)がある。宇佐美氏は、守護上杉憲顕に従い入国(憲顕越後入国、暦応4年1341)し、文和4年(1355年)には顕法寺(吉川町)で旗上げしている[柏崎市史上 日本城郭体系7]。したがって、琵琶島城は、14世紀中頃に宇佐美氏の居城となったと推測される。城は鶴川の蛇行部分の自然堤防上に構築された平城で、鶴川と本陣川(横山川)を隔としている。平成14年の琵琶島城跡発掘調査で三の丸跡の発掘調査が行われ、城の存在した期間が150年から200年に及ぶ可能性があるとの見解がだされている[柏崎市教委2002]。したがって、鶴川周辺の地域一帯は14世紀中頃から16世紀かけて3氏の勢力により分割され、戦国時代を迎えたことになる[品田1990]。

下流域の遺跡は、主に鶴川西側の丘陵地沿いに分布している。東側の氾濫原性低地域にある遺跡は、箕輪遺跡(5)、小峯遺跡(4)と下沖北遺跡(1)である。箕輪遺跡は奈良から平安時代が中心で、「和名抄」に記されている「三島部」の「三島郷」の有力な候補地であるが、中世の遺物も出土している。小峯遺跡も平安時代の遺物が中心だが、やはり中世の遺物も出土している。[県埋蔵文化財調査事業団年報H8、H11 県教委2002]。



第2図 鶴川流域の中世遺跡分布図
 (国土地理院地形図 柏崎平成10年発行、1:25,000を改変)

第三章 調査の概要

1 試掘調査

試掘調査は、平成13年8月21～24日、27日～30日、9月3日～7日の13日間及び平成14年10月3、4日に、県教育委員会が主体となり、埋文事業団が実施した。対象面積は約25,000m²で、60本のトレンチを設け、調査を行った。

A 調査方法

対象地の現況はほとんどが水田であった。調査は、対象地の西側（鶴川側）から、任意の位置にトレンチを設定して行った。作業は、基本的にバックホーにより、薄く剥ぎながら、遺物の出土、土層の変化に注意し、順次下げ、重機の掘削のたびに遺物の有無を確認した。遺物は層位毎に取り上げ、遺構は検出位置を略測した。

B 調査結果

今回の調査では、ほとんどのトレンチで遺物が検出され、また10か所で遺構が確認された。1～27Tまでは標高約3mで、調査区では一番高い地点である。ここからは、全てのトレンチで数十点の遺物の出土があった。中には100点を超える所もあった。特に1T～20Tまで及び26Tで遺物の出土が目立った。出土はI層からIV層まで認められるが、I及びII層は表土及び床土にあたるため、III、IV層がいわゆる包含層である。深さは、30～60cmくらいである。遺物の年代は一部近世以降の土器も認められるが、ほとんどが古代から中世のものであった。しかし、層位で時期を分離することは困難であった。遺構は1Tで大きな溝、2T、3Tでピット、4Tで土坑及びピットなど多く確認された。

28T～52Tまでの範囲は、標高が2.8から2.1mと東に向かって緩やかに傾斜している。ここでも基本層序は27Tまでと同じであるが、よりグライ化が進んでいる。ここでも全てのトレンチで数十点の遺物の出土が認められたが、27Tまでに比べるとその量は少ない。出土遺物の年代は、古代、中世を中心として、近世まで認められる。出土層位は同じくI～IV層であるが、III、IV層が包含層で、深さは50～60cmである。この中で49T、50T、52Tでは、1個体の土器が見つかったような状態で出土した。出土層位は、前述のIII、IV層下のV層であった。遺構は確認できなかったが、III、IV層の土器に比べて古く、古墳時代か古代と考えられ、この周辺では、2層の調査が必要と判断された。この区間では、遺構はあまり明確でない。

53T～60T付近は、標高が2.1～1.9mと最も低く、横山川に近い位置になる。土層もグライ化が進み、灰色から青灰色粘土が主体となる。54Tでは、比較的多くの遺物が出土しているものの、総体的に少なく、遺構も確認されなかった。56T～60Tでは、遺構、遺物の出土は全く認められなかった。56T、57Tでは、II層が横山川に向かって落ち込む様子をうかがうことができた。

このような結果から、52Tまでを本調査必要範囲とし、53T以下は、調査の必要はないと判断された。なお、52Tまでの面積は約20,000m²である。



第3図 試掘調査トレンチ設定図

2 グリッドの設定

グリッドの設定(第4図)は、道路建設予定地内のセンター杭2点を基準に行った。まず、遺跡の一番西側鶴川の上手にあるセンター杭No.392(X:149302.480, Y:4881.111)を起点とし、遺跡の東側のセンター杭No.370(X:149466.303, Y:5289.331)を結んだラインを基線X軸とした。また、この線とセンター杭No.392で直交するラインをY軸とし、10mのメッシュを大グリッドとした。グリッド名は、X軸にアルファベットA～、Y軸に数字1～とし、遺跡全体をカバーできるようにした。なお、X軸は真北に対して68度7分38秒東偏している。大グリッドは、図のように2m毎の小グリッドに分割した。

3 層 序

基本土層は調査区の中央(9N区)の土層を参考とする。試掘調査の結果と大きな変化はない。地山まで5層が存在する。また地山はVI層以下である。遺構が集中し、地形の高い部分(標高2メートル以上の地区)ではやや黄褐色を帯びる色調となる。以下、各層について説明を加える。

基本層序

0層;盛土

I層;灰褐色土(現水田耕作土)粘性が強く、酸化鉄の粒子を含む。

II層;灰色粘質土(水田耕作土床土)色調はI層よりやや明るく下部で酸化鉄が著しく認められる。

III層;暗褐色粘質土(遺物包含層)炭化物粒を少量含む。

IV層;明褐色粘質土(遺物包含層)

V層;暗褐色もしくは暗灰色粘質土(遺物包含層)

VIa層;青灰色土はV層と同様であるが、水の影響により色調が変化したものと考えられる。

VIb層;茶褐色土の粒子が顆粒状に混入する。

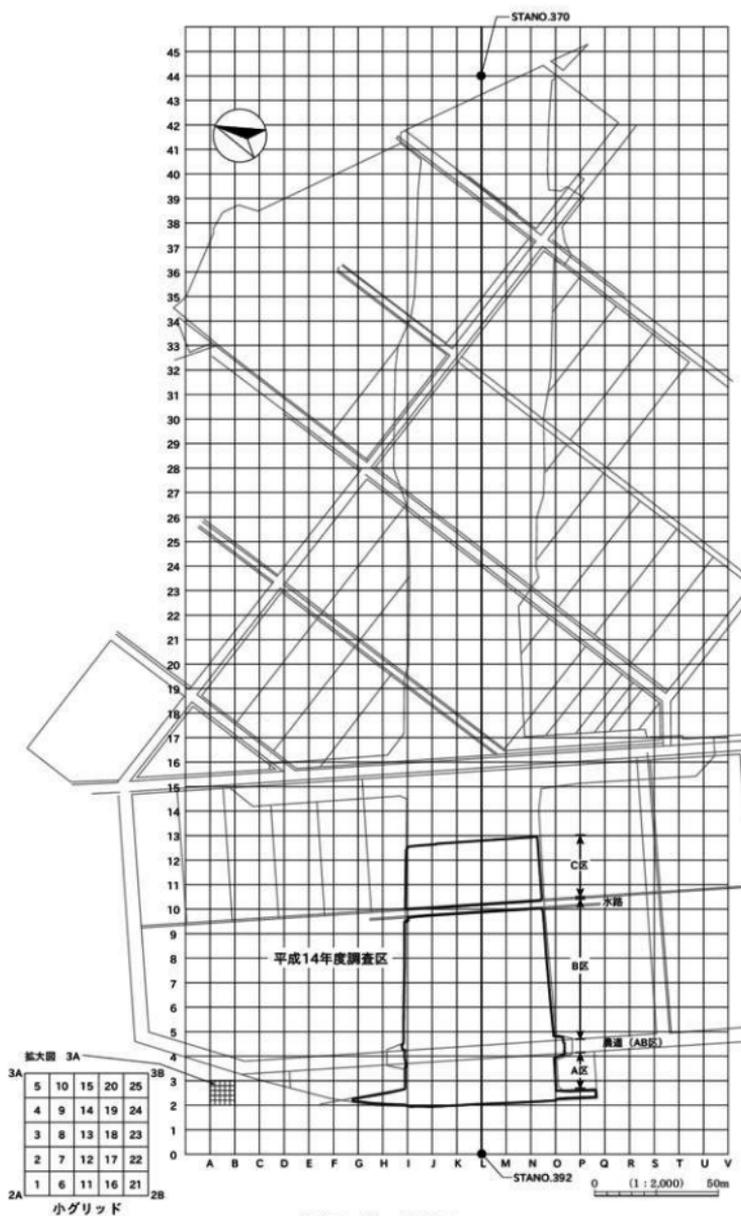
VII層;明青灰色粘質土 西側は明茶褐色粘質土。

地形との関係 遺跡全体の土層について西側と東側では多少の相違が認められる。西側(2~4ライン)と東側(12~13ライン)の標高は中央部に比較して高く、標高2.8mくらいである。一方調査区中央(6~9ライン)は南側にゆるく傾斜する地形で、中央がくぼ地となり、最深部は標高1.7mと低い。遺構が密集する西側部分の遺物包含層は、多くが攪乱を受け層序に乱れがある。つまり耕作土下はすぐに地山のVI層となる。

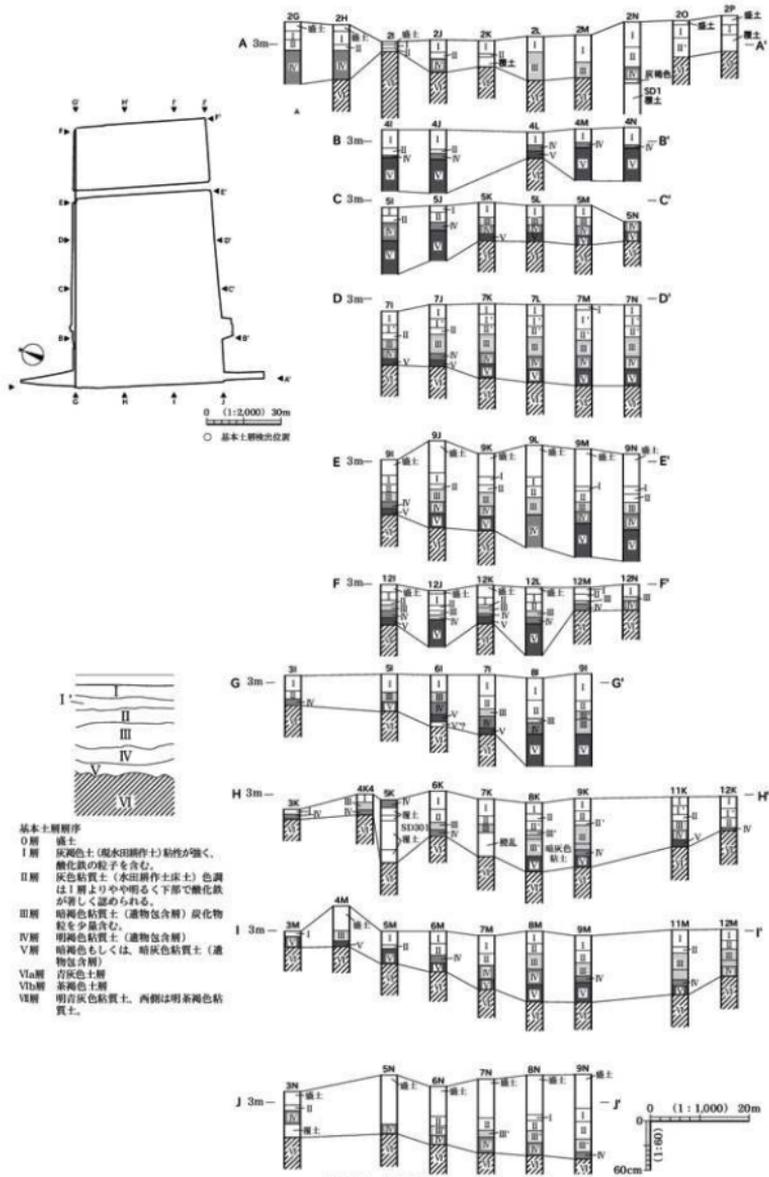
なお6区から東側は、層位的に確認されたため、一層ずつ掘り下げて、遺物、遺構を確認した。なお低地部分のVI層は、灰色もしくは明青灰色を呈するが、遺構の確認された西側と東側については酸化により、黄褐色を呈する傾向がある。

4 調査の経過

試掘調査の結果を受けて、今年度の調査は4月8日から開始した。現地での作業は10月末まで行われた。当面調査区が沖積地であることから、暗渠排水溝を設置したのち、西側からA区、B区、C区の順で調



第4図 グリッド設定図



査を進めることとした。なおA区とB区間の農道部分については、A区の調査結果を踏まえてその取り扱い（調査必要の有無、農道の切り直し工事などについて）を検討することとした。

暗渠排水の設置 暗渠排水は、確認調査の結果地表面下約1mに遺物包含層が存在するため、深度2mまで幅50cmの溝を切り、その中にドレン管を敷設し、その後約1mを埋め戻した。A区は南北西にコの字に排水溝を掘削し、北東、南東に樹を設定し、24時間排水とした。またB区・C区も同様にコの字状に設置し、各ポイントに樹を設定した。なお調査を進める中で、各大グリッドラインに沿って浅い素掘りの排水溝を設定し、調査区内での排水を行った。

各調査区の概要

A 区 暗渠設置後最初に調査した地区である。すでに遺物包含層はなく、表土除去後遺構精査に入った。遺構集中区で、掘立柱建物、井戸、土坑等多くの遺構が検出された。井戸の深堀を除いて6月初旬で終了した。

B 区 6月12日から調査に入った。南西側から調査に入った。南北に延びる溝が確認され、この溝を境として、遺構密度に極端な違いがあり、この溝（SD301）が区画溝の性格を持つものと判断された。9ライン南側は最も標高が低くなる地点である。当初人力で掘り下げたが、土層も厚いことから、再度重機で掘り下げた。遺構はほとんどなく、倒木等が確認された。

AB 区 農道部分である。当初A区終了後、A区側に農道を切り直し、調査を行う予定であったが、A区が遺構密集区であり、農道下も遺構が多く予想され、A区を切り直し道路で埋めてしまうと調査に支障をきたすことになるため、地元農業委員会と協議し、調査終了まで通行止めさせて頂くこととした。調査は8月から入った。区画溝や方形竪穴状遺構、井戸等が確認された。農道は調査終了後に、現状復旧した。

C 区 今年度調査区の最も東側に位置する。8月から表土剥ぎなどの作業に入った。遺構遺物は少なく、約1か月で調査は終了した。

現地説明会の実施 調査が一応終了した段階で、調査の成果を市民に公表するというので、現地説明会を実施した。9月29日（日曜日）の午前10時、午後1時からの二回実施した。時折雨の降る日であったが、総数260名の参加を得て、午後3時に終了した。なお当日柏崎市で調査した「琵琶島城跡現地説明会」も同時に開催された。

遺構平面図の作成委託 今回平面実測については、地元の測量業者に委託した。開始時期は6月末日のA区の遺構完掘後とした。事前に遺構の形態別に実測図の表現方法を打ち合わせ、現地測量に入った。翌日には素因を提出してもらい、それらの図の校正、遺構名、土層断面作成ポイントなどのチェックを行い、調査工程に合わせ順次作業を進めた。その結果、10月にはほぼ測量を終了することができた。

遺物整理 今年度から年度内報告書刊行ということとなり、調査現場ではこれまで、注記までの作業であったが、遺物の分類、接合、統計、実測という作業も行うこととした。

6月から遺物水洗と注記を開始したが、遺物の量が思ったより多く、注記に手間取った。また井戸や土坑などの1mを超えて深いものも多く、10月に入り、遺跡全体の遺構平面測量、写真撮影終了後に、これら深度の深い遺構については、バックフォーによる半載と底面の確認を行った。遺構数は25で、6日間を費やした。その段階で井戸底面最深部に黒色土に植物遺体などが確認された。これらについては覆土断面確認後、最深部の土層を取り上げ、水洗によるフローテーションを行い、乾燥後植物遺体の分類を行った。この作業では植物遺体のほか、昆虫の羽などを確認した。今回は植物の種子の同定は行うことがで

4 調査の経過

きなかった。

遺物実測の委託 現地での遺物整理の結果、遺物の数量が土器のみで箱数50箱を超えたため、土器類の実測・トレースについては多くを外部に委託した。個体数は200個体とした。なお木製品、石製品、土製品、金属製品は職員と現地の作業員とで行った。

報告書作製 報告書の作成は、11月から埋蔵文化財センターで行った。全体の作業行程は以下のとおりである。

| 月日 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | | | | |
|---------------|-------|------|-------|------|------|-------|------|------|-------|------|------|-------|------|------|-------|------|------|-------|------|
| 調査期間 | 21:00 | 1:00 | 11:00 | 2:00 | 1:00 | 10:00 | 2:00 | 1:00 | 11:00 | 2:00 | 1:00 | 10:00 | 2:00 | 1:00 | 11:00 | 2:00 | 1:00 | 10:00 | 2:00 |
| A区 | | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | | | | | | | | | | | |
| AH区 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| B区 | | | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | | | | | | |
| C区 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 調査期間 (土器) | | | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | | | | | | |
| 調査期間 (木製品) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 字幅 | | | | ○ | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | |
| 現地説明会 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 報告会 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 標本返し | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 調査終了 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

第1表 作業工程表

第IV章 遺 構

1 遺構の概要と記述の方法

平成14年度下沖北遺跡では、掘立柱建物29棟、土坑129基、井戸25基、方形竪穴状遺構8基、欄列3基、区画溝3条、溝30条、性格不明遺構38基、ピットおよそ1,400基の遺構が検出された。

A 遺構の概要

掘立柱建物 調査中に建物と判別できたものは少なく、平面図作成後に図上で確認し、さらに現地での組み合わせを確認した。

掘立柱建物の各柱の呼称について、北西隅の柱を1として、時計回りで1、2、3・・・とした。なお総柱建物については、時計回りで外側から「の」を描くように番号を付した。なお、建物と確認する以前に土坑や柱穴として記入されたものについては、掘立柱建物の柱穴No.のほかに当初の遺構No.が付されている(別表1)。

欄 列 欄列には、東西棟、南北棟の二種が検出された。一例以外は東西棟であった。掘立柱建物との関係では南側に東西棟の日隠し様の板扉として利用されたと推定されるものがある。

井 戸 いずれも素掘の井戸である。地山の粘質土が硬くしまっていることと、崩れやすい砂の層が存在しないことなどによると推定される。約1.5mほど掘り下げると水が染み出すことから、これくらいの深度で水脈を確認したものと想像される。平面形は円形を呈している。ここでは径1m以上、深度1m前後以上の遺構で、出土遺物に木製品などが出土したものを井戸として報告する。なお詳細には断面、底面の形状から大別した。さらに法量により細分も可能である。

また遺物には、土師質土器の皿類、珠洲焼の甕・播鉢などのほか、木製品各種と川原石を利用した磨石状のものが出土している。これらの遺物は確認面下1mのところからの出土が多い。

方形竪穴状遺構 8基確認された。一辺の長さが2～4m程度で、平面形が方形もしくは隅丸方形を呈し、壁が急角度で立ち上がる土坑を方形竪穴状遺構とした。

土 坑 平面形では円形、楕円形、方形に大別される。長軸、短軸1m以上のものを土坑とした。なおおの中で方形の土坑が7基検出された。一辺約2m以上のものである。深度は20cmほどのものと2mを超えるものなど各種が認められる。

道状遺構 区画溝と溝にはさまれた遺構を道とした。南北に続いている。道部分に特別な施設等は確認されなかったが、南部で砂利・小石を覆土とする深度5cmほどの浅いピットが集中して検出された。これらは道遺構に関するものと考えられるが、性格は不明である。

区画溝・溝 溝には、区画溝のように方向が南北又は東西を指すものと、調査区周辺の水田の方位を示すものの二種に大別される。

東西又は南北を指すものは、覆土の下層に黒色粘質土が入るものが多い。それに対して周辺の水田と同一の方位を呈するものは灰色の砂質土を覆土とするものが多く、前者より新しいものである。

性格不明遺構 深度5cm前後の浅いものと1mを超える深いものがある。前者は覆土が灰色の粘質

土で底部は平坦なものが多い。掘り下げると土坑やピットなどが確認できる。後世の擾乱と、遺構が埋没する過程で埋まりきらない状況のくぼ地状のところには堆積したものが多く想定される。

ピット 総数1,400基以上が確認された。ほとんどが区画溝に囲まれた内部に存在する。また11M区で小ピットが東西方向に連続する場所が確認された。

B 記述の方法

遺構の略号については、掘立柱建物SB、柵列SA、遺状遺構SR、区画溝・溝SD、方形竪穴状遺構・土坑SK、井戸SE、性格不明遺構SX、ピット・柱穴Pとして、遺構の種別を表記した。なお、遺構計測値等については別表で示した。

2 遺構各説

A 区画溝

SD145・SD301・SD220 (図版1・12～18・20)

調査区西側に検出されたSD145とSD301は、3M・4M地点でL字形に直交している。また、SD301から更に南方向にSD220が延びている。これらの溝は、集落内と外部とを区別するために掘られた方形区画溝の一部と考えられる。

SD145は、2N6から3N20に位置する。方向は、N-98°-Wを測り、西方向へ調査区外に延びる。調査区内での長さは約20m、幅約2m、深さ約40cmを測る。調査区との境付近で南側にクランク状の広がりが見られ、幅が4mほどになっている。橋あるいは門などの構造物があった可能性が推察されるが、今回の調査では断定できなかった。覆土は、黒褐色粘質土を中心に粘質土3層で形成されている。断面形は箱状で、底面は平坦で高低差はほとんどない。

SD301は、4N16から5I5にかけてほぼ南北方向(方向N-5°-W)に直線状に延び、北側は調査区外に延びる。調査区内の長さは約60m、幅約3m、深さ約70cmである。覆土は、大きく灰褐色と黒褐色に分けられる粘質土で6層から形成されている。断面は箱状で壁面は外反し立ち上がる。底面は北方向に緩やかに傾斜する。

SD145とSD301の新旧関係は、SD301の下層部分がSD145に切られていることから、まず南北方向の溝SD301が掘られ、その後下層部分にあたるオリブ灰色粘質土・黒色粘質土が約10cmほど埋まった後に、SD145がSD301に直交する形で掘られたと考える。この時点でL字形の溝が完成する。更に、SD145の覆土2層(黒褐色粘質土)・SD301の覆土4層(黒褐色粘質土)が堆積し両溝が約30cm程埋まった段階で、SD301の南方向延長線上にSD220が掘られたことが分かる。SD220は、4N21・2O1に位置する。南北方向(方向N-5°-W)に延び、南側は調査区外に延びる。検出された幅は約1mで、SD301と比べると1/3ほどであり、深さも約20cmとかなり浅くなる。SD145とSD220に囲まれた部分は未調査の部分が多いが、SB284や井戸・土坑などが検出されており、SD220の区画溝としての役割とともに集落の広がりが推察される。しかし、溝の幅は狭まり、深さも10～20cmと区画溝SD301形成当初よりかなり小規模化してきている。

出土遺物は、SD145・SD301とも、下層(黒褐色粘質土)を中心に中世・古代の陶磁器類が多量に出土した。特徴的なところは、SD145は、土師質土器が多いもののSD301に比べ、土師器・須恵器など

古代遺物の出土割合が高い。SD301は、土師質土器・珠洲焼など中世の遺物が大部分を占め、青磁や白磁も出土している。SD220の遺物は、2層（灰色粘質土）から越前の甕の破片1点、土師質土器の破片1点、土師器の破片3点のみである。

B 道状遺構

SR1 (SD302・SD220) (図版1・14・16・18・20・21)

南北方向に延びる方形区画溝SD301とその東側を並走するSD302で構成される道状遺構である。検出された長さは65m、路面幅3mを測る。方向は、 $N-5^{\circ}-W$ であり、北方向に緩やかに傾斜する。路面は平坦であるが調査区東側への傾斜が認められる。南北両方向とも調査区外に延びている。南端部は、4N22・23地点からSD301に代わりSD220とSD302で構成される道として調査区外に延びる。SD302は、一部テラス状の膨らみが見られ、幅は40～120cmと不規則である。深さ5cmを測る。断面は皿形で壁面は緩やかに外傾しながら立ち上がる。途中で継ぎ足された形跡は見られないことから、SD220が存在する以前より、SD301及びその南延長線とを並走していたものと考えられる。覆土は単層で、褐色粘質土が堆積する。遺物としては、土師質土器や珠洲焼、土師器や須恵器など古代及び中世の陶器が出土している。4N10付近で落ち込みが見られるが、おおむね南から北に向けて緩やかに傾斜している。

C 掘立柱建物・柵列

掘立柱建物

掘立柱建物のほとんどは、調査区の西側、SD301、SD145に区画された内部にある。遺構によっては、調査区外へ続くものもある。建物の主軸方位については、長軸方向を基準として計測した。多くが東西棟である。軸方位は $N-5^{\circ}-E \sim N-10^{\circ}-W$ までで南北を意識した建物となっている。

SB251 (図版2・3)

A区2Gに位置し、東西2間以上(2.2m)、南北3間(4.28m)の南北棟と推定される。東側調査区外に延びている。柱穴は56～100cm程の楕円形で深さは30cm前後である。SB252と重複しており、柱穴の切り合い関係から、SB251が古い。

SB252 (図版2・3)

A区2Gの東南に位置し、東西1間(1.88m)、南北2間(2.8m)の南北棟と考えられる。柱穴は30～100cmの楕円形で深さは30cm前後である。SB251に比較して、柱穴・建物規模が小さくなっているが主軸方位はほとんど同じである。

SB253 (図版2・3)

A区2G・2Hに位置し、東西2間以上(5.48m)、南北2間(4.48m)である。柱穴は60cmの楕円形を主体とし、深さは35cm前後である。南側に約30cmの間隔をもって柱が並んでおり、この建物に関連する可能性がある。

SB254 (図版2・4)

A区2G・2Hの東南に位置し、東西2間(4.0m)、南北2間(4.5m)で、東調査区外に続く東西棟であろう。柱穴は80cm前後の楕円形を主体とし、深さは40cm前後と一定している。SB253と重複するが、各柱穴の明確な切り合い関係はなく、新旧関係は不明。柱穴の規模、建物の規模など一回り大きいものである。後述するSB255Aなどの例と同様2×5間程度の可能性があり、前後に同様の建物が並列してい

2 遺構各説

た可能性がある。

SB255A (図版2・4)

A区2Hに位置し、東西3間以上(6.0m)、南北2間(3.3m)の東西棟である。東西は5間程度になる可能性がある。柱穴は40～80cmの楕円形で深さは31～56cmである。SB255B、SB256と重複する。柱穴の切り合い関係から、Aが古く、Bが新しい。なおAとSB256の明瞭な切り合い関係は確認できなかった。

SB255B (図版2・4)

SB255Aと重複する。東西3間以上(6.4m)、南北2間(4.4m)の東西棟である。西側に遺構が延びるものと考えられる。柱穴は40～80cmの楕円形で深さは35～88cmである。柱間隔はSB255Aより大きい。SB256を切っている事が確認できた。

SB256 (図版2・4)

A区2Hの東南に位置し、東西3間以上(5.6m)、南北2間(3.88m)の東西棟である。西側にもう2列が並ぶ可能性があり、2×5間と推定される。柱穴は48～88cmの楕円形で深さは40cm前後である。

SB257 (図版2・4)

A区2I、3Iの北に位置し、SB256の東側に妻を並べるように近接する。その距離は約1mである。東西5間(4.96m)、南北1間(2.0m)の東西棟である。柱穴は28～64cmの楕円形で深さは30cm前後である。

SB260 (図版5・8)

上記の建物群と距離を隔てて、南側に集中する建物群に含まれる。A区2Iの東南に位置し、東西4間以上(9.0m)、南北1間(4.48m)の東西棟である。西側にもう一列延びて、2×5間の建物になる可能性が高い。柱穴は32～80cmの楕円形で深さは10～70cm程である。南側東隣前面には2×1間の東西棟の建物(SB264)が並列する。主軸方位が一致していることから、付属建物の可能性も考えられる。また井戸SE407や方形土坑SK79や土器埋納遺構と考えられる土坑SK80と重複している。切り合い関係がなく、新旧は不明である。

SB261 (図版5)

A区3Jに位置する東西2間(3.0m)、南北2間(3.7m)の南北棟である。SB260の東側に並列するが、やや東に傾く。SK89と柱間間隔は桁行きで約1.9m、梁間で約1.5mである。柱穴は径50cm前後の不整形で、深さは17～76cmとばらつきがある。SK89と重なる形で存在することから何らかの関連があるかもしれない。

SB262 (図版14)

AB区4J区の北西に位置し、東西2間(3.1m)、南北3間(4.2m)の南北棟である。各柱の並びは一定せず建物として成立するかは明確でない。柱穴は径16～44cmと小規模なものである。各柱の並びは一定しない。

SB264 (図版5・7)

A区2Jの北に位置し、東西2間(4.84m)、南北1間(1.6m)の東西棟である。柱穴は径70cm前後と大きく一定している。深度は約50cm。

SB265 (図版5・8)

A区2Jの北西に位置し、東西2間(4.08m)以上、南北1間(2.4m)の東西棟である。西側調査区外に

延びるものとする。東柱は確認することはできない。柱穴は径60cmの円形で深さは35cmである。

SB266 (図版5・7)

A区2Jの南に位置し、東西2間(4.08m)、南北1間(1.92m)の東西棟である。柱穴は20～50cmの楕円形で、深さは6～30cmである。性格不明のほほ地状土坑SX33の覆土を掘り下げて、柱穴が確認されたもので、SX33より古いものと考えられる。

SB267 (図版5・16・17)

A区3K、4Kにまたがって検出された。東西4間(10.2m)、南北2間(3.12m)の東西棟である。柱穴は30cm前後の円形で、深さは30cm前後である。主軸方位がSB265とほぼ同じで、東西に並んでいることや柱の規模、深度などの類似性から同時期の可能性が高い。

SB268 (図版5)

A区2Kの北西隅に位置し、東西2間以上(4.64m)、南北1間(1.48m)の東西棟である。柱穴は30cmの円形もしくは楕円形で、深さは30cm前後である。西側調査区外に延びる可能性がある。

SB271 (図版5)

A区2Kの中央に位置し、東西1間(1.68m)南北1間(1.6m)の方形を呈する建物である。柱穴は24～36cmの楕円形で、深さは20cmほどと一定している。SE432を囲むように並ぶ。南東の柱を取り組むと五角形となる可能性がある。

SB273 (図版9・11)

A区2Lの北西に位置し、東西3間(3.84m)、南北2間(3.04m)の東西棟である。柱穴は28～56cmの方形で、深さは17～49cmである。東西の柱間隔は東が幅広くなっている。

SB274A・SB274B (図版9・11)

A区2L、3Lに同形態建物が重複して存在する。SB274Aは東西2間(4.04m)、南北3間(7.0m)の南北棟である。南側、北側に東柱を有し、全体として六角形の平面形を呈している。各柱穴は径100cm以上の楕円形で深さは1mを超えるものである。東南側に小規模の相似形の建物SB274Bが重複する。南北2間(4m)、東西2間(3.4m)である。柱穴の切り合い関係からSB274Bが古い。

SB275 (図版9・11)

A区2Lの東に位置し、東西2間(2.92m)、南北1間(2.84m)の東西棟である。ほぼ正方形の平面形である。柱穴は20～52cmの方形で、深さは12～30cmである。

SB276 (図版9・11)

A区2Lの東に位置し、東西2間(2.80m)、南北2間(2.0m)の東西棟である。柱穴は32～124cmほどの楕円形で、深さは17～72cmである。SB274A・SB274Bと重複している。柱穴の切り合いはなく、新旧関係は不明である。特にSB274Aとは主軸方位や柱穴覆土が類似しており、SB274Aとの関係が想定される。

SB277 (図版9)

A区2Lの西に位置し、東西3間以上(4.32m)、南北2間(3.22m)である。西側は調査区外に延びる。柱穴は24～64cm前後の楕円形で、深さは17～70cmほどである。

SB278 (図版9・10)

A区2Lの北西に位置し、東西1間以上(1.56m)、南北2間(1.96m)の東西棟である。西側は調査区域外に延びると考えられる。柱穴は20～58cmの方形で、深さは10～47cmである。

SB280 (図版9・10)

A区2L・2Mの西に位置し、東西2間以上(2.4m)、南北3間(3.16m)の東西棟である。柱穴は約30cmの円形で、深さは30cmである。SB281と重複している。柱穴の切り合いはなく、新旧関係は不明である。主軸方位がSB281よりやや西に傾く。

SB281 (図版9・10)

A区2L・2Mの西に位置し、東西2間以上(2.2m)、南北2間(3.2m)の東西棟である。柱穴は50cmほどの円形で、深度は30cm前後である。

SB282 (図版9・15)

A区3Mの中央に位置し、東西1間(1.84m)、南北2間(4.72m)の南北棟である。柱穴は80cmの円形で、深さは1m以上である。区画溝に囲まれた地区の東南隅に位置している。周辺には柱穴と同規模の井戸が集中する地域である。

SB283 (図版9)

A区2Mの西に位置し、東西2間以上(2.20m)、南北2間以上(3.00m)である。西側が調査区外に延びているため全形は不明である。建物北東隅のみの確認である。柱穴は20cm前後の円形で、深さは7～11cmである。

SB284 (図版12・13)

A区3Nの南に位置し、SD145の南側に位置する。南側は調査区外となり、建物の全体は不明である。東西3間以上(5.92m)、南北2間以上(3.6m)の東西棟であろう。柱穴は径30cmほどの円形で、深さは30cmである。主軸はほぼ東西を指す。他の遺構との重複関係は認められない。

SA269 (図版5・7)

A区2K9・15、3K11に位置し、東西方向で6基の柱穴が並ぶ櫛列である。方向は、N-87°-Wを測る。検出面はすべてVI層上面である。すぐ南側にはSA270がほぼ並行して走る。北西方向には、SD74がほぼ東西方向(N-104°-W)に延びている。長軸が40cmほどのSA269-1と長軸30cmほどのSA269-2・5が交互に並んでいる。深さは、約7～33cmである。杭間寸法は、1.4mと等間隔である。

SA270 (図版5・7)

A区2K8・9、2K14・15に位置し、東西方向で4基の柱穴が並ぶ櫛列である。方向は、N-90°-Wを測る。検出面はすべてVI層上面である。SA269と並走している。柱穴の長軸は28～56cm、深さは11～33cm、杭間寸法は88～140cmと規則性は見られない。

SA272 (図版5・7)

A区2K12・18・24・25に位置し、東西方向で4基の柱穴が並ぶ櫛列である。方向は、N-76°-Wを測る。検出面はすべてVI層上面である。SB273の北側に位置し、並走する。柱穴の長軸36cmのSA272-1・3と長軸28cmのSA272-2・4が交互に並んでいる。深さは約25cmでほぼ同じである。杭間寸法は、2m前後と広い。

D 方形竪穴状遺構

方形竪穴状遺構にはSK33、79、89、96、142、331、401、445がある。

SK142 (図版9)

A区2L24・25、2M4・5・9・10に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸3.6m、短軸3mである。掘形は箱形で深さ0.45mを測る。覆土は4層に分層される。覆土中から土師質土器皿・珠洲焼壺・播鉢、須恵器杯・蓋、土師器碗・壺・甕などが出土している。SK111・SX173・P2M78・P2M80を切っている。

SK445 (図版16・17)

AB区4J11～14・16～25に位置する。平面形は長方形で、規模は東西8m、南北5mである。掘形は皿形で深さ0.53mを測る。SX445は二つの方形竪穴状遺構が重複している。土層断面より、東側の遺構は、西側の遺構を切っており、西側の遺構が埋まった後に掘り込まれている。西側の遺構は平面形が長方形を呈するもので、覆土は3層に分層される。最下層の3層は多量の炭化物を含み、この層からは土師質土器皿・碗、珠洲焼壺・播鉢・壺、青磁碗などが完形に近い状態でまとまって出土している。東側の遺構は主軸がやや東に傾くもので、1辺約5mの方形を呈している。覆土は5層に分層される。東側の遺構からの遺物出土量は西側の遺構に比べて少ないが、土師質土器皿、珠洲焼壺・播鉢、石鍋などが出土している。SX445の北側にはSK347が存在する。平面形は隅丸方形で、1辺が0.8mである。掘形は湾曲形で深さ40cmを測る。覆土は2層に分層される。この2層の覆土とSX445の東側にある遺構の上部2層の覆土が同じであることから、SK347はSX445の張り出し部分にあたり、SX445へ通じる階段状を呈する入り口の可能性もある。

E 井 戸

井戸は、全部で25基確認されている。検出地区はA区内24基、AB区内1基であり、SE138、139、140以外はSD145、SD301に囲まれた方形区画内において検出されている。

位置は、集落の中心部の東側(GJ～GN)に集中している。特に、G3M内では、10基検出されている。すべて素掘りの井戸であり、井戸枠などは検出されていない。平面形は、楕円形13基、円形7基、方形2基、隅丸方形3基である。断面形は、台形13基、箱形6基、U字形4基、ロート形2基である。覆土は、レンズ状に堆積した状態や数回にわけ埋められた状態と様々である。全体的に黄褐色、暗褐色系の強い粘質土だが、最下層は炭化物を含む黒色の粘性の弱いシルト状となっている場合が多い。

井戸の大きさから、おおそ以下の4つに分類できる。A類：長軸3m以上、深度約1.0m(1基)、B類：長軸約1.8m前後、深度約2.0m以上(3基、SE9については推定)、C類：長軸1.5m前後、深度1.5m前後(10基)、D類：長軸1.0m前後、深度1.0m前後(11基)。出土遺物については、すべての井戸から土器、磁器、石・木・金属製品などのいずれかが出土している。さらに、直径20～30cmの石や梅種などが検出され、あきらかに鹿絶の祭祀が実施されたと推測できる井戸も存在している。

SE9 (図版2・3)

調査区西側先端部(2G17～22)にある井戸で、B類に分類される。平面形は、上部は方形と推定(一部調査区外のため)、底部は円形である。断面形は箱形を呈している。覆土は8層からなり、3層までは、黒色土、暗黒色土が水平に堆積しているが、4層からは、西側から東側に傾斜した状態で堆積している。

SX10との切り合いがあり、西側に深く掘り込まれている。

遺物は各層位から出土しているが、土師質土器、白磁が多い。最下層からは、漆碗などの木製品、炭化米などが検出されている。

SE101 (図版9・10)

方形区画南端(2M8)に位置する井戸で、C類に分類される。平面形は、上部は楕円形、底部は方形である。断面形はU字形を呈する。覆土は10層であり、1層灰黄褐色土、2層黒色土の両端はP2M4、5、7との切り合いにより4層のぶい黄褐色土が混入したと推定される。5、6層の黒色土、黒褐色土片端には黄色土が混入している。9層は、燃やされた木が腐りゲル状化した黒色土、10層は水分の多い灰色土である。

出土遺物は、各層位から出土しているが、特に6層から土師質土器の出土が多い。最下層からは、腐蝕化した杭、自然木、炭化米、種(不明)が検出されている。

SE104 (図版9・10)

方形区画南端(2M10)に位置する井戸で、C類に分類される。平面は、上部は楕円形、底部は方形を呈し、東側の深度約50cmの部分がテラス状になっている。断面は、U字形と推定される。覆土は10層であり、下部の8層は黒色のゲル状、7層は黒褐色シルトであり、一度に埋められたと推定される。中部から上部にかけては、褐灰色シルト、灰黄色シルトがレンズ状に堆積している。遺物は各層位から主に土師質土器、土師器、須恵器、鉄滓が、7層から珠洲焼甕が検出された。最下層からは、炭化米が検出されている。

SE125 (図版9・10)

調査区南側の遺構密集区域(3M22)南側に位置する井戸で、D類に分類される。平面形は、上部、底部とも楕円形を呈している。断面形は、U字形である。覆土は3層からなり、ほぼ水平に堆積している。1層は、灰褐色と黒褐色のしまりの強い混合土、2層は、全体的に黒色が強まる黒褐色土、3層はしまりの弱い黒色土である。出土遺物は、1層～2層にかけ砥石、軽石、土師器、須恵器、土師質土器、珠洲焼が検出されている。土器では、完形を含む土師質土器が7割を占める。泥化した最下層からは、漆碗、竹札などの木製品が多数出土している。

SE180 (図版9・10)

方形区画南端中央部(2M17)に位置する井戸で、C類に分類される。平面形は、上部は方形、底部は隅丸方形を呈する。断面形は、台形と推定される。小判形のSX183と切り合ったSX187の不整形の浅い遺構内であることもあり、最初は、P2M57として検出された。覆土は、9層からなり、ほぼレンズ状に堆積している。1層は灰褐色土、2層は暗褐色土、2～4層は赤褐色土であり、しまりが強い。5層は、黒色の泥化土であり、最下層は、黒色土を少し含有する灰色土である。遺物の出土が少なく、3層から土師質土器1点、5層から石皿1点、最下層から曲げ物側板など木製品3点出土したのみである。

SE205 (図版9・10)

調査区南側の遺構密集区域(3L12)北側に位置する井戸で、C類に分類される。平面形は上部が楕円形、底部は円形を呈する。断面形はロート形であり、上部約0.8mは台形、下部約0.7mはU字形に掘り込まれている。覆土は6層からなり、ほぼレンズ状に堆積している。1層は黒粒が少し混入したしまりの強い灰褐色土、2～3層にかけて褐色が薄れ、4層はシルト化した薄い褐灰色土である。5層は褐灰色粘質土、最下層は、黒褐色粘質土である。1～4層からは、土師器、土師質土器、5層からは、珠洲焼、最下層から

らは、漆椀、折敷、木札などの木製品が多数検出されている。

SE236 (図版18・19)

区画溝東端(4L12・17)に位置する楕円形を呈する井戸で、A類に分類される。平面形は、上部が長軸3.36m、短軸2.99mの楕円形、底部は長軸1.6m、短軸0.7mの方形であり、検出された井戸のなかでは最大であるが、深さは1.4mである。断面形は上部の広いU字形を呈している。南側深さ約0.5mの底部が三日月形テラス状になっている。覆土は6層からなり、ほぼレンズ状に堆積している。南側が浅く、北側が深く掘られている。1～3層から土師器、須恵器、土師質土器、珠洲焼、越前、灰軸陶器、鉄滓が検出されている。最下層からは、漆椀、折敷などの木製品が多く検出されている。

SE407 (図版5・6)

建物群の中心部と推定される調査区西側(2112)にある井戸で、B類に分類される。平面形の上部は隅丸方形、底部は楕円形である。断面形はU字形を呈するが、8層から一回り狭く掘り込まれ、最深部12層は乳首状となっている。覆土は12層からなり、ほぼレンズ状に堆積している。1層～5層は、しまりの強い赤褐色土と暗褐色土である。6層(炭化物を多く含んだ黒色シルト)と8層(灰褐色粘質土)に7層の褐灰色砂質土が混入している。この層からは、土師質土器が多く出土している。9層、10層は、墨などが混入したしまりの弱い黒色土であり、木製品が多く出土している。11層はしまりの弱い灰色粘土、最下層は、泥状の黒色土であり、胡桃種、桐種などが検出されている。SK55、403、P2115、51と切り合っている。

SE432 (図版5・10)

調査区中央部(3K17)ある井戸でC類に分類される。平面形は、上部は楕円形、底部は円形である。断面形は、箱形である。覆土は5層からなり、1層は、炭化物を多く含むしまりの強い灰褐色シルト、2層は、ややしまりのある黒褐色シルトである。3層は、ややしまりのある暗オリーブ灰色シルトである。4層は、炭化物が混入した黒褐色シルトが約6cm堆積している。5層は、暗オリーブ灰色である。出土物は、1～3層にわたり、磁石、土師器、土師質土器、珠洲焼、4層から曲げ物底板が検出されている。

SE435 (図版9・17)

調査区中央部(3K24)にある井戸で、B類に分類される。平面形は、上部は楕円形、底部は方形を呈する。断面形は台形であり、深さ約2.4mの一番深い井戸である。覆土は8層からなり、上部はほぼ水平に堆積しているが、中位の4層と5層に地山と推定される青灰色土がブロック状に混入している。底部の7層は黒色土が混入した灰色粘質土、8層は黒灰色砂質土であり、最下部には約2cmの粗砂の堆積が検出された。1～4層にわたり土師器、須恵器、土師質土器、珠洲焼、灰軸陶器、4層及び最下層からは漆椀などの木製品が検出されている。

F 土 坑

土坑として確認したものは全体で129基ある。

SK33 (図版5・6)

2J24・25、2K4・5に位置する。平面形は楕円形で長軸3.8m、短軸2.92mである。掘形は台形で、深さ0.66mを測る。覆土は4層に分層される。覆土中から土師質土器(小)・珠洲焼鉢などが出土している。

SK42 (図版2・3)

2H18・22・23に位置する。平面形は楕円形で、長軸1.39m、短軸1.14mである。掘形は台形で、

深さ1.33mを測る。覆土は12層に分層される。覆土中から越前播鉢(図版23 56)や土師質土器皿・青磁碗・須惠器環、茶臼(図版32 308)・砥石などが出土している。SK43を切り、SK41に切られている。SK71(図版5・6)

2J10、3J1・6に位置する。平面形は楕円形で、長軸1.18m、短軸1.15mである。掘形は台形で、深さ0.93mを測る。覆土は9層に分層される。覆土中から土師質土器皿が出土している。SK417を切り、SK418に切られている。

SK79(図版5・6)

2I13・14・18・19に位置する。平面形は楕円形で、長軸2.73m、短軸2.12mである。掘形は皿形で、深さ0.49mを測る。覆土は6層に分層される。覆土中から土師質土器皿(図版25 138)が出土している他、石鍋も1点出土している。Pit2I52・53・54・55・56を切っている。

SK80(図版5・6)

2I17・18・22・23に位置する。平面形は楕円形で、長軸1.55m、短軸1.27mである。掘形は漏斗形で深さ0.48mを測る。覆土は3層に分層される。覆土中から土師質土器皿(図版23 57~64)が出土している。P2I75を切り、P2I74に切られている。土師質土器皿がまとめて出土していることから祭祀に関連した土坑の可能性はある。

SK81(図版2・3)

2F22・2G2に位置する。遺構の本体は調査区域外に延びる。平面形は方形と推定される。長軸約2.48m、短軸約2.76mである。掘形は箱形で深さ96cmを測る。覆土は8層に分層される。覆土中から土師質土器皿・白磁皿(図版23 65~70)などが出土している。SK81内に5基のピットが確認されている。

SK86(図版2・3)

2G7・12に位置する。平面形は三角に近い不整形で、長軸1.35m、短軸1.17mである。掘形は台形で深さ1.24mを測る。覆土は6層に分層される。覆土中から土師質土器皿(図版23 72~96)・珠洲焼甕(71)・白磁皿(97)などが出土している。

SK89(図版5・6)

3I17~19・21~24、3J1~3・6~8に位置する。平面形は楕円形で、長軸5.77m、短軸3.81mである。掘形は台形で深さ0.87mを測る。覆土は8層に分層される。覆土中から土師質土器・珠洲焼鉢・美濃焼・白磁甕・須惠器環などが出土している。

SK93(図版5・6)

3J8・13に位置する。平面形は楕円形で、長軸1.64m、短軸0.99mである。掘形は台形で深さ37cmを測る。覆土は3層に分層される。覆土中から土師質土器皿・須惠器環・甕などが出土している。Pit3J95に切られている。

SK94(図版5・6)

3J22に位置する。平面形は隅丸方形で、1辺が約0.96mである。掘形は台形で深さ1.04mを測る。覆土は5層に分層される。覆土中から土師質土器皿が出土している。

SK95(図版5・6)

2J20に位置する。平面形は楕円形で、長軸1.11m、短軸0.98mである。掘形は台形で深さ0.87mを測る。覆土は4層に分層される。覆土中から土師質土器皿が出土している。

SK96 (図版5・21)

2J20・25、3J16・21・22、3K1・2に位置する。平面形は不整形で、長軸4.6m、短軸2.4mである。掘形は皿形で深さ0.18mを測る。覆土は2層に分層される。覆土中から土師質土器皿・碗、珠洲焼鉢などが出土している。

SK207 (図版18・19)

3L13・14・18・19に位置する。平面形は楕円形で、長軸2.68m、短軸2mである。掘形は漏斗形で深さ0.88mを測る。覆土は7層に分層される。出土遺物はない。SK207は、1つの遺構として検出されているが、土層断面図より2つの遺構が切り合っている可能性が高い。

SK221 (図版20・21)

4O1・6に位置する。平面形は楕円形で、長軸0.6m、短軸0.54mである。掘形は台形で深さ0.35mを測る。覆土は2層に分層される。覆土に少量の炭化物を含む。

SK222 (図版20・21)

4O6・7に位置する。遺構の本体は調査区域外に延びる。平面形は楕円形と推定され、長軸約1.36m、短軸約1.1mである。掘形は台形で深さ0.9mを測る。覆土は5層に分層される。出土遺物はない。

SK223 (図版18・19)

3L15・20に位置する。平面形は楕円形で、長軸0.72m、短軸0.52mである。掘形は台形で深さ1mを測る。覆土は2層に分層される。覆土中から土師質土器皿・土師器壺が出土している。

SK232 (図版9・10)

3L22に位置する。平面形は楕円形で、長軸1m、短軸0.72mである。掘形はU字形で深さ1.02mを測る。覆土は6層に分層される。覆土中から土師質土器皿、木製品部材、軽石などが出土している。1層に炭化物を少量含む。

SK234 (図版18・19)

4L18・23に位置する。平面形は楕円形で、長軸0.7m、短軸0.6mである。掘形は皿形で深さ0.16mを測る。覆土は2層に分層される。出土遺物はない。2層に炭化物を少量含む。

SK235 (図版18・19)

4L6・7に位置する。平面形は楕円形で、長軸0.68m、短軸0.52mである。掘形は台形で深さ0.5mを測る。覆土は3層に分層される。出土遺物はない。2層に炭化物を少量含む。

SK371 (図版20・21)

6M5に位置する。平面形は楕円形で、長軸1.5m、短軸1.1mである。掘形は台形で深さ0.22mである。覆土は3層に分層される。出土遺物はない。

SK401 (図版5・6)

2J7・8・12・13に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸1.98m、短軸1.94mである。掘形は皿形で深さ0.38mを測る。覆土は4層に分層される。覆土中から石鍋が出土している。

SK440 (図版18・19)

3K24・25、3L4・5に位置する。平面形は楕円形で長軸1.52m、短軸1.16mである。掘形は台形で深さ1.58mを測る。覆土は8層に分層される。出土遺物はない。2・3層に炭化物を少量含む。

SK444 (図版14・15)

3J4に位置する。平面形は楕円形で、長軸0.48m、短軸0.4mである。掘形は皿形で深さ0.1mを測る。

覆土は単層である。出土遺物はない。

SK452 (図版18・19)

3J9・10に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸0.88m、短軸0.48mである。掘形は台形で深さ0.93mを測る。覆土は3層に分層される。覆土中から土師質土器皿などが出土している。

G 溝

SD303 (図版20・15)

5N16～5M7にかけて南北方向(N-14°-W)に蛇行し、南側は調査区外に延びる。長さは約14m、幅80cm、深さ10～15cmを測る。断面形は皿形である。5N1・6地点の窪みが激しい。覆土は3層からなり、1・2層は灰褐色・灰色粘質土で3層は黒褐色粘質土で形成されている。

SD313 (図版20・21)

5N9・10に位置する。方向は、N-95°-Wを測る。東側に緩く傾斜している。西側は、SK308に、東側は、SK345・346によって切られている。深さは10cmほどである。遺物は、須恵器の坏、白磁の碗、土師質土器皿や古銭・鉄滓などが出土している。

SD372 (図版20・21)

6M22～25に位置する。方向は、N-112°-Wを測り、南側をSD337が並走する。長さ60cm、幅は9～120cmと東方向に向かって広がる。深さ7cmを測る。東方向の伸びは試掘のため不明。SD337同様東方向に緩やかに傾斜している。覆土は、2層からなり上層が灰褐色粘質土、下層が灰色粘質土から形成されている。

SD447 (図版16・18・19)

SD447は、4K17・22・4L2に位置しSD448・SD449の東側を並走する。方向は、N-22°-Wを測る。平面形は、塚状の不整形である。長さ約55cm、幅は20～72cmと北方向に向かって狭くなる。深さは10cmほどである。覆土は単層で灰褐色粘質土である。遺物は、土師質土器皿、伊万里焼の碗が出土している。P4K19・P4K27に切られている。

第V章 遺 物

1 遺物の概要

種類と遺物量

今回の調査で平箱110箱の遺物が出土した。その内訳は、土器・陶磁器56箱、木製品13箱、石製品26箱、金属製品・土製品3箱、その他井戸の最終堆積土の水洗作業によって確認された植物遺体、昆虫など5箱である。土器・陶磁器類では、多くが中世（土師質土器、珠洲焼、青磁、白磁）である。その中でも土師質土器が73%を占める。残りは珠洲焼23%、青磁・白磁などの陶磁器類が4%であった。

出土状況

遺物は表土からV層まで出土している。Ⅲ層までは各時代のものが混然と出土している。反面低地側のⅣ層、V層からは中世の遺物がまとめて出土している。しかし遺物包含層の遺物量は遺構出土のものに比較して量は少ない。本報告では、遺構出土の遺物を中心に図化した。遺物包含層については、土器総量の個体数検討で確認した。鉄製品や製鉄関連遺物は包含層からの出土が主体である。

各時代の遺物の概要

縄文時代の遺物

縄文時代の遺物には、土器細片と石斧がある。B区のⅢ層掘り下げの時に検出された。ここでは図示していない。遺跡の西側に剣野遺跡群が近接しており、これらの遺跡からの搬入物と考えられる。

古墳時代の遺物

古墳時代の土師器がある。壺類が主体でA地区の溝などから数点出土している。本遺跡の確認調査では東側に古墳時代の遺物が多く出土する地点があり、今後の調査では古墳時代の遺構確認が推定される。

古代の遺物

古代の土器には、須恵器、土師器がある。古代の土器類はSD301やSD145などの覆土上層や、性格不明の低地やくぼ地の覆土上層から出土しており、後世の流れ込みと考えられる。今回の調査地区以外の周辺に古代の遺跡が存在する可能性がある。

中世・近世の遺物

中世の遺物は、陶磁器、木製品、石製品、鉄製品、土製品がある。そのほかに井戸の最下層の土からは種子などの植物遺体や昆虫の羽などが確認された。

土器・陶磁器類 土器・陶磁器類には、珠洲焼、土師質土器、青磁、白磁、染付、瀬戸美濃、越前、唐津などがある。多くは土師質土器や珠洲焼であり、出土土器類の9割である。

木製品 木製品は主として、井戸などの深度の深い遺構から検出された。他に、A区とB区の間

の農道の下の水分の多い地点からも木片が検出されている。また調査区中央の低地からは、倒木なども確認されている。検出された木製品には漆碗や箸などの食器類、工具類、木札類、建築部材がある。また井戸内からの遺物には一部が炭化したものがある。

石製品 石製品には、石臼、茶臼、石鍋などのほか川原石を砥石や凹石に利用したものがある。これらの遺物は井戸や土坑などの底部に近い層位から出ている。凹石等は火を受けて炭化物が付着しているものが多い。

金属製品他 金属製品には、製品と製鉄関連遺物の鉄滓、羽口などが出土している。全体の80%は製鉄関連遺物である。出土は遺物包含層からのものがほとんどである。

では各遺物の種別ごとに詳細を記述する。

2 遺物各説

A 土器・陶磁器

1) 土器・陶磁器類の分類

土師質土器の皿は、製作技法や法量、器形に基づいて分類した(第2表)。口径は、B I類が12~13cm、B II類が9cm、C I類が12~14cm、C II類が7~9cm、D I類が8~11cm、D II類が5cmに主体がある。その他の土器・陶磁器類の分類・編年などは、以下の各氏の論考に準拠した。須恵器…品田高志氏〔品田1993〕、珠洲焼…吉岡康暢氏〔吉岡1994〕、瀬戸美濃…藤澤良祐氏〔藤澤1995〕、青磁碗…上田秀夫氏〔上田1982〕、白磁皿…横田賢次郎氏・森田 勉氏〔横田・森田1978〕である。

| 製作技法 | 法量 | 器形など |
|------------|----------|---|
| A類 柱状高台 | | |
| B類 手づくね | I : 口径大 | a : 口縁部面取り b : 口縁が大きく開き、身がやや浅い |
| | II : 口径小 | b : 口縁が大きく開き、身がやや浅い |
| C類 手づくね | I : 口径大 | a : 縁部明 ①: 縁部厚い・丸みあり ②: 縁部薄い・やや浅い b : 縁部不明 ①: 外底面凹みあり ②: 外底面凹みなし |
| | II : 口径小 | a : 縁部明 b : 縁部不明 |
| D類 糸切り | I : 口径大 | |
| | II : 口径小 | |

第2表 土師質土器皿の分類表

2) 遺構出土の土器・陶磁器 (図版22~27 1~211)

SD145 (1~10)

須恵器は壺(1・2)や甕(3)の破片が確認できる。土師質土器皿はA類(4・5)、C I b類(6)、C II a類(7・8)が確認できるが、A類は底部のみ遺存する。9はII期頃の珠洲焼の甕である。このほか、珠洲焼の播鉢、須恵器の坏・坏蓋なども出土した。

SD301 (11~39)

須恵器は有台坏(11)と甕(12)を図示する。11は体部下平に丸みを帯びる。8世紀後半頃の所産であろう。珠洲焼では壺(13)、甕(14・15)、片口鉢(16~25)の器種が揃う。13は壺T種で、口縁端面内面はつまみ上げられる。II期頃の所産であろう。甕はII期(15)とV期(14)所産である。播鉢は16がII期、17・18がIII期、19がIII~IV期に位置づけられる。26は瀬戸美濃の袴形香炉で、古瀬戸中期様式IV期の所産である。土師質土器皿はB I a類(27・29)、C I b①類(28)、C I a②類(30~33)、C II b類(34・37・38)、C II a類(35・36)が確認できる。B I a類(27・29)はSD301・SK11以外の遺構では確認しにくい。39は白磁の端反碗で、V類に分類できようか。このほか須恵器の壺、青磁の碗皿類なども出土した。

SD302 (40~43)

土師質土器皿はC I a①類 (40・41)、C I a②類 (42) で、稜の明確な皿が多い。43は竊連弁文が認められる青磁の碗で、B類に相当する。高台は打ち欠かれる。13世紀末~14世紀初頭の所産である。このほか珠洲焼の播鉢なども出土した。

SE9 (44~46)

土師質土器皿はC I b類 (44)、C II b類 (45) である。口径も大小2法量で、稜の不明確な皿が多い。46は灰軸陶器の碗で、高台の断面は方形を呈する。10世紀の所産であろう。このほか須恵器の坏なども出土した。

SE125 (47)

47は土師質土器皿のC I a①類である。このほか珠洲焼の播鉢なども出土した。

SK134 (48)

48は土師質土器皿のC I b①類である。

SK2 (49)

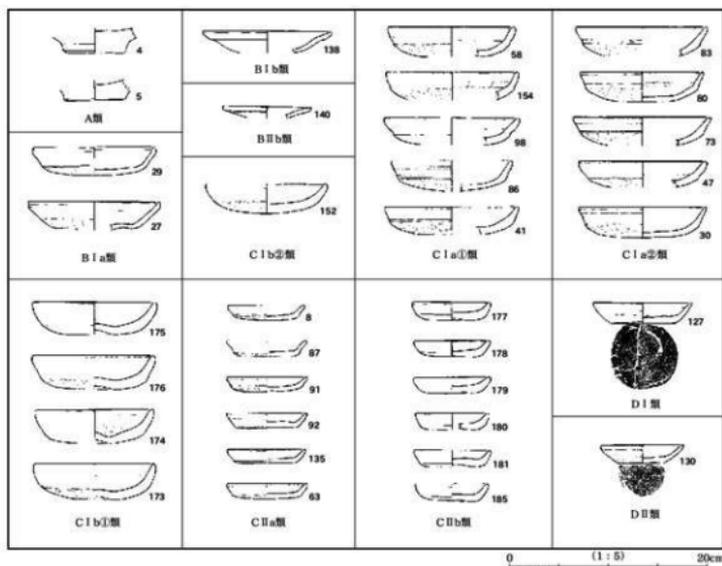
49は土師質土器皿のC II a類である。このほかC I類も出土した。大小2法量が確認できる。

SK11 (50)

50は土師質土器皿のB I a類である。このほか土師器の碗(古代)なども出土した。

SK20 (51)

須恵器の坏蓋を1点図示した(51)。このほか土師質土器皿のC II類なども出土した。



第6図 土師質土器皿分類図

SK28 (52～54)

珠洲焼は播鉢(52)と甕(53)を図示した。52の口縁端部外側は面取りされる。52・53はともにⅡ期の所産である。土師質土器皿はCⅡb類を1点図示した(54)。このほか珠洲焼の壺、須恵器の坏なども出土した。

SK35 (55)

55は土師質土器皿のCⅠa①類である。このほかCⅡ類なども出土した。大小2法量が確認できる。

SK42 (56)

越前焼の播鉢を1点図示した(56)。16世紀の所産であろうか。このほか須恵器の坏、土師質土器皿のCⅡ類、青磁の碗なども出土した。

SK80 (57～64)

土師質土器皿はCⅠa②類(57・59)、CⅠa①類(58)、CⅡb類(60)、CⅡa類(61～64)である。このうち57の口縁部には2段ナデが施される。口径も大小2法量確認でき、種の明確な皿が多い。

SK81 (65～70)

土師質土器皿はCⅠb①類(65・66)、CⅠa①類(67)、CⅡb類(68)、CⅡa類(69)で、種の不明確な皿が目立つ。70は口禿の白磁皿で、IX類に分類できる。13世紀中葉～14世紀初頭の所産である。

SK86 (71～97)

珠洲焼はⅡ期の甕を図示した(71)。土師質土器皿はCⅠa②類(72～86)、CⅡa類(87～92)、CⅡb類(93～96)が確認できる。CⅠ類は種の明確な皿がほとんどで、CⅡ類も種の明確な皿が多い。79・81・84の口縁部には2段ナデが施される。97は口縁部が内湾する白磁の皿で、15世紀前半に比定する。なお97は混入の可能性もある。このほか珠洲焼の播鉢なども出土した。

SK90 (98・99)

土師質土器皿を2点図示した。CⅠa①類(98)とCⅡb類(99)が確認できる。

SK95 (100)

100は底面に糸切り痕の残る土師質土器皿で、A類に分類する。このほかCⅡ類なども出土した。

SE101 (101)

土師質土器皿を1点図示した(101)。CⅠb類に分類できる。このほか土師質土器皿のCⅠ類・CⅡ類なども出土し、大小2法量が確認できる。

SE113 (102)

102は小泊産須恵器の壺で、口径12cmを測る。9世紀後半頃の所産であろう。このほか土師器の碗(古代)、須恵器の甕類も出土した。

SE115 (103～105)

珠洲を3点図示した。103・104は片口鉢で、それぞれⅡ期、Ⅳ期の所産である。このほか土師質土器皿のCⅠ類・CⅡ類なども出土し、大小2法量が確認できる。

SE116 (106)

珠洲焼の壺を1点図示した(106)。このほか土師質土器皿のCⅡ類なども出土した。

SK122 (107)

107は須恵器の坏で、器壁は薄い。9世紀前葉～中葉の所産である。このほか土師質土器皿のCⅠ類・CⅡ類なども出土しており、大小2法量が確認できる。

SX123 (108～110)

珠洲焼は2点図示した(108・109)。108はⅢ期の甕、109は体部に把手の痕跡が確認できることから、双耳壺ないし四耳壺と思われる。V期頃の所産であろう。110は古墳前期の壺である。このほか土師質土器皿のCⅡ類なども出土した。

SK130 (111)

111は土師器の長胴甕である。口径は20cmを測る。

SE131 (112・113)

112は土師質土器皿のCⅠa①類、113は珠洲焼の甕である。

SX143 (114・115)

114は珠洲焼の壺、115は土師質土器皿のDⅡ類である。

SK185 (116)

116は須恵器の有台円で、高台の断面は丸みを帯び、器形はやや開く。8世紀末頃の所産であろう。

SK200 (117)

土師質土器皿を1点図示した(117)。DⅠ類に分類できる。このほか土師質土器皿のCⅠ類・CⅡ類なども出土した。大小2法量が確認できる。

SE205 (118・119)

118は珠洲焼の壺、119は土師質土器皿のCⅠb①類である。このほかに土師質土器皿のCⅡ類なども出土した。

SK206 (120～123)

120は珠洲焼の播鉢で、Ⅳ期の所産である。122・123は土師質土器皿で、ともにCⅠa①類に分類できる。このほか土師質土器皿のCⅡ類、青磁の碗皿類なども出土した。

SK207 (124)

124は須恵器の甕で、外面に叩き目、内面に当て具痕が残る。

SK355 (125・126)

125は弥生後期～古墳前期の甕で、有段口縁を持つ。126は125と同一個体の可能性のある甕である。このほか土師質土器皿のCⅡ類なども出土した。

SK431 (127)

土師質土器皿を1点図示した(127)。DⅠ類に分類できる。このほかCⅡ類なども出土した。

SE432 (128・129)

128は土師質土器皿のCⅡb類、129は珠洲焼の甕である。このほかに土師質土器皿のCⅠ類なども出土した。

SE435 (130・131)

130は土師質土器皿のDⅠ類である。131は珠洲焼の播鉢で、口縁内端面は面取りされる。Ⅵ期の所産である。このほか須恵器の坏、珠洲焼の壺、土師質土器皿のCⅠ類なども出土した。

SK437 (132)

132は珠洲焼の壺で、外面に格子目の叩打文が施される。Ⅱ～Ⅲ期頃の所産である。

SX1 (133・134)

133は珠洲焼の播鉢である。134は土師器の甕で、時期は古代に属する以外明確ではない。このほか

土師質土器皿のCⅡ類なども出土した。

SE8 (135・136)

135・136は土師質土器皿で、CⅡa類(135)とCⅠb類(136)に分類できる。大小2法量が確認できる。このほか珠洲焼の播鉢なども出土した。

SX31 (137)

土師質土器皿を1点図示した(137)。CⅠa②類に分類できる。このほか須恵器の坏、土師質土器皿のCⅡ類なども出土した。土師質土器皿は大小2法量が確認できる。

SK79 (138)

土師質土器皿を1点図示した(138)。BⅠb類に分類できる。このほかCⅠ類・CⅡ類なども出土した。

SK89 (139～142)

139・140は土師質土器皿で、CⅠa①類(139)とBⅡb類(140)に分類できる。141は白磁の碗Ⅱ類であろうか。142は瀬戸美濃の天目碗で、15世紀後半の所産である。このほか須恵器の坏、珠洲焼の甕・播鉢、土師質土器皿のCⅡ類なども出土した。

SX117 (143)

143は竊蓬弁文が認められる青磁碗でBⅠ類に分類できる。13世紀末～14世紀初頭の所産である。高台は打ち欠かれる。

SX135 (144)

土師質土器皿を1点図示した(144)。CⅠa①類に分類できる。このほか須恵器の坏蓋、土師質土器皿のCⅡ類なども出土した。

SK142 (145～148)

須恵器は2点図示した(145・146)。145は有台坏である。高台は内端で接地し、体部下半にやや丸みを帯びる。8世紀後半頃の所産であろう。147・148は珠洲焼の播鉢である。147の口縁内端面には櫛目波状文がめぐらされる。Ⅵ期の所産である。このほか土師質土器皿のCⅠ類、青磁の碗なども出土した。

SX171 (149～154)

土師質土器皿はCⅠa①類(149～151・153・154)とCⅠb②類(152)で、CⅠa①類が多い。このほか土師質土器皿のCⅡ類、白磁の碗Ⅸ類なども出土した。土師質土器皿は大小2法量が確認できる。

SX187 (155～157)

155は土師質土器皿のDⅠ類である。156・157は珠洲焼の播鉢で、ともに口縁内端面が面取りされ、156は稜を有する。156はⅤ期、157はⅥ期の所産である。このほか土師質土器皿CⅡ類なども出土した。

SX188 (158)

158は越前焼の壺だろうか。このほか珠洲焼の甕なども出土した。

SX214 (159)

159は弥生後期～古墳前期の甕で有段の口縁には擬凹線がめぐる。このほか須恵器の坏なども出土した。

SE236 (160)

珠洲焼の播鉢を1点図示した(160)。

SX321 (161・162)

161・162はともに土師質土器皿で、CⅡa類(161)、CⅡb類(162)に分類される。このほかCⅠ類も出土した。土師質土器皿は大小2法量が確認できる。

SX322 (163・164)

163は竊蓮弁文が施される青磁盤で、口縁部は外反する。13世紀末～14世紀初頭に比定しておく。164は土師質土器皿のCⅡa類である。このほか土師質土器皿のCⅠ類も出土した。

SX326 (165)

土師質土器皿を1点図示した(165)。CⅡb類に分類できる。

SX408 (166)

土師質土器皿を1点図示した(166)。CⅡb類に分類できる。

SK445 (167～194)

167～169は珠洲焼で、167はⅢ期の甕、168はⅣ期の播鉢である。170は蓮弁文が施される青磁の碗である。内底面に双鱼文が確認でき、高台断面は三角形を呈する。BⅠ類に分類する。14世紀中葉の所産である。土師質土器皿はCⅠa①類(171)、CⅠb①類(172～176)、CⅡb類(177～194)が確認でき、稜が不明瞭な皿が目立つ。このほか土師器の碗(古代)、須恵器の坏、珠洲焼の甕なども出土した。

SX462 (195)

青磁の碗を1点図示した(195)。B類に分類できようか。14世紀代に比定しておく。このほか土師質土器皿のCⅠ類なども出土した。

ビット出土の土器・陶磁器類 (196～211)

ビット出土の土器・陶磁器類を一括して記述する。201は古墳前期の高坏である。196は10世紀の土師器の碗で、外底面に糸切り痕が残る。198はⅢ期頃の珠洲焼の甕であろうか。土師質土器皿はCⅡa類(197)、CⅠa①類(199)、CⅠa②類(208)、CⅡa類(211)の4点を図示した。

204・209は竊蓮弁文が施される青磁の碗で、BⅠ類に分類される。13世紀末～14世紀初頭の所産である。200は青磁の端反碗で、D類に分類できる。14世紀の所産である。207は口縁部が内湾する青磁碗E類で、口縁端部は肥厚する。15世紀前半に位置づけておく。206は白磁の皿で、口縁端部は面取りされ、平坦になる。203は白磁の合子蓋で、内面には施軸されない。

3) 包含層出土の土器・陶磁器類 (図版27 212～220)

包含層出土の土器・陶磁器類は種類ごとに記述する。

土師器 (213)

213は土師器の碗で、外底面には糸切り痕が確認できる。10世紀初頭の所産である。

須恵器 (212)

須恵器は甕を1点図示した(212)。

青磁 (214～216)

214の器種は盤で、163と同じ器形となる。215は碗で、BⅠ類に分類できる。214・215ともに竊蓮弁文が認められ、年代は13世紀末～14世紀初頭に比定する。216もB類に分類しておく。

白磁 (217～220)

217は口禿の口縁を持つ皿Ⅲ類で、13世紀中葉～14世紀初頭の所産である。218は内底面が蛇ノ目状に軸割ぎされる皿Ⅲ類で、12世紀中葉～後半の所産である。外底面に炭化物が付着する。219は白磁の碗で、高台内は施軸されない。外面は体部と高台の境付近まで施軸され、一部高台まで軸がかかる。220は白磁の皿であろうか。口縁部にのみ施軸される。

B 木製品 (図版28～31 237～306)

木製品は井戸や土坑からの出土がほとんどである。杭類を除けば、漆器や皿、箸などの食膳具や折敷や柄杓、曲物などの容器類が大半を占める。漆器類では、完形のものはいくつか、中世漆器の特色となる赤漆で文様が描かれた漆絵漆器の割合が高い。文様は、藤模様や唐傘模様のように繊細なものからダイナミックな植物模様まで様々である。以下、主な遺構ごとに報告する。

SE9 (237～242)

237は漆器碗である。身が深く強く内湾しており口径は14cmと大きめである。高台は低い。内外面黒色漆地に赤色漆で植物文が描かれている。238は漆器皿である。丸底で口径部は欠失している。内外面黒色漆地に赤色漆で植物文が描かれている。239・240は曲物側板である。239は内面は約1cm間隔でケビキが認められる。外面は斜めに線状痕が数本認められる。240は釘結合曲物の側板である。木釘穴が3か所見られる。241は依扁のみである。周囲を面取してある。片側半分が欠損している。242はV字状の切り込みが2か所ある。厚さはほぼ均一である。全面がこげしており両端が欠損している。用途不明であるが部材の一部と思われる。

SE111 (243～244)

243は御膳の脚部である。精巧な作りであり、全面黒色漆塗りである。上端部表面に赤漆が残っていることから膳の表面の部分は赤色漆が塗られていたと思われる。244は箸。長さ20.9cmで周囲に面取を施し断面は隅丸長方形を呈する。両端を尖らせてある。

SE125 (245～247)

245～247は漆器碗である。245は身が深く強く内湾しており、口径は13cmである。内外面とも黒色漆地に赤色漆で唐傘文が描かれている。文様は精巧に描かれており赤色漆の色も鮮やかである。高台ははがれており高さは不明である。246は高台の一部が残存するがすり減っている。口径部も欠失している。内外面とも黒色漆塗りで見込みに赤色漆で舟(?)の文様が描かれている。247は口径は、大きく19.4cmを測り、身は緩やかに斜上方に開いている。高台はなく丸底と思われる。内外面とも黒色漆地に赤色漆で藤の文様が描かれている。245と同様精巧に描かれており赤色漆の色鮮やかである。

SK143 (248・249)

248と249は同様の部材と思われる。断面約4cmの方形を呈する角材で、一辺約2.5cmほどの方形の穴が8cm間隔で2か所見られる。

SE205 (250～256)

250～253は折敷である。250は周縁に木釘穴が4か所見られる。内2つは2列に並んでいる。表面は、多数の線状痕が見られ組板に転用されたものと考えられる。251は周縁に木釘穴が2か所見られる。留め皮が残存している。線状痕も見られる。252は周縁に4か所、側面に1か所、計5か所の木釘穴が見られる。多数の線状痕が見られ組板に転用されたものと考えられる。数か所にこげ跡も見られる。253は木釘穴が1か所、周縁部には止め皮の穴が2か所見られる。止め皮も一部残存している。線状痕が見られ他の折敷同様組板に転用されたものと考えられる。254～256は碗である。254は内面、黒色漆地に赤色漆塗りで、外面は黒色漆地に赤色漆で文様が描かれている。総高台で底部部まで黒漆がしっかり塗られているが、かなりすり減っている。口径は欠失している。255は丸底碗で轆轤痕が見られる。唯一漆が塗られていない。256は内外面黒色漆塗りで、見込みに赤色漆で文様が描かれている。245や247の漆碗

の文様と違い、大胆なタッチの文様である。丸底高台であり、高さはすり減っており不明であるが、幅は厚くしっかりしている。

SK206 (257・258)

257は釘結合曲物の底板である。木釘穴が周縁に1か所、側面に3か所、計4か所見られる。258は箸。周囲を面取りし、断面形は円形に近い。片端が欠損しているため実際の長さは不明である。先は尖らせてある。

SK223 (259)

259は箸。周囲を面取りしてあり、断面形は隅丸方形に近い。長さは23.3cmを測り、両端を尖らせてある。

SK224 (260・261)

260・261は漆器皿である。ともに内外面とも黒色漆塗りである。261は口縁部が欠失しており高さは不明。見込みに赤色漆で文様が描かれている。

SK227 (262～264)

262～264は箸。長さ19～20cm。周囲面取りし断面は方形(263)または長方形(262・264)を呈する。すべて完形に近く両端は尖らせてある。

SK232 (265)

265は部材と思われる。断面の一边が4cmの角材に約3.5cmの方形の切り込みが2か所見られる。左端部にこげ跡あり。

SE236 (266)

266は部材と思われる。表面に5cm×3cm、深さ1.5cmほどの隅丸長方形の凹が見られる(突き抜けではない)。また、加工痕の形状から同様の穴が左端にもあったものと推察される。

SK239 (267)

267は曲物の柄杓である。身のみとどめる。側板の綴じ合わせは1か所。1列内2段綴じ。側板の対応位置に柄孔を開けるが、綴じ合わせ部分の孔が大きく上寄りであり、対応する中位の孔は小さい。底板との結合は、木釘穴がないことから木釘は使われていなかったと思われる。

SD301 (268)

268は底板である。側面には底板同士を継ぎ合わせるための隅丸形を呈する木釘穴が2か所あり、木釘の一部が遺存する。厚さはほぼ1cmほどある。

SK402 (269～271)

269は底板である。周縁部側面は裏面に対して斜めに削られている。また、側面に木釘穴がないことから側板との結合には木釘は使われていなかったと思われる。表面に漆が付着している。270は板材の一部と思われる。両端とも切断と思われる切り跡痕が多数見られる。厚さが4.2cmもあることから礎板の可能性もある。271は木杭の先端部分である。6面にカットされている。

SE407 (272～274)

272は漆器椀である。歪みはあるがほぼ完形に近い。内外面とも黒色漆塗りである。文様は認められない。高台は欠失しており、外面底部の漆も剝離されている。273は曲物の側板である。径は30cmを超える大型の曲物である。底板は遺存しない。側板の綴じ合わせは1か所。2列内4段綴じである。側板下部に木釘穴と思われる穴の一部が数か所に見られる。274は断面ほぼ方形の板材である。先端部にこげ跡が認められる。

SE432 (275・276)

275・276は曲物の底板である。275は一端が欠損しており、剥離が進んだのか表面の凹凸が激しい。周縁部に1か所こげ跡が見られる。276は釘結合曲物の底板である。一端が欠損しており表面の凹凸も激しい。側面に木釘痕が1か所見られる。

SK434 (277～280)

277～279は曲物の底板である。277は側面に木釘痕が1か所見られる。表面の一部と裏面全体にこげ跡が見られる。278は底板両側面に底板同士を繋ぎ合わせるための方形の木釘痕が計5か所見られる。周縁部側面にも方形の木釘痕が4か所見られる。表面に線状痕が数本認められる。裏面は全面こげ跡を残す。279は表面の中央付近に孔1つ、側面に木釘穴が1か所見られる。280は曲物の柄杓である。身のみとどめる。側板の組む合わせは1か所。1列内2段組じと思われる。組む合わせ部分の反対側中央やや下寄りに小さな孔が認められる。この孔を補強するために榫皮が利用されている。欠損しているが、側板の対応位置に寄りに柄孔があったものと思われる。底板との結合は、木釘穴が認められないことから木釘は使われていなかったと思われる。

SE435 (281～294)

281は木札である。上端が圭頭状に加工されており、上部中央に小さな孔が1つある。厚さは0.1cmとごく薄く作られている。下部が欠損しており文字などは認められない。282・283は漆器椀である。282は変形が激しい。内外面とも黒色漆塗地に赤色漆で植物文が描かれている。轆轤整形痕を残す。身は緩やかに斜上方に開いている。高台は低い。283はほぼ完形である。282同様外面黒色漆地に赤色漆でダイナミックに植物文が描かれている。内面は、赤色漆塗り。身は内湾し高台は低い。底外面の高台縁から中心部に向かって1cmほど＝線が彫り込まれている。284～286は曲物の底板である。284は周縁部にほぼ等間隔で断面方形の孔が3つ穿たれている。裏面にこげ跡を残す。表面に線状痕がある。285は周縁部側面に底板と結合するための木釘穴が2か所、底板同士を結合するための木釘穴が3か所見られる。表面には周縁部に沿って4つの孔が見られる。286は表面に大きさ、断面形とも不揃いの孔が5つ見られる。287・288は下駄である。287は台部が長円形の露卯下駄である。すべての緒穴は丸く、前緒穴はほぼ中央に、横緒穴は後歯より前方に開けられた前穴式である。歯を装着するための穴は前後2穴ずつある。歯は穴部分のみ残存している。288は連歯下駄である。前緒穴は前歯の直前中央に、横緒穴は後歯より前方に開けられた前穴式である。表面はすれて滑らかである。289は柱根である。芯持丸材で断面形は楕円形である。下端木口は手斧痕を残す。その木口はほぼ平坦である。上端は意図的に切断されたものと思われる。290～292は杭である。ともに芯持丸材で断面形は丸形である。特に291は鋭く先端が尖っている。290は、先端部が切断され尖っていない。293は上部のY字形部分を利用したものと思われる。両先端部はほぼ同じ長さで丁寧に切断されている。下部欠損のため長さは不明である。294は木札である。両端からそれぞれ5cmほどの所の左右両端に切り込み痕が見られる。幅は、2～3cmと細長台形状に広がっている。厚さは0.6cmでほぼ均一である。用途は不明である。

P2199 (295～297)

295は上部に五輪塔をかたどったと思われる切り込みが認められる。魔除けの言葉である「蘇民将来」と推察される墨書が認められるが、表面が平らに削られておりはっきり判読できない。上部中央部に孔が1個見られる。下部は欠損している。296は柱根である。芯持丸材で断面形は丸形、下端木口は平坦である。上部は炭化している。297は芯持丸材の杭の先端部である。

包含層出土 (298～306)

298はへら状の板材である。上部を大きく面取してある。先端部にこげ跡を残す。299・300は杭である。299は先端部を鋭く3面に削り取ってある。上部は自然木のまま利用してある。300は杭である。両端は荒い手斧痕があり、尖っている。表面には斜めの線状痕が多数見られる。301はこまである。全体の2/3ほどにこげ跡を残す。表面全体滑らかに削られている。下部の先端部(回転軸)は欠失している。302は板材の一部と思われる。303は杭である。先端部は、大胆に切断され、鋭く尖っている。304はほぼ中央に径2.5cmほどの孔を有する部材の一部と思われる。半分ほどが欠損している。305・306はともに木札の一部と思われる。表面は滑らかであるが裏面は凹凸が激しい。厚さは0.4cmと薄い。

C 石製品 (図版32～34 307～333)

SK21 (307)

石錘である。平面が楕円形の偏平碟で、石材は安山岩である。碟長軸の両端を剥離した打欠きの石錘である。

SK42 (308)

1組をなす茶臼である。上臼、下臼とも遺存状態は不良である。上臼の下面の目は、不明瞭ではあるが六分画のパターンと思われる。側面には挽き木を差し込んだと思われる留穴が認められる。石材は細礫岩である。下臼は受皿の端部のみで、石材は細礫岩である。

SK89 (309)

粉挽き臼の上臼である。使用により下面がかなり摩り減っており、目は不明瞭になっているが、六分画のパターンと思われる。側面には挽き木を差し込んだ留穴が認められる。石材は安山岩である。

SK90 (310)

砥石である。角柱状を成し、砥面は主に3面で、それぞれに刃砥ぎの線状痕が付く。上端の欠損面にも線状痕が見られることから欠損後も機能したと思われる。石材は凝灰岩である。

SK108 (311)

凹石である。円形の偏平碟を素材とする。正・裏面中央に浅い凹を持つ。正面には煤が付着している。

SD301 (312)

栓付を呈する石製品である。用途不明。金属器と考えられる刃で全面を細かく削り取っている。その後一部研磨が施されていることから、石製品の製作途中品と考えられる。石材は凝灰岩である。

SK423 (313)

砥石の欠損品である。砥面は主に正裏の2面である。上端面は内湾状の切り出し面で、その後若干の砥面としても利用している。石材は凝灰岩である。

SE432 (314)

下端を欠損する砥石である。砥面は4面である。正面と両側面には、幅7mm前後、深さ3mm前後の断面U字形の溝状の砥面がみられる。席題は凝灰岩である。

SK445 (315)

鈎付きの石鍋で滑石製である。口縁部約75%、体部約20%、底部約30%残存する。分量は口径18cm、底径10.6cm、器高7.6cm、重量545gである。厚さは、底部、体部ともほぼ同じで1cm、口縁部のみやや薄く0.7cmくらいである。外面はタテケズリが施され、ケズリ面は2段に分かれる。ケズリ

2 遺物各説

幅は約0.5cmである。内面はタテケズリの後、滑らかに磨かれている。銚は断面台形で口縁から1.3cm下に付いている。銚の厚さ0.6cm、付け根幅1cm、先端幅0.6cmである。

Pit2M64 (316)

板状の砥石である。砥面は主に正裏面と両側面に存在するが、上下端部と右側面下半には、刃砥ぎの線状痕が深く付いている。石材は凝灰岩である。

Pit3J75 (317)

方形柱状の砥石である。砥面は主に4面。正面下半の破砕面も部分的に使用している。石材は凝灰岩である。

Pit3M9 (318)

厚手扁平の礫を素材とした砥石である。半分以上欠損し被熱している。片面の一部に磨痕が見られる。石材は安山岩である。

遺構外出土

石鍋 (319～321)

319は体部である。厚さは約1cmである。外面はタテケズリが施され、ケズリ面の幅は約5mm程度である。内面はタテケズリが施された後に滑らかに磨かれている。滑石製である。320は口縁部である。厚さは約1cmである。内外面ともにヨコケズリが施された後に滑らかに磨かれている。正面右側の口縁部の端にケズリが施されていることから、方形の孔があけられていたものと推定される。滑石製である。321は口縁部である。外面はタテケズリが施される。口縁部はヨコケズリが施される。正面左側の口縁部に径約1cmの孔があけられている。滑石製である。

岩偶 (322)

扁平礫を素材とする。片面の一部に磨痕がみられる。上部に2本一組の沈刻が2組並走する。右側面と扇状の下端には敲打痕がみられる。石材は輝緑岩である。

砥石 (323～325)

323は角柱状で、砥面は4面である。324・325は角柱状で、研磨面は3面である。324は側面に細い刃砥ぎの線状痕が付き、上端面は切り出し痕が残る。325の左側面と裏面は部分的な使用に留まり、上端面には、切り出し痕が見られる。石材はすべて凝灰岩である。

用途不明品 (326)

未加工の自然礫片面に一条の溝が見られる。石材は安山岩である。

磨石類 (327・328)

327は長さ16.3cm、幅13.4cm、厚さ6.6cmである。裏面中央部に敲打痕が見られる。全面に煤が付着している。328は長さ11.1cm、幅7.6cm、厚さ4.1cmである。正裏面の一部に磨面を持つ。

葉研 (329)

1/2欠損する。孔径2cm×2cm、厚さ3.2cm、重量は209gである。周縁部に磨痕がみられる。石材は安山岩である。

磨製石斧 (330)

縄文時代の定角式両刃の磨製石斧刃部片である。両側面には敲打痕が明瞭に残る。石材は輝緑岩である。

その他 (331～333)

331は有孔石製品である。正裏面剥落により一部を欠損する。孔径は正面で0.5cm、裏面に向かってやや広がる。正面と側面は滑らかに磨かれている。正面上部に約0.2cm幅で横方向に穿孔された痕跡が認められる。石材は泥岩・凝灰岩である。332は側面に刻み文様のある滑石製の石製品。一部を欠損する。表面、側面とも滑らかに磨かれ、破片を横断するように擦り切り状の線刻が施される。333は石礫未成品と考えられる。正裏面に礫面を残すことから、扁平礫を素材とし、正裏面の周辺から二次加工が施される。

D 土製品 (図版34 334～340)

土製品は、土人形1点、土鍾12点が出土している。出土分布は、土鍾1点を除き、5～9Iラインから9I～Nライン(50m×60m)の包含層(Ⅲ～Ⅴ層)である。この範囲内は、方形居館を囲むSD301の外側に位置し、居館に関連する遺構密集地区ではない。しかし、性格不明の溝状遺構が検出されている調査地区である。特に、土製品が出土した9Mグリッドでは、遺構検出面で風倒木と推定される松の太木が検出されている。

土人形 (340)

9M13グリッドの包含層(Ⅲ層)から出土している。型押し成形によるもので、頭部が欠損し、左肩口から中央部にかけて人為的に分割したと思える状態で検出されている。笏を持った束帯姿の文官人形と思われるが、表右腕下部に削り落とした痕跡、左側部分には剥離した痕跡が確認される。大きさは、高さ3.5cm、幅(左腕～右腕)4.3cm、厚さ1.5cmである。底部は3.0cmであり、中央部に直径0.4cm、奥行き1.6cmの有穴が確認されている。胎土は灰白色であり、内側は、灰黒色の焼ムラが残る。

土鍾 (334～339)

土鍾は、方形区画内西側先端部の土坑から出土した1点以外は、方形区画溝西側(方形区画外側)の6I～7Nの包含層(Ⅲ～Ⅴ層)から出土している。形態は大部分が卵形であり、中心に孔(直径1.5cm、1.1cm、0.7cmの3種類)がある管状土鍾[和田1985]である。焼成は良好であり、かたくしっかりとしている。胎土は、褐色などの土粒を多く含んでおり、橙色を呈しているものが多い。大きさにより3種類に分類される。

大型(334)は、長さ8cm、最大径4.5cm、穴径1.5cm、重さ127.0kgである。卵形であり、かたくしっかりとしている。胎土は褐色などの土粒を多く含み、橙色ないし、薄い橙色である。

中型(335～338)は、長さ5.0cm前後、最大径3.5cm、重さ60g前後である。穴径は、1.1cmと1.5cmの2種類が検出されている。形は、球形、卵形、管状形であり、かたくしっかりとしている。胎土は、褐色などの土粒を多く含み、薄い橙色である。

小型(339)は、長さ4.5cm前後、最大径2.5cm前後、穴径0.7cm、重さ30g前後である。卵形であり、かたくしっかりとしている。胎土は褐色などの土粒を多く含み、薄い橙色を呈している。

E 金属製品 (図版35 341～362)

武器 (341～343)

小刀2、刀の鐔1、がある。小刀は腐食が激しく、全体の様子はわかりづらい。断面は二等辺三角形を呈している。鐔は4M区の道状遺構周辺のⅢ層からの出土である。切り込みも鮮やかなものである。戦国期のものか。

装飾品 (344・346・347)

帯金具と飾り金具がある。344は帯金具の先端部である。裏に擦り傷があり、赤銅の原色が認められ

2 遺物各説

る。飾り金具は、円形の断面半球形を呈するもので、中央に孔が開けられ、ここに釘を打ち付けたものと考えられる。銅さびが認められる。

工具 (351)

ゲンノウ状の角柱の中央に穴が開けられたものである。左右端面には叩かれたような痕跡は認められず、何に使用されたかは不明である。

楔 (354～355)

長軸5cmで台形状を呈する。断面は下端先端部が薄くなるもので、楔と判断した。上端には叩かれて、まがった部分が認められる。

針状金具 (345)

U字形に湾曲したもので右側先端は細くなる。断面は隅丸方形を呈し、角柱状の棒を折り曲げ、両先端を磨いて尖らせたものと思われる。糸尻は欠損している。

釘状 (358～361)

角柱状の長さ10cm前後のものの上端を折り曲げて肥厚させ頭部としたものである。

棒状金具 (352・353)

幅0.7cm、厚さ0.6cm、長さ13.4cmの棒状のもの両端を折り曲げたもので、両端の輪の部分に何かを引っ掛けた釣手と考えられる。もう一点幅1.1cm、厚さ0.9cm、長さ17.9cmの鉄の棒で上端が肥厚し、下端の先端が細くなるもので、重量感があり、硬質である。馬鐮の先歯とも考えられる。

板状金具 (356・357・362)

厚さ5mm前後の板で長さ3cm以上のものがある。楔もしくは釘である。

嗜好品 (349・350)

キセルが3点出土している。そのうち2点を図示する。いずれもⅡ層からのものである。キセルの形式から16世紀代のものと推定される。いずれも青銅製品で、外面に錆が付着している。

F 製鉄関連遺物 (図版35 363～376)

製鉄関連遺物には鉄滓と羽口がある。調査区西側のⅢ・Ⅳ層を中心として、5ラインまでの広い範囲から出土している。数量は約360点であり、ほとんどは鉄滓である。製鉄に関する遺構は検出されなかった。近接する地区に製鉄関連遺構が存在していたかも知れない。

羽口 (363・364・366)

3点図示する。いずれも細片となっており、全体がわかるものは少ない。口径や厚さから、径12cm前後の小形のものと考えられる。いずれも砂の混入が多いものである。366は外部上面に光沢のある鉄分が付着する。

鉄滓 (365・367～375)

碗形滓と流出滓がある。365・367～370が碗形滓、371～376が流出滓である。

G 銭貨 (図版27 221～236)

合計23枚が検出された。そのうち各年号の種類異なるものを図示する。天聖元寶から寛永通宝まで12種16枚である。初鋳造年代から11世紀以前と15世紀以後であることが分かる。

第VI章 自然科学分析

下沖北遺跡から出土した木製品などの樹種

はじめに

下沖北遺跡は、鶴川右岸の沖積地に位置する。今回の発掘調査により、中世（13～14世紀）の堀に囲まれた掘立柱建物跡、井戸、櫓などの遺構が検出されている。これらの遺構からは、土器類のほか、鉄滓、羽口、銭貨、砥石、木製品などの遺物が出土している。また、掘立柱建物跡の柱穴の一部では、柱根が残存している。

今回は、出土した木製品や柱根の樹種同定を行い、木材利用に関する資料を得る。

1 試料

試料は、木製品や柱根40点である。このうち、287は、差歯下駄で台と歯から試料を採取した。したがって、合計点数は41点である。試料の時代は、すべて中世である。

各試料から5mm角程度のブロックを採取して試料としたが、完形品などでは遺物の破壊を最小限にするため、直接切片を採取した。また、247と296の2点は、炭化部分から試料を採取した。

2 方法

ブロック試料は、剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柘目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を作製する。作製した切片及び製品から直接採取した切片を試料別にガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察し、木材組織の特徴から種類を同定する。

炭化部分から採取した2点については、常温で乾燥させた後、実体顕微鏡で観察し、木材組織の特徴から種類を同定する。

3 結果

樹種同定結果を別表5に示す。木製品は、針葉樹3種類（マツ属複雑管束亜属・スギ・ヒノキ）と広葉樹9種類（ブナ属・コナラ属アカガシ亜属・クリ・ケヤキ・ヤマグワ・モクレン属・ヤブツバキ・トチノキ・タラノキ）に同定された。各種類の主な解剖学的特徴を以下に記す。

・マツ属複雑管束亜属（*Pinus* subgen. *Diploxylon*） マツ科

軸方向組織は仮道管と樹脂道で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行は急～やや緩やかで、晩材部の幅は広い。放射組織は仮道管、柔細胞、樹脂道、エビセリウム細胞で構成される。柔細胞の分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には顕著な鋸歯状の突出が認められる。放射組織は単列、1～15細胞高。

・スギ（*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don） スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞が晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞の壁は滑ら

か、分野壁孔はスギ型で、1分野に2~4個。放射組織は単列、1~15細胞高。

・ヒノキ (*Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか~やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔はヒノキ型~トウヒ型で、1分野に1~3個。放射組織は単列、1~15細胞高。

・ブナ属 (*Fagus*) ブナ科

散孔材で、管孔は単独または放射方向に2~3個が複合して散在し、年輪界付近で径を減ずる。道管の分布密度は高い。道管は単穿孔及び階段穿孔を有し、壁孔は対列状~階段状に配列する。放射組織は同性~異性III型、単列、数細胞高のものから複合放射組織まである。

・コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*) ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸~厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~15細胞高のものと同複合放射組織とがある。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は3~6列、孔圏外で急激~やや緩やかに管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~15細胞高。

・ケヤキ (*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino) ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圏部は1~2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性III型、1~10細胞幅、1~60細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

・ヤマグワ (*Morus australis* Poiré) クワ科

環孔材であるが、春材部の組織がほとんど観察できなかったため、孔圏部の状況は不明。小道管は、塊状に複合して接線・斜方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は密に交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性II~III型、1~6細胞幅、1~50細胞高で、しばしば結晶を含む。

・モクレン属 (*Magnolia*) モクレン科

散孔材で、管壁厚は中庸~薄く、横断面では角張った楕円形~多角形、単独及び2~4個が放射方向に複合して散在する。道管の分布密度は比較的高い。道管は単穿孔を有し、壁孔は階段状~対列状に配列する。放射組織は異性II型、1~2細胞幅、1~40細胞高。

・ヤブツバキ (*Camellia japonica* L.) ツバキ科ツバキ属

散孔材で、管壁は薄く、横断面では多角形~角張った楕円形、単独及び2~3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列~階段状に配列する。放射組織は異性II~I型、1~2細胞幅、1~20細胞高で、時に上下に連結する。

・トチノキ (*Aesculus turbinata* Blume) トチノキ科トチノキ属

散孔材で、管壁は厚く、横断面では角張った楕円形、単独または2~3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、単列、1~15細胞高で階層状に配列する。

・タラノキ (*Aralia elata* (Miq.) Seemann) ウコギ科タラノキ属

環孔材で、孔圏部は2~4列、孔圏外小道管は、2~3列が接線状に紋様を描きながら長く連なる。道

管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、道管内腔にはチロースが存在する。放射組織は異性、1～6細胞幅、5～6細胞高で鞘細胞が認められる。

4 考 察

今回調査対象とした木製品は、建築・土木材（柱根・杭）、生活用具（漆桶、木皿、曲げ物、はし）、履物（下駄）など多岐に渡る。折敷、板、曲物、木札など、板状の加工を施す製品には針葉樹が多く見られ、とくにスギの利用が目立つ。これらの木製品では、一部の試料を除いて、ほとんどが柾目板を利用している。スギは、木理が通直であり、割裂性が高いために板の作製が容易である。また、耐水性も比較的高いことから、これらの材質が利用された背景に考えられる。新潟県内では、浦題遺跡や蔵ノ坪遺跡でもスギの多い結果が得られており〔バリノ・サーヴェイ株式会社2002 未公表資料〕、同様の木材利用が県内の沖積平野を中心に広い範囲で見られた可能性がある。スギは、潮湿地を好むことから、遺跡周辺の沖積地などに生育しており、木材の入手が容易であった可能性が考えられる。

容器類（漆桶、桶、皿、木皿）は、観察した範囲では全て横木取りの加工である。樹種は、クリ、モクレン属、ケヤキ、タラノキ、ブナ属が認められ、ケヤキやブナ属が多い傾向がある。ケヤキやブナ属は、近現代の民俗事例でも桶や皿に利用される種類である〔農商務省山林局1912；橋本1979〕。浦題遺跡でも同様の結果が得られており、容器類にはケヤキやブナ属を主とした木材利用が行われていたことが推定される。曾根遺跡、岩田遺跡、蔵ノ坪遺跡の古代の容器類でも同様の結果が得られていることから〔川村1983、越路町教育委員会・バリノ・サーヴェイ株式会社1992、バリノ・サーヴェイ株式会社2002〕、同様の木材利用が古代まで遡ることが推定される。

下駄は、台と歯を一本で作る連歯下駄と、別材で作る差歯下駄とがある。連歯下駄は台表が板目となる木取りであった。差歯下駄は、歯をはめるホゾが台表まで貫通している露歯の差歯下駄で、台表が柾目であった。連歯下駄はヤマグワ、差歯下駄は台と歯共にモクレン属に同定された。新潟県内における下駄の木材利用については、浦題遺跡での調査例があり、連歯下駄と差歯下駄にスギとモクレン属が認められている。モクレン属については、中世の下駄が多数出土した草戸千軒町遺跡でも確認されている〔バリノ・サーヴェイ株式会社1997a・2001〕。草戸千軒町遺跡では、差歯下駄の台と歯の組合せについても調査されているが、台がモクレン属の場合には歯も全てモクレン属であり、今回の結果とも一致している。

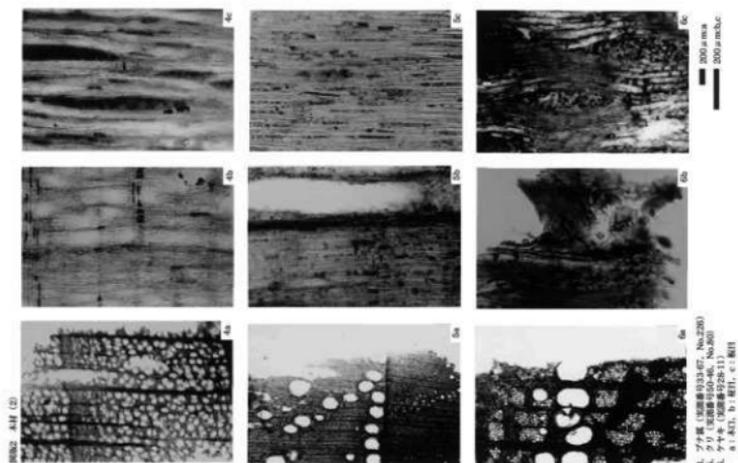
柱根は、アカガシ亜属とクリであった。いずれも重硬で強度の高い材質を有し、クリでは耐朽性も高い。県内で行われた調査例では、古代の柱材などにクリが多数確認されている〔バリノ・サーヴェイ株式会社1997b・2000・2002〕。この結果は今回の結果とも一致しており、強度や耐朽性を考慮した木材利用が推定される。アカガシ亜属は、暖温带常緑広葉樹林の構成種であり、県内の調査例ではこれまでほとんど出土した例が無い。しかし、柏崎市も含めて新潟県南部の日本海沿岸地域には、アカガシ亜属などの常緑広葉樹の生育が確認されている〔宮脇1985〕。本遺跡では、同じく暖温带常緑広葉樹林に生育するヤブツバキも杭に確認されている。これらのことを考慮すれば、周囲に常緑広葉樹が生育していたことが推定され、その木材を柱材などに利用したことが推定される。

柏崎市では、羽田大平・小丸山遺跡で弥生時代～古墳時代の花粉分析が行われており、海岸沿いの平野部に常緑広葉樹のアカガシ亜属とコナラ亜属、ケヤキなどの落葉広葉樹が混交し、山地にはブナ属を主とした植生が見られたことが推定されている〔バリノ・サーヴェイ株式会社1985〕。この植生は、今回の樹種同定結果とも矛盾しない。しかし、中世における古植生の実態については詳細が不明である。また、

中世であれば、周囲に生育していた樹木の他に、他地域から木材が搬入されている可能性もある。そのため、今後古植生調査や文献史料による調査を行い、古植生や流通状況なども含めて総合的に木材利用を検討する必要がある。

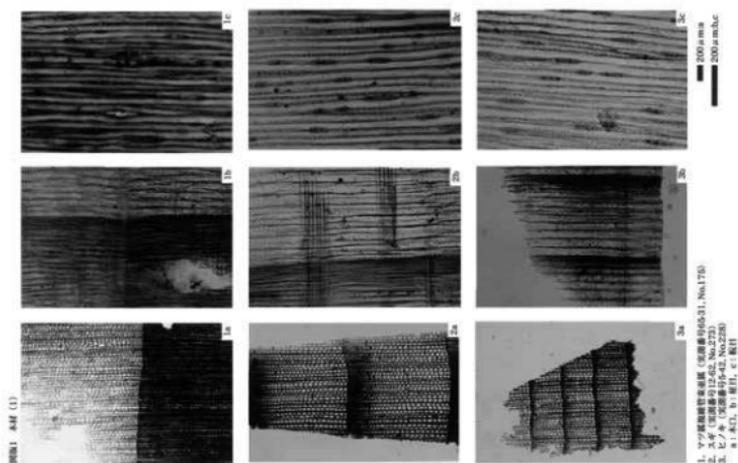
引用文献

- 橋本鉄男 1979 ものと人間の文化史31 ろくろ。444p., 法政大学出版局。
- 川村忠洋 1983 曽根遺跡出土木材の識別。新潟大学農学部演習林報告, 16, p.75-82。
- 越路町教育委員会・バリノ・サーヴェイ株式会社 1992 越路町文化財報告書第19輯 岩田遺跡出土遺物 自然科学分析報告書, 33p。
- 宮脇 昭編 1985 日本植生誌 中部, 604p., 至文堂。
- 農商務省山林局編 1912 木材ノ工藝的利用, 1308p., 大日本山林會。
- バリノ・サーヴェイ株式会社 1985 柏崎市小丸山遺跡試料花粉分析及び樹種同定報告。「柏崎市埋蔵文化財調査報告書 5 刈羽大平・小丸山 東京電力新潟原子力発電所建設地内埋蔵文化財発掘調査報告」, p.313-316, 柏崎市教育委員会。
- バリノ・サーヴェイ株式会社 1997a 草戸千軒町遺跡から出土した下駄の樹種。「草戸千軒町遺跡調査研究報告1 草戸千軒町遺跡出土の下駄」, p.70-86, 広島県立歴史博物館。
- バリノ・サーヴェイ株式会社 1997b 岩田遺跡第2次調査における自然科学分析調査報告。「越路町文化財報告書 第21輯 岩田遺跡 第2次発掘調査報告書」, p.18-24, 越路町教育委員会。
- バリノ・サーヴェイ株式会社 2000 自然科学分析。「吉田町文化財調査報告書 第5集 新潟県西蒲原郡吉田町江添C遺跡—吉田町米納津地内国営排水路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—」, p.206-213, 吉田町教育委員会・山武考古学研究所。
- バリノ・サーヴェイ株式会社 2001 草戸千軒町遺跡から出土した下駄の樹種。「草戸千軒町遺跡調査研究報告 5 草戸千軒町遺跡出土の下駄2」, p.15-34, 広島県立歴史博物館。
- バリノ・サーヴェイ株式会社 2002 蔵ノ坪遺跡から出土した木材の樹種。「新潟県埋蔵文化財調査報告書第115集—一般国道7号 中条バイパス関係発掘調査報告書 蔵ノ坪遺跡」, p.45-59, 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団。



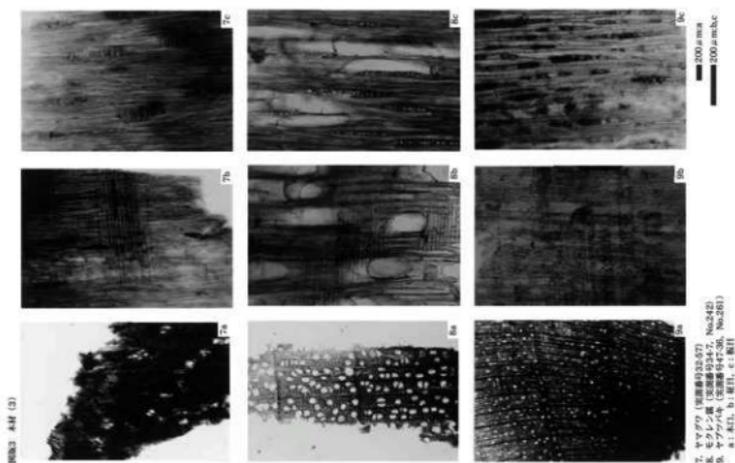
第8図 出土木材の顕微鏡写真(2)

1. ヲリ山産榎樹皮(丸葉榎)No.220
 2. ヲリ山産榎樹皮(丸葉榎)No.220
 3. ヲリ山産榎樹皮(丸葉榎)No.220
 a: 40×, b: 80×, c: 160×



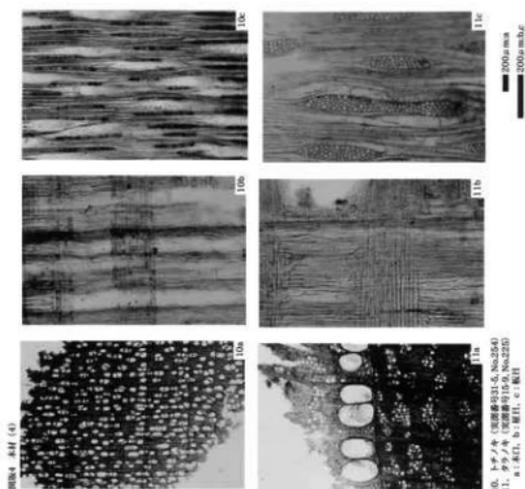
第7図 出土木材の顕微鏡写真(1)

1. ヲリ山産榎樹皮(丸葉榎)No.175
 2. ヲリ山産榎樹皮(丸葉榎)No.175
 3. ヲリ山産榎樹皮(丸葉榎)No.220
 a: 40×, b: 80×, c: 160×



第9図 出土木材の顕微鏡写真(3)

7. ヤブツグ (記録番号3577, No.243)
 8. ヤブツグ (記録番号4736, No.251)
 9. 本12, b: 榎II, c: 榎II



第10図 出土木材の顕微鏡写真(4)

10. トチノ木 (記録番号2154, No.254)
 11. チリノ木 (記録番号1546, No.225)
 a: 榎II, b: 榎II, c: 榎II

第七章 まとめ

1 遺 構

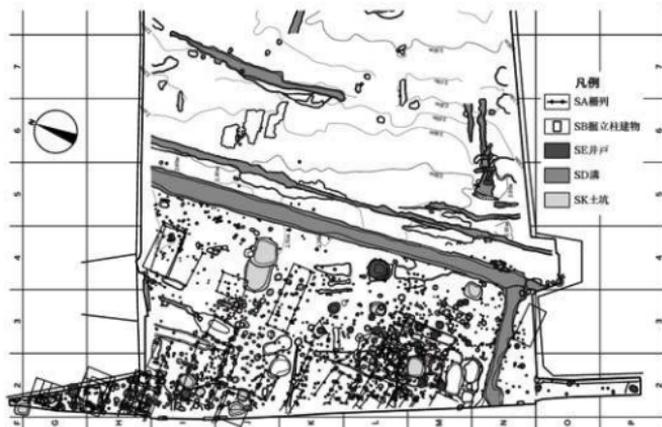
調査の結果、遺構集中区は、調査区の西側に偏っているが、遺構全体を調査できなかったため、遺構群の構成等不明な部分が多い。遺構の分布では、調査区2～4・F～N区のほぼ全域に認められるが、主として2F～2I区2K～3M区周辺に集中する傾向が認められる。

第1群 調査区の北西側 2G区から2I区にかけて地域であり、ここには規模の大きい建物が重複している。また多くの土師質土器を廃棄した方形土坑（SK80）などがある。建物の方向はほぼ東西南北を指す。これらの建物が中心に位置するとすれば、溝に囲まれる範囲は、南北100m、東西60mほどであり、鶴川右岸の範囲に納まることになる。

第2群 中央部2I・3I区 東西棟建物SB267などの大きな建物が存在する。また方形竪穴状遺構SK445などがある地区である。比較的大形の遺構が存在する。また各建物遺構の南側には長軸が同じ方位となる柵列があり、この地区の建物は南側に目隠し板壁などがあった可能性が高い。

第3群 南東部2L・2M・2N・3M区 棟持柱をもつ亀甲状の建物や井戸に匹敵する柱穴を持つ六本柱の建物が存在する。また井戸なども集中する傾向がある。建物遺構は柱穴の状況から、柱穴の深いものは東側に柱穴が20cmほどの径の小さい、深度の浅い建物は西側に分布する傾向がある。特に東側には南北棟の建物規模の大きな遺構が重複して存在する傾向が認められる。

第4群 南部3N区 区画溝SD145の南側である。調査面積が小さく、L字状の調査区であるため全体については不明であるが、遺構・遺物の出方が他の地域に比べて少ない。



第11図 遺構模式図 (縮尺1/800)

以上のことから、遺構集中区の中でも、各遺構群の内容について、違いが認められ、それぞれの群によって性格が異なることが取次される。つまり1群には中心的建物の存在する可能性が高い。また2群、3群にはそれらに付随する建物が置かれた可能性がある。特に南東隅には背の高い建物があったことも推測される。集落の中のある程度の地区割りについては、確認は難しい。

掘立柱建物

掘立柱建物はそのほとんどが東西に長軸を持つ東西棟で、南北棟はほとんど存在しない。ここでは建物遺構の規模と長軸方向の方位を資料から検討した。その結果長軸方向と建物の規模は別表1のとおりである。主軸方向では三種に大別される。A類：主軸を真北にとるもの 傾き角度はN-5°-E～N-5°-W B類：主軸がやや西に傾くもの 傾き角度はN-5°-W～N-15°-Wを主として、それ以上西に傾くものも入れる。C類：主軸が東に傾くもの 傾き角度はN-5°-E以上東に傾きものとする。

また規模については一間を1.8mとするとa類二間以下(3.6m未満) b類二間から四間(3.6～7.2m) c類五間以上(9m以上)の三種に分類できる。

| | | |
|-------------------------------------|--|-----|
| A類a:SB252 SB283 | A類b: SB251 SB253 SB254 SB255A SB255B SB256 SB257 SB262 | |
| SB264 SB265 SB266 SB282 SB284 SB260 | A類c: SB267 | 17棟 |
| B類a:SB271 SB276 | B類b: SB268 SB277 | 4棟 |
| C類a:SB275 SB278 SB280 SB281 | C類b: SB261 SB273 SB274A SB274B | 8棟 |

以上から、主軸を真北に向けるA類が主体であり、その中で2間から4間の間のものが多いことがわかる。これらの地域が区画溝に囲まれた地域で中心的建物が存在していた可能性が高い。これらの地区の北側に祭祀関係の遺構が所在することも中心的建物の性格を反映したものと推定している。

区画溝と道状遺構

区画溝は当初L字形に遺構を囲むものと推定された。しかし溝の形状の違いと土層断面の観察から、別々の溝であったことが確認された。SD301の南北に直線的に延びる溝は、幅も約3mと一定しており、断面形も箱型で深度約0.7mと一定しているものであるのに対して、東西方向に続く溝SD145は幅も1.7～2.3mと一定せず、SD301に比較してやや小規模である。また西側調査区では南に屈曲して曲がっていることが確認された。断面の形状はSD301と同様な箱形である。しかし覆土はどちらも大きく3層に大別されることと土質が同様であることは同一期に機能していたことを伺わせる。

これらのことから各溝の出来方についてその概略を述べる。まずL字に2条の溝がそれぞれ掘削される。このことはその接点で多少の段差が存在すること、幅などについてのそれぞれの規格性の違いから、本来別に掘削されたものと推定した。その後底面に約5cmほどの黒色土が堆積した後、さらに堆積が続く。この段階で周辺にあった遺物などが自然堆積する。その後、南北方向の溝は幅2mほどと深度差30cmほどに整備され、L字に屈曲せずにさらに南側に延長されて掘られる。この溝がSD220である。この段階では溝はL字ではなく、T字形になっていたと推測する。

このように区画溝と道状遺構が南に延びていることから、周辺にもいくつかの集落が存在しており、それらを道がつないでいたことが伺われる。

井 戸

井戸は素掘である。平面形態では円形、楕円、隅丸方形など種類は細分されるが、円形のもが主体を占める。井戸の集中する地区における掘立柱建物は比較的大形のものがある傾向が認められる。

出土遺物には土器などのほかに、漆碗や工具などの木製品や磨石などの石製品が出土している。遺物がある土層には炭化物の細粒が混入し、また磨石などは火を受けて煤が付着しているものが多い。井戸への遺物などの廃棄の際の祭祀があった可能性が強い。

2 土器・陶磁器について

A 土師質土器皿について

1) 形態と法量

A類はいわゆる柱状高台を有するものを一括した。器形の判明する個体が確認できない。B類は手づくね成形で、口径の大きなⅠ類と小さなⅡ類、口縁端部が面取りされるa類と口縁部が大きく開き、身のやや浅いb類に分類できる。D類はロクロ成形で切り離しが糸切りのものである。口径の大きなⅠ類と小さなⅡ類が確認できる。A・B・D類は個体数が少なく、法量の傾向は明確にできない。

C類は手づくね成形の土師質土器皿のうち、刈羽三島型〔品田1997c〕と称されるものである。口縁部の形態は、端部が丸く仕上げられ、やや厚ぼったい。口縁部の調整では2段ナデが施されるものが確認できる(57・79・81・84)。2段ナデが施されるものは口径が大きく、稜が明瞭なもの(CⅠa類)がほとんどである。口縁部と底部の境には明瞭な稜が確認できるa類と稜が不明瞭なb類がある。a類とb類の差異は口縁部に施されるナデの強弱に起因する。

法量は口径が大きいⅠ類と小さいⅡ類があり、遺構からの出土状況を考慮すると、Ⅰ類とⅡ類はセットで使用されたものと考えられる。CⅠa類の口径は12～14cm、器高は2.5～4cmが主体となる。CⅠb類の口径は12～13cm、器高は3～3.5cmに主体がある。CⅡa類の口径は7.5～9cm、器高は1.5cm前後、CⅡb類は口径が7～8.5cm、器高が1.5～2cmとなる。大型のもの(CⅠa類・CⅠb類)と小型のもの(CⅡa類・CⅡb類)分布範囲は、それぞれ重複する。ただし出土数にも影響されることだが、CⅠa類とCⅠb類ではCⅠa類の方がより口径は大きい。CⅡa類とCⅡb類では、CⅡa類の方がより口径は大きく、器高はやや低い傾向にある。

CⅠb類には、外底面に凹みのある①類と凹みのない②類が確認できる。CⅠa類で外底面に凹みがあるものは認められない。一方CⅡ類の外底面には、凹みのあるもの、上げ底状を呈するもの、平坦なもの確認できる。今回は、凹みのあるものと上げ底状を呈するものの識別が困難な個体もあることから、分類は行っていない。数量的には両者ともCⅡb類に偏る。これら外底面に凹みのあるものや上げ底状のものは、柿崎町・吉川町・頸城村などの遺跡でも確認できる。それらは身の浅い小皿が主体であるが、凹みの度合いが強く、CⅡb類とは形態を異にする。

2) 遺構出土の土師質土器皿C類と共伴する土器・陶磁器類

ここでは、比較的出土量がまとまっているSD145・301、SK80・86、SX171・SK445出土の土師

質土器皿を扱う。SD145とSD301は区画溝となる同一の溝であるため、まとめて記述する。SD145・301からはB I a類(27~29)、C I b②類(6)、C II a類(7・8・35・36)、C I a②類(30~33)、C II b類(34・37・38)が確認できる。共伴する土器・陶磁器類には珠洲(9・12~26)や越前(10)、白磁(39)などがある。珠洲はII期からV期にかけて確認できる。越前は15世紀に比定できる。

SK80・86からは、C I a類・C II a類が比較的まとまって出土した。そのうち2段ナデが施される57・79・81・84はC I a②類である。SK86出土の土師質土器皿に共伴する土器・陶磁器類は白磁(97)と珠洲で、白磁は15世紀前半の所産であるが、混入の可能性もあるので保留する。珠洲はII期の甕(71)とIII期の片口鉢である。SX171からはC I a類がまとまって出土した。白磁の碗Ⅸ類が共伴する。SK445は中世の竪穴状遺構で、一度廃棄された後構築し直されている。土師質土器皿はC I b類・C II b類がまとまっている。共伴する土器・陶磁器類は珠洲と青磁で、珠洲はI・II・III期の甕(167)、II・IV期の片口鉢(168)である。青磁の器種は碗で、B I類(170)とD類に分類できる。また13世紀後半の石鍋(図版33 318)も出土している。

3) 変遷と年代

まず越後の土師質土器皿の変遷を確認しておく、以下のようになる【品田1997c】。

第I期…北陸系、ロクロ成形・糸切り、古代から中世の過渡期。

第II期…京都系、手づくね成形、12世紀中葉～13世紀中葉。

第III期…第II期の土師質土器皿を母体とし、在地化が顕著になる。13～14世紀。

第IV期…関東系、ロクロ成形・糸切り、15世紀代全般

第V期…京都系、手づくね成形、16世紀代以降。

柱状高台を有するA類は第I期12世紀代に位置づける。手づくね成形で、口縁端部が面取りされるB I a類は京都系の土師質土器皿で、13世紀中葉頃に比定できる。C類は第III期、D類は14世紀末(第IV期)、B I b類・B II b類は16世紀代に位置づける。B I b類・B II b類も京都系である。

数量的に多いC類の変遷については、種が明瞭なa類から種が不明瞭なb類への変遷を想定する。口径の大きいI類と小さなII類は、I類・II類とも底部が凹む個体はほぼb類に限定できること、遺構からも両者が出土することから、セットであると判断する。すなわち、C I a・C II a類からC I b・C II b類への変遷が考えられる。共伴する遺物は、a類はSK86では珠洲II期・III期の片口鉢と共伴し、SX171では白磁の碗Ⅸ類と共伴する。b類はSK445で青磁碗B I類とD類、珠洲II・IV期の片口鉢と共伴する。相対的にa類の方が古い遺物と共伴することからも、a類はb類より古い様相を呈すると考えたい。同様の指摘は出雲崎町の番場遺跡【坂井1987】、柏崎市の角田遺跡【品田1999】でもなされている。また、Ca類・Cb類はSD301でB I a類と共伴するが、これはSD301の時期幅と考えたい。SD301は、SD145とともに居住域を区画する溝で、一定の時期幅を有すると考えられるからである。SD301出土の珠洲に時期幅があるのは、その反映と理解できる。C類の年代に関しては、a類は13世紀中葉～14世紀初頭の白磁碗Ⅸ類、珠洲III期(13世紀後半)の片口鉢と共伴する。珠洲II期(13世紀前半)の甕も共伴するが、甕の耐用性を考えると、a類の年代の参考にするのは妥当性を欠く。そのため、b類に共伴する珠洲の甕についても保留する。それ以外では、珠洲II・IV期(13世紀前半・14世紀前半)の片口鉢や青磁碗B I類(14世紀中葉)・D類(14世紀中葉～15世紀初頭)と共伴する。主に珠洲の年代を考慮し、a類は13世紀後半、b類は14世紀前半の年代を考えたいが、共伴遺物に乏しく、またb類の年代に関して角田遺

跡【品田前掲】の年代観と若干の齟齬があり、躊躇する。さらに、1つの個体でも種が明瞭な部分と不明瞭な部分があることから、a類・b類を年代的に分離することはやや無理があるのかもしれない。いずれにしても、a類・b類は13世紀後半～14世紀前半の時期幅におさまるものと考えられ、a類・b類の差異はその枠内での様相差と理解するにとどめる。

以上、土師質土器皿の変遷をまとめると、A類（12世紀代）、B I a類（13世紀中葉頃）、C類（a類～b類・13世紀後半～14世紀前半）、D類（14世紀末）、B I b類・B II b類（16世紀）となる（第12図）。Ca類・Cb類に関しては、様相差と理解したが、時期差を示す可能性を含んでいる。

| | | | | |
|------|----|-------------------|-----|-----|
| 12世紀 | A類 | | | |
| 13世紀 | | B I a類 | Ca類 | |
| 14世紀 | | | | Cb類 |
| 15世紀 | | | | D類 |
| 16世紀 | | B I b類 B II b類 | | |

第12図 土師質土器皿の変遷

B 下沖北遺跡出土の中世陶磁器類の傾向（別表10）

ここでは中世陶磁器類の傾向をまとめておく。対象は珠洲焼・越前焼・瀬戸美濃・輸入陶磁器（青磁・白磁）に限定する。組成は珠洲焼46.4%、越前焼1.3%、瀬戸美濃7.1%、輸入陶磁器45.2%となる。珠洲焼と輸入陶磁器が高い割合で拮抗し、両者を合わせると90%を超える。珠洲焼の器種は壺・壺・播鉢の3種が揃う。播鉢の割合が60%を超えるが、壺・壺の体部片も多いことには注意したい。越前焼は壺（ない壺）・播鉢が少量確認でき、播鉢の割合がやや高い。瀬戸美濃は碗皿類が85%を超える。輸入陶磁器も同様に碗皿類の割合が高く、約82%を占める。青磁は連弁文が施されるB類の碗（43・143・163・170・204・209・214・215）が多い傾向にある。白磁は皿Ⅸ類（70・217）や皿Ⅲ類（218）、碗Ⅴ類（39）などが確認できる。食膳具（碗・皿など）は瀬戸美濃・輸入陶磁器に、調理具（播鉢など）は珠洲焼・越前焼に偏る。貯蔵具（壺など）はほぼ珠洲焼に限定される。このほか食膳具では漆器が組成に加わる。

次に年代的なことに触れる。まず珠洲焼に関しては、壺はⅡ・Ⅲ・Ⅴ期のもの（9・14・15・53・71・108・167・198）が確認でき、そのうちⅡ・Ⅲ期の壺が目立つ。壺はⅡ～Ⅲ・Ⅴ期のもの（13・109・132）が断片的に確認できる。播鉢はⅡ～Ⅳ期のもの（16～19・52・103・120・168）が主体となる一方、Ⅵ期に比定できる131は復元率も高く、注意を要する。珠洲焼の主体となるⅡ～Ⅳ期は13～14世紀に比定できる。青磁・白磁は13～14世紀の年代を与えられるものが多い。土師質土器皿のうち数量の多いC類は、13世紀後半～14世紀前半に比定でき、珠洲焼などの年代と符合する。遺跡の主体になる時期と判断できる。一方、15～16世紀の様相は把握しにくい。この時期の陶磁器類は、珠洲焼（14・109・131・147・156・157）や越前焼（10・56）、瀬戸美濃（142）、青磁（207）、白磁（97）などが確認できるが、数量的にはあまり多くはない。また瀬戸美濃の多くはこの時期に比定できそうだが、明確ではない。珠洲焼や瀬戸美濃が定量出土していること、青磁・白磁がそれ以前に比べ少ないことなどから、この時期には遺跡の規模が縮小して存続していたものと理解する。

遺跡の主要な時期である13～14世紀では、食膳具は輸入陶磁器（漆器）、調理具と貯蔵具は珠洲焼が主体となる。また15～16世紀は様相が確認しにくい、食膳具は瀬戸美濃と少量の輸入陶磁器で構成される可能性がある。調理具は珠洲焼と少量の越前焼で占められ、貯蔵具は認めにくい傾向にある。

3 遺跡の性格

下沖北遺跡の平成14年度調査では、溝に区画された内部に30棟近い建物を確認され、それとともに井戸や土坑の他、方形竪穴状土坑なども検出された。これらの年代は、出土遺物から13世紀から17世紀までの年代幅があるが、前項にあるように、13世紀から14世紀と16世紀以降の2時期が中心となる。なお、周辺には戦国時代のもので推定される琵琶島城跡があるのみで、他の遺跡は調査されていない。また遺跡より南部に位置する鶴川上流の遺跡の内容は、未調査で不明な点が多い。

遺跡は、現状では鶴川の河口から約2km内陸に入った地点で、周辺は沖積地である。鶴川に近接していることから、川の周辺に立地していたことがわかる。鶴川は遺跡周辺で蛇行が顕著に認められる。明治時代の地図や更正図から蛇行の様子を復元したが、遺跡周辺に河道が存在していたと考えられる。

この地区では下方地区小字下沖には、鶴川を挟んで、北に下沖北遺跡、南に下沖遺跡が存在する。どちらも中世の遺跡と考えられている。下沖遺跡の南側には、鶴川右岸に「鶴屋敷」「田屋敷」「上屋敷」などの小字が存在し、その地割をみると、一辺1町以上の広い範囲での方形に類した地割が観察される。また「鶴屋敷」には遺物も確認されており、中世の遺跡である。更正図でも各遺跡付近の地割には、南北に直線的に地割が確認される。これらの地割の中で今回検出した南北に延びる区画溝とその東側の道状遺構は、大字下方と大字横山の南北方向に延びる境界ラインと重なる可能性を指摘できる。遺構の検出状況からこれらの大字境が遺構密集地と湿地との境界であった可能性などから、地形と更正図の地割が相関関係にあったことが伺い知ることができる。

中世の古文書から、柏崎平野には、11世紀から12世紀にかけて、比角荘・鶴河荘が存在していたことが確認されるが、それらの位置については確定しておらず、その細部は不明な点がある。今回の下沖北遺跡からは、荘園に関することを伺わせる木簡などの資料は検出できなかった。しかし鶴川流域に13世紀代の遺跡が存在すること、「かしわざき」という地名が文献上で確認される日蓮に関する記述から、下沖北遺跡を含む地域に「鶴河荘」の存在していた可能性は高くなっていると考えられる。

それから更正図などに描かれた屋敷などには、すでに指摘されているように、前述の「屋敷」関連の小字のほかに柏崎市で行った確認調査で茅原遺跡や蓮田などでも1町区画の地割が確認されている〔柏崎市1997b〕。今回の調査で確認された集落とそれらをつなぐであろう道状遺構の存在から、下沖北遺跡は、下方、上方地区では最も北に位置しており、その南側には下沖遺跡、鶴屋敷遺跡、西田・鶴巻田遺跡や茅原遺跡などの中世遺跡が存在している。今後これらの遺跡との関係を調査・検討していく中で、具体的な遺構・遺物の確認で当時存在していた鶴河荘などの解明がなされると思われる。

要 約

- 1 下沖北遺跡は柏崎市大字下字下沖38-1番地ほかに所在する。鶴川右岸の沖積地、現況は水田で、標高約3mを測る。本書は下沖北遺跡の平成14年度の発掘調査報告である。
- 2 調査は、一般国道8号柏崎バイパス建設工事に係って実施した。平成14年度の調査面積は、全体面積約21,000m²のうちの西側部分6,500m²である。調査期間は平成14年4月15日から10月31日である。
- 3 検出された遺構は、溝に区画された内部に、掘立柱建物、方形竪穴状土坑、土坑、井戸、溝などである。遺物は土器・陶磁器、木製品、石製品、金属製品、土製品である。量的には、土師質土器が主体である。木製品、石製品も多い。
- 4 区画溝は、南北方向と東西方向に交差して、検出された。南北の溝は、さらに南に延長されており、遺跡範囲は、北側、南側に続いている。
- 5 掘立柱建物・柵列は計32棟が検出された。区画溝の西側に分布する。
- 6 方形竪穴状土坑は8基が検出された。SK445は一辺4mほどの規模で、東西に並んで検出された。東側が新しいものである。また北側には入り口状の遺構が確認された。
- 7 井戸は25基確認された。溝に区画された地区の南東部に多く検出された。覆土から、土器のほか木製品などが出土した。
- 8 土器を多く廃棄したと考えられる土坑や、土器を埋納したピットなど、祭祀に係わる遺構も検出された。
- 9 遺物は平箱で105箱の出土量であった。その中で、土器、陶磁器類は出土遺物の約6割である。
- 10 石製品は、砥石などを主として、25箱の出土量である。その中で石鍋、石臼、茶臼が特筆される。
- 11 木製品は食器類、工具、木札など多種多様である。全体では26箱である。
- 12 その他の遺物として、井戸の覆土最下層からはウォーター・フローテーションにより、植物の種子や炭化米などが確認された。
- 13 遺跡は、鶴川に近接する沖積地に位置し、遺物の年代から13世紀から14世紀にかけての時期を中心とする集落の一部と考えられる。

引用文献

- 上田秀夫 1982 「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』No2 日本貿易陶磁研究会
- 尾崎高宏^{ほか}1999 「小峯遺跡」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』
- 柏崎市教育委員会 2002 『琵琶島城跡現地説明会資料』
- 柏崎市史編さん委員会編 1987 「柏崎市史資料集 考古篇Ⅰ」
- 柏崎市史編さん委員会編 1990 「中世」『柏崎市史 上』
- 金子拓男^{ほか}1980 「新潟県」『日本城郭体系』7 新潟・富山・石川 新人物往來社
- 坂井秀弥^{ほか}1987 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第48集 三島郡出雲崎町香場遺跡』新潟県教育委員会
- 品田高志 1990 「2 歴史的環境」『新潟県柏崎市南下・千古塚遺跡発掘調査報告（千古塚遺跡）』（柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第11集）柏崎市教育委員会
- 品田高志 1993 「古代三嶋郡と古代土器の様相～柏崎平野における古代史理解に向けて～」『柏崎市立博物館報』No8 柏崎市立博物館
- 品田高志 1995 「總括」『柏崎市内遺跡発掘調査報告書（柏崎市の遺跡Ⅳ）』（柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第20集）柏崎市教育委員会
- 品田高志 1996a 「田塚山の中世仏堂と墳墓」『田塚山遺跡古墳群』（柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第21集）柏崎市教育委員会
- 品田高志 1996b 「音無瀬遺跡」『柏崎市内遺跡発掘調査報告書（柏崎市の遺跡Ⅴ）』（柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第22集）柏崎市教育委員会
- 品田高志 1997a 「2 前掛り遺跡をめぐる歴史的な環境」『新潟県柏崎市・前掛り遺跡発掘調査報告書（前掛り）』（柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第26集）
- 品田高志 1997b 「總括」『柏崎市内遺跡第Ⅳ期発掘調査報告書（柏崎市の遺跡Ⅳ）』（柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第27集）柏崎市教育委員会
- 品田高志 1997c 「越後国における土師器の変遷と諸相」北陸中世土器研究会編『中近世の北陸－考古学が語る社会史－』桂書房
- 品田高志・伊藤啓雄 1999 『柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第32集 角田』柏崎市教育委員会
- 中沢毅^{ほか} 1996 「箕輪遺跡」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』（財）新潟県埋蔵文化財事業団
- 新潟県教育委員会 1988 『北陸自動車埋蔵文化財発掘調査報告書（西田・鶴巻田遺跡群）』（新潟県埋蔵文化財調査報告書 第35集）
- 新潟県教育委員会 2002 『一般国道8号柏崎バイパス関係発掘調査報告書Ⅳ（箕輪遺跡）』（新潟県埋蔵文化財調査報告書 第109集）
- 花ヶ前盛明 1986 「越後中世史概観、越後の古城」『中世越後の古城－武将と古城をさぐる』新人物往來社
- 藤澤良祐 1995 「古瀬戸」 中世土器研究会編『概説中世の土器・陶磁器』真臨社
- 横田賢次郎・森田 勉 1978 「大宰府出土の輸入中国陶磁器について－型式分類と編年を中心として－」『九州歴史資料館研究論集』4 九州歴史資料館
- 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』吉川弘文館
- 和明晴吾 1985 「7 漁猟具 1.土鎌・石鎌」『弥生文化の研究』5 道具と技術Ⅰ 雄山閣

別表1 擬立柱建物構成柱穴一覧表

SB251 (図版2・3)

※方位は建物の長軸に対するもの

| 位置 | 2G | 軒行4.28m, 梁間2.27m | 床面積 9.41 ㎡ |
|----|------|------------------|-------------------------|
| 年代 | | 構造 2階×2階 | 方位: N-6°W |
| 柱穴 | 形状 | 長さ(㎝) | 幅(㎝) 深さ(㎝) 柱穴間隔(㎝) |
| 1 | SK82 | 楕円形 | 64 56 30 |
| 2 | SK84 | 楕丸方形 | 58 47 57 SK84-SK82 1.20 |
| 3 | SK2 | 楕円形 | 56 40 37 SK2-SK84 1.08 |
| 4 | P2G1 | 楕円形 | 100 76 29 P2G1-SK2 2.00 |
| 5 | SK4 | 楕丸方形 | 68 67 25 SK4-P2G1 2.20 |

SB252 (図版2・3)

| 位置 | 2G | 軒行2.8m, 梁間1.88m | 床面積 5.26 ㎡ |
|----|-------|-----------------|-----------------------------|
| 年代 | | 構造 1階×2階 | 方位: N-0°W |
| 柱穴 | 形状 | 長さ(㎝) | 幅(㎝) 深さ(㎝) 柱穴間隔(㎝) |
| 1 | P2G9 | 楕円形 | 44 40 43 P2G9-P2G11 1.00 |
| 3 | P2G21 | 楕円形 | 60 48 32 P2G21-P2G23 1.20 |
| 4 | P2G23 | 不整形 | 40 24 30 P2G23-P2G1 1.70 |
| 5 | P2G1 | 楕丸方形 | 100 (70) 29 P2G1-P2G20 1.20 |
| 6 | P2G20 | 楕円形 | 30 20 16 P2G20-P2G21 1.30 |

SB253 (図版2・3)

| 位置 | 2G2H | 軒行5.48m, 梁間4.48m | 床面積 24.55 ㎡ |
|----|-------|------------------|-----------------------------|
| 年代 | | 構造 5階×2階 | 方位: N-88°W |
| 柱穴 | 形状 | 長さ(㎝) | 幅(㎝) 深さ(㎝) 柱穴間隔(㎝) |
| 1 | P2G27 | 不整形 | (70) (40) 33 |
| 2 | | | |
| 3 | P2H11 | 楕丸方形 | 60 50 38 ZH11-SK18 1.80 |
| 11 | SK18 | 楕円形 | 60 50 35 SK18-P2H41 1.10 |
| 9 | P2H41 | 楕円形 | 30 (40) 35 P2H41-P2H30 2.60 |
| 10 | P2H30 | 楕円形 | 36 28 32 P2H30-P2G27 2.28 |

SB254 (図版2・4)

| 位置 | 2G2H | 軒行4.0m, 梁間4.5m | 床面積 18.00 ㎡ |
|----|-------|----------------|------------------------------|
| 年代 | | 構造 4階×2階 | 方位: N-92°W |
| 柱穴 | 形状 | 長さ(㎝) | 幅(㎝) 深さ(㎝) 柱穴間隔(㎝) |
| 1 | P2G24 | 不整形 | 70 (100) 45 |
| 2 | P2H1 | 楕円形 | 76 72 41 P2H1-SE8 3.00 |
| 3 | P2H2 | 楕円形 | (100) (64) 38 P2H2-P2H1 1.30 |
| 4 | SK19 | 楕円形 | 83 65 49 SK19-P2H2 1.96 |
| 5 | SK20 | 楕円形 | 84 82 46 SK20-SK19 1.84 |

SB255A (図版2)

| 位置 | 2H・2I | 軒行6.00m, 梁間3.8m | 床面積 22.8 ㎡ |
|----|-------|-----------------|--------------------------------|
| 年代 | | 構造 3階×2階 | 方位: N-90°W |
| 柱穴 | 形状 | 長さ(㎝) | 幅(㎝) 深さ(㎝) 柱穴間隔(㎝) |
| 1 | SK22 | 楕円形 | (50) 90 33 SK22-SK28 2.40 |
| 2 | SK28 | 楕丸方形 | 120 95 56 SK28-SK427 2.30 |
| 3 | SK421 | 楕丸方形 | 100 (100) 45 P2H2-SK19 |
| 6 | P2H78 | 不整形 | (110) (50) 35 P2H78-P2H88 1.80 |
| 7 | P2H88 | 楕丸方形 | 100 100 35 |
| 9 | P2H44 | 楕円形 | 100 (40) 20 P2H44-SK424 1.50 |
| 10 | SK424 | 楕丸方形 | (70) (60) 35 |
| 11 | SK36 | 楕丸方形 | 160 110 38 |
| 12 | SK43 | 楕丸方形 | (110) (60) 66 |

SB255B (図版2・4)

| 位置 | 2H2I | 軒行6.7m, 梁間4.0m | 床面積 22.8 ㎡ |
|----|-------|----------------|--------------------------------|
| 年代 | | 構造 3階×2階 | 方位: N-90°W |
| 柱穴 | 形状 | 長さ(㎝) | 幅(㎝) 深さ(㎝) 柱穴間隔(㎝) |
| 1 | SK25 | 楕丸方形 | (53) 90 77 SK25-P2H18 2.30 |
| 2 | P2H18 | 楕丸方形 | (55) (40) 31 P2H18-SK421 1.80 |
| 3 | SK421 | 楕丸方形 | 100 (100) 45 |
| 4 | | | |
| 5 | P2H78 | 不整形 | (110) (50) 35 P2H78-P2H88 1.80 |
| 6 | P2H88 | 楕丸方形 | 100 100 35 |
| 7 | | | |
| 8 | SK425 | | |
| 9 | P2H44 | 楕円形 | 100 (40) 20 P2H44-SK424 1.50 |
| 10 | SK424 | 楕丸方形 | (70) (60) 35 |
| 11 | SK36 | 楕丸方形 | 160 110 38 |
| 12 | SK43 | 楕丸方形 | (110) (60) 66 |

SB256 (図版2・4)

| 位置 | 2H2I | 軒行5.6m, 梁間3.88m | 床面積 21.73 ㎡ |
|----|-------|-----------------|-------------------------------|
| 年代 | | 構造 3階×2階 | 方位: N-91°W |
| 柱穴 | 形状 | 長さ(㎝) | 幅(㎝) 深さ(㎝) 柱穴間隔(㎝) |
| 1 | SK25 | 楕円形 | (112) (68) 36 SK25-SK29 2.04 |
| 2 | SK29 | 楕円形 | 88 80 38 SK29-P2H27 1.92 |
| 3 | P2H27 | 楕円形 | 72 60 55 |
| 4 | | | |
| 5 | | | |
| 6 | SK45 | 楕円形 | 150 86 50 SK45-SK410 1.68 |
| 7 | SK410 | 楕丸方形 | (80) (80) 47 SK410-SK402 1.92 |
| 8 | SK402 | 楕円形 | 48 36 38 |
| 9 | | | |
| 10 | SK34 | 楕丸方形 | 74 58 47 SK34-SK25 2.08 |

SB257 (図版2・4)

| 位置 | 2H3I | 軒行4.96m, 梁間2.0m | 床面積 9.92 ㎡ |
|----|-------|-----------------|---------------------------|
| 年代 | | 構造 5階×1階 | 方位: N-87°W |
| 柱穴 | 形状 | 長さ(㎝) | 幅(㎝) 深さ(㎝) 柱穴間隔(㎝) |
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |
| 4 | SK420 | 楕円形 | 64 48 53 SK420-P3H19 1.04 |
| 5 | P3H19 | 楕円形 | 28 24 7 P3H19-P3H13 2.00 |
| 6 | P3H13 | 楕円形 | 40 36 33 P3H13-SK92 1.04 |
| 7 | SK92 | 円形 | 60 59 54 SK92-P3H12 0.80 |
| 8 | P3H12 | 円形 | 44 44 23 P3H12-P2H64 1.08 |
| 9 | P2H64 | 楕丸方形 | 44 52 24 P2H64-P2H65 1.00 |
| 10 | P2H65 | 楕円形 | 32 28 20 P2H65-P2H67 1.08 |
| 11 | P2H67 | 楕丸方形 | 48 48 27 |

SB260 (図版5・7)

| 位置 | 2I | 軒行10.8m, 梁間4.48m | 床面積 48.38 ㎡ |
|----|-------|------------------|----------------------------|
| 年代 | | 構造 4階×1階 | 方位: N-93°W |
| 柱穴 | 形状 | 長さ(㎝) | 幅(㎝) 深さ(㎝) 柱穴間隔(㎝) |
| 1 | SK403 | 楕円形 | 32 30 44 |
| 2 | | | |
| 3 | SK53 | 楕円形 | 78 65 43 SK53-SK57 2.24 |
| 4 | SK57 | 楕円形 | 67 56 44 |
| 5 | | | |
| 6 | SK417 | 楕円形 | (76) 60 72 SK417-P2H9 2.28 |
| 7 | P2H9 | 楕円形 | 80 60 10 P2H9-SK65 2.32 |
| 8 | SK65 | 楕円形 | 62 56 49 SK65-SK62 2.34 |
| 9 | SK62 | 楕円形 | 74 61 52 SK62-SK58 2.28 |
| 10 | SK58 | 楕円形 | 79 67 45 |

SB261 (図版5・8)

| 位置 | 3J | 軒行3.76m, 梁間3.04m | 床面積 11.43 ㎡ |
|----|-------|------------------|---------------------------|
| 年代 | | 構造 2階×2階 | 方位: N-7°E |
| 柱穴 | 形状 | 長さ(㎝) | 幅(㎝) 深さ(㎝) 柱穴間隔(㎝) |
| 1 | P3J33 | 楕丸方形 | 56 48 17 |
| 2 | | | |
| 3 | P3J83 | 楕円形 | 68 48 26 P3J83-P3J82 1.96 |
| 4 | P3J82 | 楕円形 | 56 36 40 P3J82-P3J81 1.84 |
| 5 | P3J81 | 不整形 | 72 44 24 P3J81-P3J78 1.56 |
| 6 | P3J78 | 不整形 | 72 56 26 |
| 7 | | | |
| 8 | P3J75 | 楕丸方形 | 56 52 63 P3J75-P3J33 1.96 |

SB262 (図版14)

| 位置 | 3J4J | 軒行4.2m, 梁間3.16m | 床面積 13.27 ㎡ |
|----|-------|-----------------|---------------------------|
| 年代 | | 構造 2階×3階 | 方位: N-1°W |
| 柱穴 | 形状 | 長さ(㎝) | 幅(㎝) 深さ(㎝) 柱穴間隔(㎝) |
| 1 | P3J29 | 楕円形 | 20 16 32 P3J29-P4J4 1.60 |
| 2 | P4J4 | 円形 | 24 24 15 P4J4-P4J3 1.60 |
| 3 | P4J3 | 円形 | 24 24 16 |
| 4 | | | |
| 5 | | | |
| 6 | | | |
| 7 | | | |
| 8 | P3J41 | 円形 | 16 16 17 P3J41-P3J37 1.60 |
| 9 | P3J37 | 楕円形 | 44 16 8 P3J37-P3J30 1.60 |
| 10 | P3J30 | 円形 | 16 16 12 P3J30-P3J29 1.00 |

SB264 (図版 5・7)

| 位置 | 2J | 軒行 4.84m, 梁間 1.6m | 床面積 7.74 ㎡ |
|----|-------|-------------------|----------------------------|
| 年代 | 構造 | 3間×2間 | 方位: N-93°-W |
| 柱穴 | 形状 | 長さ(㎝) 幅(㎝) 深さ(㎝) | 柱穴間隔(㎝) |
| 1 | SK66 | 楕円形 | 70 64 70 SK66-SK67 2.48 |
| 2 | SK67 | 楕円形 | 62 60 74 SK67-SK418 2.36 |
| 3 | SK418 | 楕円形 | 160 120 49 SK418-SK72 1.60 |
| 4 | SK72 | 楕円形 | 64 60 49 SK72-SK70 2.36 |
| 5 | SK70 | 楕円形 | 64 63 42 SK70-SK68 2.48 |
| 6 | SK68 | 楕円形 | 78 69 53 SK68-SK66 1.60 |

SB265 (図版 5・8)

| 位置 | 2J | 軒行 4.00m, 梁間 2.4m | 床面積 9.6 ㎡ | |
|----|-------|-------------------|---------------------------|---------------------|
| 年代 | 構造 | 3間×1間 | 方位: N-89°-W | |
| 柱穴 | 形状 | 長さ(㎝) 幅(㎝) 深さ(㎝) | 柱穴間隔(㎝) | |
| 1 | SK414 | 楕円形 (68) | (38) | 23 SK414-P2162 1.64 |
| 2 | P2161 | 隅丸方形 | 56 48 39 P2161-P2160 2.40 | |
| 3 | P2160 | 楕円形 | 64 48 35 P2160-SK73 4.00 | |
| 4 | SK73 | 楕円形 | 48 40 35 | |
| 5 | | | | |

SB266 (図版 5・8)

| 位置 | 2J | 軒行 4.08m, 梁間 1.92m | 床面積 7.83 ㎡ |
|----|-------|--------------------|---------------------------|
| 年代 | 構造 | 3間×2間 | 方位: N-85°-W |
| 柱穴 | 形状 | 長さ(㎝) 幅(㎝) 深さ(㎝) | 柱穴間隔(㎝) |
| 1 | P2123 | 楕円形 | 62 40 33 P2123-P2142 1.58 |
| 2 | P2142 | 楕円形 | 40 32 24 P2142-P2147 1.46 |
| 3 | P2176 | 楕円形 | 32 28 25 P2176-P2166 1.92 |
| 4 | P2166 | 楕円形 | 40 32 32 P2166-P2178 1.04 |
| 5 | P2182 | 楕円形 | 28 24 12 P2182-P2139 1.52 |
| 6 | P2139 | 円形 | 24 24 10 P2139-P2123 1.92 |

SB267 (図版 16・17)

| 位置 | 3JK4K | 軒行 10.2m, 梁間 3.12m | 床面積 31.82 ㎡ |
|----|-------|--------------------|---------------------------|
| 年代 | 構造 | 5間×2間 | 方位: N-89°-W |
| 柱穴 | 形状 | 長さ(㎝) 幅(㎝) 深さ(㎝) | 柱穴間隔(㎝) |
| 1 | P3111 | 楕円形 | 32 28 32 P3111-P3157 1.96 |
| 2 | P3157 | 円形 | 30 28 35 P3157-P3159 1.92 |
| 3 | P3159 | 円形 | 20 20 14 |
| 4 | | | |
| 5 | P4K2 | 楕円形 | 28 24 18 |
| 6 | | | |
| 7 | P4K5 | 楕円形 | 36 28 24 P4K5-P4K9 2.04 |
| 8 | P4K9 | 楕円形 | 40 32 23 P4K9-P4K13 2.36 |
| 9 | P4K13 | 円形 | 34 36 22 P4K13-P3K11 1.96 |
| 10 | P3K11 | 楕円形 | 36 28 23 P3K11-P3K3 2.04 |
| 11 | P3K3 | 楕円形 | 44 36 46 P3K3-P3K2 1.92 |
| 12 | P3K2 | 円形 | 32 32 35 P3K2-P3K1 1.96 |
| 13 | P3K1 | 楕円形 | 32 26 20 P3K1-P3J53 1.80 |
| 14 | P3J53 | 円形 | 32 32 32 P3J53-P3J11 1.40 |

SB268 (図版 5)

| 位置 | 2K | 軒行 (4.64)m, 梁間 (1.48)m | 床面積 (6.87) ㎡ |
|----|-------|------------------------|----------------------------|
| 年代 | 構造 | 3間×2間 | 方位: N-81°-W |
| 柱穴 | 形状 | 長さ(㎝) 幅(㎝) 深さ(㎝) | 柱穴間隔(㎝) |
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | P2K66 | 円形 | 36 32 15 P2K66-P2K64 1.84 |
| 4 | P2K2 | 円形 | 30 (30) 33 P2K2-P2K11 1.48 |
| 5 | P2K11 | 楕円形 | 40 36 36 P2K11-P2K52 0.88 |
| 6 | 2K52 | 楕円形 | 36 24 19 P2K52-P2K49 1.08 |
| 7 | P2K49 | 楕円形 | 30 30 20 |

SB271 (図版 5)

| 位置 | 3K | 軒行 1.68m, 梁間 1.6m | 床面積 2.69 ㎡ |
|----|-------|-------------------|---------------------------|
| 年代 | 構造 | 1間×1間 | 方位: N-62°-W |
| 柱穴 | 形状 | 長さ(㎝) 幅(㎝) 深さ(㎝) | 柱穴間隔(㎝) |
| 1 | P3K54 | 楕円形 | 24 20 16 P3K54-P3K27 2.00 |
| 2 | P3K27 | 楕円形 | 24 20 27 P3K27-P3K37 2.12 |
| 3 | P3K37 | 楕円形 | 36 32 18 P3K37-P3K45 1.60 |
| 4 | P3K45 | 楕円形 | 32 24 14 P3K45-P3K54 1.60 |

SB273 (図版 9・11)

| 位置 | 2K2L | 軒行 3.84m, 梁間 3.04m | 床面積 11.67 ㎡ |
|----|--------|--------------------|-----------------------------|
| 年代 | 構造 | 3間×2間 | 方位: N-7°-E |
| 柱穴 | 形状 | 長さ(㎝) 幅(㎝) 深さ(㎝) | 柱穴間隔(㎝) |
| 1 | P2K67 | 円形 | 28 28 49 P2K67-P2K30 1.00 |
| 2 | P2K30 | 楕円形 | 56 36 27 P2K30-P2K76 1.28 |
| 3 | P2K76 | 楕円形 | 36 28 17 P2K76-P2K37 1.44 |
| 4 | P2K37 | 楕円形 | 36 28 24 P2K37-P2L20 1.36 |
| 5 | P2L20 | 円形 | 52 48 37 P2L20-SK150B 1.72 |
| 6 | SK150B | 楕円形 | 46 36 41 SK150B-P2L127 1.44 |
| 7 | P2L127 | 長方形 | 48 36 40 P2L127-P2L60 1.44 |
| 8 | P2L60 | 隅丸方形 | 56 36 47 P2L60-P2L62 1.08 |
| 9 | P2L62 | 楕円形 | 40 32 26 P2L62-P2K58 1.64 |
| 10 | P2K58 | 楕円形 | 44 36 23 P2K58-P2K57 1.40 |

SB274A (図版 9・11)

| 位置 | 2L3L | 軒行 7m, 梁間 4.04m | 床面積 28.28 ㎡ |
|----|-------|------------------|------------------------------|
| 年代 | 構造 | 5間×3間 | 方位: N-12°-E |
| 柱穴 | 形状 | 長さ(㎝) 幅(㎝) 深さ(㎝) | 柱穴間隔(㎝) |
| 1 | SX149 | 楕円形 | 160 100 57 SX149-SX200 2.12 |
| 2 | SK200 | 楕円形 | 128 116 110 SK200-SK216 2.00 |
| 3 | SK216 | 楕円形 | 100 92 79 SK216-SK205 2.00 |
| 4 | SK202 | 楕円形 | 52 28 135 SK202-SX171 3.40 |
| 5 | SX171 | 円形 | 120 112 134 SX171-SX172 1.96 |
| 6 | SX172 | 楕円形 | 60 44 55 SX172-SK168 1.08 |
| 7 | SX168 | 楕円形 | 144 105 61 SX168-SK179 3.40 |
| 8 | SK179 | 楕円形 | 179 107 61 SK179-SX149 3.52 |

SB274B (図版 9・11)

| 位置 | 2L3L | 軒行 4m, 梁間 3.4m | 床面積 13.6 ㎡ |
|----|-------|------------------|-----------------------------|
| 年代 | 構造 | 3間×2間 | 方位: N-12°-E |
| 柱穴 | 形状 | 長さ(㎝) 幅(㎝) 深さ(㎝) | 柱穴間隔(㎝) |
| 1 | SX152 | 隅丸方形 | (70) 90 39 SX152-SK201 1.96 |
| 2 | SK201 | 楕円形 | 90 80 87 SK201-SK204 2.00 |
| 3 | SK204 | 楕円形 | 110 80 86 SK204-SK227 2.36 |
| 4 | SK237 | 楕円形 | 40 30 32 SK237-SK225 1.76 |
| 5 | SK225 | 不整形 | 110 100 76 SK225-SX176 1.76 |
| 6 | SX176 | 楕円形 | (40) 70 51 SX176-SK167 1.60 |
| 7 | SX167 | 不整形 | 140 110 52 SX167-SK165 1.96 |
| 8 | SK165 | 楕円形 | 70 50 36 SK165-SX162 2.10 |

SB275 (図版 9・11)

| 位置 | 2L | 軒行 2.92m, 梁間 2.84m | 床面積 8.20 ㎡ |
|----|--------|--------------------|-----------------------------|
| 年代 | 構造 | 2間×2間 | 方位: N-10°-E |
| 柱穴 | 形状 | 長さ(㎝) 幅(㎝) 深さ(㎝) | 柱穴間隔(㎝) |
| 1 | P2L107 | 円形 | 36 32 14 P2L107-SK151B 1.60 |
| 2 | P2L6 | 円形 | 44 44 19 P2L6-P2L134 2.80 |
| 3 | P2L134 | 楕円形 | 20 16 12 P2L134-P2L110 1.20 |
| 4 | P2L110 | 楕円形 | 52 32 30 P2L110-P2L107 2.80 |

SB276 (図版 9・11)

| 位置 | 2L | 軒行 2.80m, 梁間 2.0m | 床面積 5.6 ㎡ |
|----|--------|-------------------|------------------------------|
| 年代 | 構造 | 2間×2間 | 方位: N-81°-E |
| 柱穴 | 形状 | 長さ(㎝) 幅(㎝) 深さ(㎝) | 柱穴間隔(㎝) |
| 1 | SX177 | 隅丸方形 | 124 108 72 SX177-P2L128 1.40 |
| 2 | P2L128 | 楕円形 | 32 24 19 P2L128-P3L72 1.40 |
| 3 | P3L72 | 長方形 | 52 36 24 P3L72-P3L71 1.00 |
| 4 | P3L71 | 楕円形 | 44 32 43 P3L71-SK169 1.00 |
| 5 | SK169 | 楕円形 | 52 36 17 SK169-SK166 1.40 |
| 6 | SK166 | 楕円形 | 64 40 24 SK166-P2L90 1.40 |
| 7 | P2L90 | 隅丸方形 | 44 36 21 P2L90-SX177 2.00 |

SB277 (図版 9)

| 位置 | 2L | 軒行 4.32m, 梁間 3.22m | 床面積 13.91 ㎡ |
|----|--------|--------------------|-----------------------------|
| 年代 | 構造 | 3間×2間 | 方位: N-80°-W |
| 柱穴 | 形状 | 長さ(㎝) 幅(㎝) 深さ(㎝) | 柱穴間隔(㎝) |
| 1 | P2L65 | 楕円形 | 36 32 23 P2L65-P2L35 1.88 |
| 2 | P2L35 | 円形 | 24 24 26 P2L35-P2L38 1.04 |
| 3 | P2L38 | 円形 | 20 20 17 P2L38-P2L17 1.40 |
| 4 | P2L17 | 楕円形 | 36 32 18 P2L17-P2L114 1.60 |
| 5 | P2L114 | 楕円形 | 40 32 26 P2L114-P2L139 1.60 |
| 6 | P2L139 | 楕円形 | 66 36 55 P2L139-SK160 1.44 |
| 7 | SK160 | 楕円形 | 64 59 72 SK160-P2L54 0.92 |
| 8 | P2L54 | 楕円形 | 48 44 60 |
| 9 | | | |
| 10 | | | |

SB278 (図版9・10)

| 位置 | 2L | 衝行1.96m, 梁間1.56m | 床面積3.06㎡ |
|----|-------|------------------|---------------------------|
| 年代 | 構造 | 1間×2間 | 方位: N-13°-E |
| 柱穴 | 形状 | 長さ(m) | 幅(m) 深さ(m) 柱穴間隔(m) |
| 1 | SK162 | 楕円形 | 58 43 47 SK162-P2L36 1.56 |
| 2 | P2L36 | 不整形円形 | 52 52 36 P2L36-P2L46 0.76 |
| 3 | P2L46 | 円形 | 20 16 10 P2L46-P2L51 1.20 |
| 4 | P2L51 | 楕丸方形 | 36 32 36 |
| 5 | | | |
| 6 | | | |

SB280 (図版9・10)

| 位置 | 2L | 衝行3.10m, 梁間2.4m | 床面積7.584㎡ |
|----|--------|-----------------|------------------------------|
| 年代 | 構造 | 2間×3間 | 方位: N-10°-E |
| 柱穴 | 形状 | 長さ(m) | 幅(m) 深さ(m) 柱穴間隔(m) |
| 1 | | | |
| 2 | SK159 | 楕円形 | 60 52 50 SK159-P2L121 1.20 |
| 3 | P2L121 | 円形 | 32 22.2 28 P2L121-P2L73 1.20 |
| 4 | P2L73 | 楕丸方形 | 64 46 47 P2L73-P2L117 0.80 |
| 5 | P2L117 | 楕円形 | 36 28 27 P2L117-P2M1 1.16 |
| 6 | P2M1 | 楕丸方形 | 48 36 35 |
| 7 | | | |
| 8 | | | |

SB281 (図版9・10)

| 位置 | 2L | 衝行3.2m, 梁間2.2m | 床面積7.04㎡ |
|----|-------|----------------|---------------------------|
| 年代 | 構造 | 2間×2間 | 方位: N-10°-E |
| 柱穴 | 形状 | 長さ(m) | 幅(m) 深さ(m) 柱穴間隔(m) |
| 1 | P2L57 | 円形 | 24 24 24 P2L57-P2L76 1.08 |
| 2 | P2L76 | 楕円形 | 64 30 31 P2L76-SX148 1.12 |
| 3 | SX148 | 楕円形 | 60 32 20 SX148-SX196 1.60 |
| 4 | SX196 | 楕円形 | 88 80 14 SX196-P2M2 1.60 |
| 5 | P2M2 | 円形 | 28 28 44 |
| 6 | | | |
| 7 | | | |
| 8 | | | |

SB282 (図版9・14)

| 位置 | 3M | 衝行4.72m, 梁間1.84m | 床面積8.68㎡ |
|----|-------|------------------|----------------------------|
| 年代 | 構造 | 1間×2間 | 方位: N-2°-E |
| 柱穴 | 形状 | 長さ(m) | 幅(m) 深さ(m) 柱穴間隔(m) |
| 1 | SK191 | 楕円形 | 88 84 102 SK191-SK112 1.84 |
| 2 | SK112 | 楕円形 | 94 84 74 SK112-SK130 2.00 |
| 3 | SK130 | 円形 | 82 77 62 SK130-SX197 2.72 |
| 4 | SX197 | 楕丸方形 | 80 80 16 SX197-SK127 1.84 |
| 5 | SK127 | 円形 | 91 86 120 SK127-SK114 2.80 |
| 6 | SK114 | 円形 | 75 72 50 SK114-SK191 1.92 |

SB283 (図版9)

| 位置 | 2M | 衝行3.00m, 梁間2.20m | 床面積6.6㎡ |
|----|-------|------------------|---------------------------|
| 年代 | 構造 | 2間×2間 | 方位: N-3°-E |
| 柱穴 | 形状 | 長さ(m) | 幅(m) 深さ(m) 柱穴間隔(m) |
| 1 | | | |
| 2 | P2M52 | 円形 | 24 24 11 P2M52-P2M54 1.12 |
| 3 | P2M54 | 円形 | 28 28 7 P2M54-P2M65 1.48 |
| 4 | P2M65 | 円形 | 28 24 7 |
| 5 | | | |
| 6 | | | |

SB284 (図版12・13)

| 位置 | 3N | 衝行5.92m, 梁間3.6m | 床面積21.31㎡ |
|----|-------|-----------------|---------------------------|
| 年代 | 構造 | 14間×2間 | 方位: N-87°-W |
| 柱穴 | 形状 | 長さ(m) | 幅(m) 深さ(m) 柱穴間隔(m) |
| 1 | P3N40 | 円形 | 36 32 18 P3N40-P3N36 1.08 |
| 2 | P3N36 | 円形 | 32 30 25 P3N36-P3N35 1.64 |
| 3 | P3N35 | 円形 | 34 30 33 |
| 4 | P3N43 | 円形 | 36 32 30 P3N43-P3N40 1.80 |
| 5 | | | |
| 6 | | | |
| 7 | | | |
| 8 | | | |
| 9 | | | |
| 10 | | | |

SA269 (図版5)

| 位置 | 2K | 衝行m, 梁間m | |
|----|-------|----------|---------------------------|
| 年代 | 構造 | | 方位: N-87°-W |
| 柱穴 | 形状 | 長さ(m) | 幅(m) 深さ(m) 柱穴間隔(m) |
| 1 | P2K12 | 不整形円形 | 40 40 33 P2K12-P2K14 1.40 |
| 2 | P2K13 | 円形 | 30 30 17 P2K13-P2K22 |
| 3 | | | |
| 4 | P2K22 | 楕丸方形 | 44 36 15 P2K22-SK433 1.40 |
| 5 | SK433 | 円形 | 28 28 33 SK433-P3K50 0.80 |
| 6 | P3K50 | 楕円形 | 20 15 7 P3K50-P3K51 1.10 |
| 7 | P3K51 | 楕円形 | 20 22 12 |

SA270 (図版5・7)

| 位置 | 2K | 衝行m, 梁間m | |
|----|-------|----------|---------------------------|
| 年代 | 構造 | | 方位: N-90°-W |
| 柱穴 | 形状 | 長さ(m) | 幅(m) 深さ(m) 柱穴間隔(m) |
| 1 | P2K7 | 楕円形 | 32 28 29 P2K7-SK77 1.40 |
| 2 | SK77 | 楕円形 | 56 40 11 SK77-P2K21 0.88 |
| 3 | P2K21 | 楕円形 | 40 36 33 P2K21-P2K84 1.40 |
| 4 | P2K84 | 楕円形 | 28 (24) 19 |

SA272 (図版5・7)

| 位置 | 2K | 衝行m, 梁間m | |
|----|-------|----------|---------------------------|
| 年代 | 構造 | | 方位: N-76°-W |
| 柱穴 | 形状 | 長さ(m) | 幅(m) 深さ(m) 柱穴間隔(m) |
| 1 | P2K55 | 楕円形 | 36 28 29 P2K55-P2K28 2.40 |
| 2 | P2K28 | 円形 | 28 28 25 P2K28-P2K34 2.12 |
| 3 | P2K34 | 楕丸方形 | 36 28 24 P2K34-P2K45 1.84 |
| 4 | P2K45 | 楕円形 | 28 24 24 |

別表2 井戸觀察表

| 通稱 番号 | 分別 採掘 時期 | 調査地区 | 形 | | | 分 割 | 上層 (cm) | | 下層 (cm) | | 深さ (cm) | 出土遺物 |
|----------|----------------|------------|------|------|------|--------|---------|-------|---------|-------|------------|---|
| | | | 平面 | 断面 | 底面 | | 長軸 | 短軸 | 長軸 | 短軸 | | |
| SE 8 | | 2G16~17 | 圓丸方形 | 箱形 | 円形 | C | (132) | (122) | 66 | 62 | (112) | 土師質皿小19、土師質皿大9、珠洲鉢1、土師釜1、柱下部1 土師質皿小28、土師質皿大17、須置環2、土師碗1、土師壺 5、木筒5、陶製みかん1、漆器1、漆皿1、曲付物櫃2、箸、漆 材等、板状金属2、黄銅錠1、炭化米 |
| SE 9 | 2 | 3G17~22 | 方形 | 箱形 | 方形 | B | (206) | (180) | (150) | (142) | (154) | 土師質皿小4、土師質皿大2、机3、自然木2、木片等、 鉄片6、砂壁2、炭化米、種子(不明) |
| SE101 | 9 | 10/2M 8 | 楕円形 | U字形 | 方形 | C | 141 | 122 | 54 | 42 | 164 | 土師質皿小1、土師質皿大1、石製品不明1、鉄片3、炭 化米 |
| SE104 | 9 | 10/2M10 | 円形 | U字形 | 方形 | C | 144 | 124 | 50 | 44 | 130 | 土師質皿大1、土師鉢1、箸、脚部、板4、木札1、板材1、 部材4等、鉄片3、繩、縄 |
| SE111 | | 3M13 | 円形 | 台形 | 楕円形 | C | 125 | 122 | 80 | 72 | 136 | 土師質皿大2、土師質皿大17、須置環2、土師碗1、土師壺 5、木筒5、陶製みかん1、漆器1、漆皿1、曲付物櫃2、箸、漆 材等、板状金属2、黄銅錠1、炭化米 |
| SE113 | | 3M1415 | 円形 | 台形 | 円形 | D | 113 | 108 | 68 | 66 | 78 | 須置環1、石製品(不明)1、鉄片1 |
| SE115 | | 3M18 | 楕円形 | 箱形 | 円形 | D | 95 | 81 | 66 | 64 | 116 | 土師質皿小5、土師質皿大9、木筒1、木片1 |
| SE116 | | 3M17 | 楕円形 | 台形 | 楕円形 | D | 67 | 65 | 40 | 36 | 60 | 土師質皿小1、自然木(炭化)1、鉄片1、骨(不明)、炭化米 |
| SE125 | 9 | 10/3M22 | 楕円形 | U字形 | 楕円形 | D | 73 | 69 | 54 | 22 | 120 | 土師質皿小1、土師質皿大9、珠洲鉢2、磁石1、軽石1、 漆碗3、竹札、部材、板材4、木札3、硝子板1、底板1、 机7等、鉄片4、炭化米 |
| SE129 | | 3M18~23 | 楕円形 | 台形 | 楕円形 | D | 80 | 74 | 54 | 44 | 78 | 土師質皿大2 |
| SE131 | | 3M24 | 円形 | 台形 | 楕円形 | D | 100 | 100 | 64 | 52 | 65 | 土師質皿小5 |
| SE136 | | 3N16 | 円形 | 台形 | 円形 | D | 75 | 74 | 35 | 33 | 90 | 土師質皿小2、土師質皿大1、炭化米 |
| SE137 | | 3N19~20 | 円形 | 箱形 | 円形 | D | 77 | 75 | 50 | 48 | 100 | 土師質皿小23、土師質皿大1、石製品不明1 |
| SE138 | | 2O3 | 楕円形 | 台形 | 楕円形 | D | 109 | 81 | 62 | 56 | (92) | 土師質皿小4、土師質皿大2、白磁皿1、石皿1、砂壁1 土師質皿小4、土師質皿大1、土師質皿不明1、珠洲鉢3、須置 環1、石製品不明1、鉄片3、棒状金属2 |
| SE139 | | 2O13 | 円形 | 台形 | 方形 | D | 83 | 76 | 50 | 42 | (90) | 土師質皿小6、土師質皿大10、瀬戸黄磁鉢1、青磁鉢1、 白磁鉢2、須置環1、石製品不明1、底板1、曲付物櫃板1、 板材1、自然木4、鉄片2 |
| SE140 | | 2P13 | 楕円形 | 箱形 | 楕円形 | C | 140 | 100 | 110 | 56 | (113) | 土師質皿小6、土師質皿大10、瀬戸黄磁鉢1、青磁鉢1、 白磁鉢2、須置環1、石製品不明1、底板1、曲付物櫃板1、 板材1、自然木4、鉄片2 |
| SE144 | | 3M2~3 | 楕円形 | 口→円形 | 円形 | C | 156 | 130 | 73 | 70 | 167 | 石皿1、曲付物櫃2、木片3 |
| SE178 | | 3M1 | 楕円形 | 台形 | 楕円形 | D | 109 | 102 | 56 | 54 | 104 | 土師質皿小4、土師質皿大1、白磁皿1、木片1、鉄片2 |
| SE180 | 9 | 10/2M13 | 方形 | 台形 | 圓丸方形 | C | 154 | 148 | 70 | 48 | 150 | 土師質皿小4、石製品不明1、折敷4、漆碗3、木札2、曲 付物櫃板2、机、丸牌3、机2 |
| SE190 | | 3M12 | 圓丸方形 | U字形 | 楕円形 | C | 130 | 110 | 54 | 50 | 100 | 土師質皿大2、珠洲鉢1、磁石1、石製品不明4、漆碗2、部 材、机片5、鉄片1、骨(不明)、炭化米 |
| SE205 | 9 | 10/3L12 | 楕円形 | 口→円形 | 円形 | C | 155 | 139 | 78 | 77 | 154 | 土師質皿小19、土師質皿大9、石製品不明1、曲付物櫃板 2、箸、柱2、木札14、竹べら2、木片6、自然木、木の 皮等、釘1、銅線2、胡蝶紙2、粟皮炭、炭化米 |
| SE236 | 18 | 19/4L12~17 | 楕円形 | 台形 | 方形 | A | 336 | 299 | 161 | 77 | 104 | 土師質皿小19、土師質皿大9、石製品不明1、曲付物櫃板 2、箸、柱2、木札14、竹べら2、木片6、自然木、木の 皮等、釘1、銅線2、胡蝶紙2、粟皮炭、炭化米 |
| SE407 | 5 | 6/2H12 | 圓丸方形 | 口→円形 | 楕円形 | B | 181 | 167 | 136 | 128 | 230 | 土師質皿小9、土師質皿大3、磁石1、曲付物櫃板2 土師質皿大2、珠洲鉢12、珠洲鉢2、須置環2、漆碗2、漆 板3、柱2、下駄2、木札2、柱板1、机21、棒3、板 材、自然木等、種子(不明) |
| SE432 | 5 | 10/3K17 | 楕円形 | 箱形 | 円形 | C | 126 | 103 | 72 | 74 | 80 | 土師質皿小9、土師質皿大3、磁石1、曲付物櫃板2 土師質皿大2、珠洲鉢12、珠洲鉢2、須置環2、漆碗2、漆 板3、柱2、下駄2、木札2、柱板1、机21、棒3、板 材、自然木等、種子(不明) |
| SE435 | 18 | 3K24 | 楕円形 | 台形 | 方形 | B | 190 | 160 | 110 | 94 | 238 | 土師質皿小9、土師質皿大3、磁石1、曲付物櫃板2 土師質皿大2、珠洲鉢12、珠洲鉢2、須置環2、漆碗2、漆 板3、柱2、下駄2、木札2、柱板1、机21、棒3、板 材、自然木等、種子(不明) |

別表3 土坑觀察表

| 通稱 番号 | 分別 採掘 時期 | 調査地区 | 形 | | | 分 割 | 上層 (cm) | | 下層 (cm) | | 深さ (cm) | 出土遺物 |
|----------|----------------|---------------------------------|------|-----|------|----------|---------|-------|---------|-----|------------|------------------------------------|
| | | | 平面 | 断面 | 底面 | | 長軸 | 短軸 | 長軸 | 短軸 | | |
| SK2 | 2 | 2G6・7 | 楕円形 | U字形 | 楕円形 | | 56 | 40 | 28 | 16 | 37 | 8)土師質皿小6・大3 |
| SK11 | 2 | 2G21,2H1 | 圓丸方形 | 樽形 | 圓丸方形 | | 107 | 85 | 68 | 68 | 51 | 7)土師質皿大2、土師鉢3、漆2 |
| SK20 | 2 | 2H8・13 | 楕円形 | 台形 | 楕円形 | | 84 | 82 | 72 | 60 | 46 | 2)土師質皿小1、須置環1 |
| SK21 | 2 | 2H8・13 | 楕円形 | 台形 | 楕円形 | | 59 | 49 | 40 | 28 | 44 | 4)土師質皿小3、青磁鉢1 |
| SK33 | 5 | 2J24・25、 2K4・5 | 楕円形 | 台形 | 楕円形 | | 380 | 292 | 340 | 180 | 66 | 4)土師質皿小3、珠洲鉢鉢1 |
| SK35 | 2 | 2H16・17・ 21・22 | 楕円形 | 台形 | 円形 | | 158 | 110 | 80 | 80 | 82 | 3)土師質皿小4・大26、瀬戸 白磁鉢1 |
| SK42 | 2 | 2H23 | 楕円形 | 台形 | 楕円形 | | 139 | 114 | 84 | 68 | 133 | 1)土師質皿小9・大1、青磁鉢1、 須置環1 |
| SK71 | 5 | 6/3J1・6 | 楕円形 | 台形 | 方形 | | 118 | 116 | 80 | 60 | 95 | 8)土師質皿小6・大2 |
| SK76 | 5 | 2K8 | 圓丸方形 | 台形 | 楕円形 | | 85 | 82 | 64 | 52 | 55 | 1)土師質皿1 |
| SK79 | 5 | 2H13・14・ 18・19 | 楕円形 | 圓形 | 楕円形 | | 273 | 212 | 208 | 164 | 49 | 18)土師質皿小11・大7 |
| SK80 | 5 | 2H17・18・ 22・23 | 楕円形 | 圓形 | 楕円形 | | 155 | 127 | 132 | 112 | 15 | 148)土師質皿小122・大26 |
| SK81 | 2 | 3/2F22・2G2 | 方形 | 箱形 | 方形 | (284) | (276) | (152) | (144) | 89 | 60 | 土師質皿小31・大27、青磁 鉢2 |
| SK86 | 2 | 3/2G12 | 不整形 | 台形 | 不整形 | | 135 | 117 | 96 | 76 | 124 | 42)土師質皿小272・大153、珠 洲鉢鉢1、白磁鉢2・費1 |
| SK89 | 5 | 3H17~19・ 21~24・3J1 ~3・6~8 | 楕円形 | 台形 | 楕円形 | | 577 | 381 | 344 | 128 | 87 | 26)漆2、瀬戸黄磁1、白磁鉢4、 須置環1 |
| SK90 | 5 | 3J19 | 圓丸方形 | 台形 | 円形 | | 78 | 74 | 60 | 56 | 53 | 19)土師質皿小14・大5、 |
| SK91 | 2 | 2G7 | 楕円形 | 台形 | 楕円形 | | 94 | 66 | 68 | 60 | 87 | 12)土師質皿小11・大1 |
| SK93A | 2 | 6/3J8・13 | 楕円形 | 圓形 | 不整形 | | 164 | 99 | 68 | 60 | 37 | 12)土師質皿小11・大1 |
| SK93B | 5 | 3J13 | 楕円形 | 圓形 | 不整形 | 160(100) | 150 | 90 | 10 | | | |
| SK94 | 5 | 6/3J22 | 圓丸方形 | 台形 | 方形 | | 96 | 96 | 40 | 40 | 104 | 2)土師質皿小2 |
| SK95 | 5 | 6/2J20 | 楕円形 | 台形 | 不整形 | | 111 | 98 | 48 | 44 | 87 | 1)土師質皿小1 |
| SK96 | 20 | 2J20・25,3J16 ・21,3K1・2 | 不整形 | 圓形 | 不整形 | | 460 | 240 | 440 | 160 | 18 | 1)土師質皿小6・大4、珠洲鉢 鉢1、不明鉢1 |

| 遺構 番号 | 分期 図 | 調査地区 | 形 態 | | | 上層 (cm) | | 下層 (cm) | | 深度 (cm) | 残存 | 出土遺物 | | |
|----------|---------|----------------------------|-------|-----|-------|---------|-------|---------|-------|------------|----|---|-------------------------|----|
| | | | 平面 | 断面 | 底面 | 長軸 | 短軸 | 長軸 | 短軸 | | | 土器・陶磁器種別 | 木・石・金属製品 | |
| SK108 | 9 | 3M6 | 楕円形 | 台形 | | 120 | 103 | 88 | 44 | 81 | | 土師貫土小2・大5 | 木札、板 | |
| SK122 | 9 | 3N2・3 | 楕円形 | 台形 | 楕円形 | 29 | 26 | 18 | 16 | 17 | 2 | 土師貫土小15・大2、須恵焼 片7 | | |
| SK124 | 9 | 3M21 | 円形 | 台形 | 楕円形 | 92 | 90 | 52 | 44 | 104 | 1 | 土師貫土大1 | 砂壁、鉄滓 | |
| SK126 | 9 | 3M22 | 楕円形 | 台形 | 円形 | 54 | 50 | 36 | 32 | 16 | | | | |
| SK127 | 9/10 | 3M23 | 円形 | 台形 | 円形 | 91 | 86 | 48 | 48 | 120 | 3 | 土師貫土小2・不明跡1 | 木片 | |
| SK128 | 9 | 3M23 | 楕円形 | 台形 | 円形 | 77 | 76 | 48 | 44 | 126 | | | 板 | |
| SK130 | 9 | 3M19 | 円形 | 台形 | 円形 | 82 | 77 | 48 | 44 | 62 | 1 | 土師土 | 鉄滓 | |
| SK134 | 9 | 3N3・8 | 楕円形 | 台形 | 円形 | 82 | 76 | 48 | 48 | 74 | 16 | 土師貫土大16 | | |
| SK142 | 9 | 2L24・25, 3M4・5・ 9・10 | 隅丸方形 | 箱形 | 隅丸方形 | 360 | 300 | 272 | 240 | 45 | 16 | 土師貫土大4、吉福陶1、須恵 陶器2・坏7、土師陶1・泰2 | 砂壁、鉄滓 | |
| SK177 | 9 | 2L15 | 隅丸方形 | 半円形 | 隅丸方形 | 124 | 108 | 72 | 68 | 72 | 5 | 土師貫土小1・大3、土師陶1 | 砂壁、鉄滓 | |
| SK185 | 9 | 2M21 | 隅丸方形 | 台形 | 方形 | (148) | (138) | | | | 50 | 1 | 須恵陶坏1 | 鉄滓 |
| SK200 | 9 | 3L2・6・7 | 楕円形 | U字形 | 楕円形 | 128 | 116 | 44 | 40 | 110 | 19 | 土師貫土小16・大3 | 鉄滓 | |
| SK204 | 9 | 3L17 | 楕円形 | 台形 | 楕円形 | 108 | 76 | 64 | 48 | 86 | 2 | 土師貫土小2 | 木札 | |
| SK206 | 9 | 3L13 | 楕円形 | 台形 | 楕円形 | 108 | 100 | 56 | 48 | 154 | 27 | 土師貫土小2・大16 吉福陶鉢7、吉福4明2 | 動物残骸、漆、漆陶 破片 | |
| SK207 | 18/19 | 3L14 | 楕円形 | 漏斗形 | 不整形 | 268 | 200 | 216 | 120 | 88 | | | | |
| SK209 | 9 | 3L2 | 楕円形 | U字形 | 楕円形 | 100 | 94 | 60 | 52 | 80 | 3 | 土師貫土小3 | 鉄滓 | |
| SK221 | 20/21 | 4O1・6 | 楕円形 | 台形 | 楕円形 | 60 | 54 | 44 | 36 | 35 | | | | |
| SK222 | 20/21 | 4O6 | (楕円形) | 台形 | (楕円形) | (136) | (110) | (76) | (64) | (90) | | | | |
| SK223 | 18/19 | 3L15・20 | 楕円形 | 台形 | 楕円形 | 72 | 52 | 52 | 32 | 100 | 9 | 土師貫土大6、土師泰3 | | |
| SK224 | 9 | 3L22 | 楕円形 | U字形 | 楕円形 | 110 | 94 | 52 | 44 | 112 | 1 | 土師泰1 | 漆塗、深木鉢、底板 | |
| SK225 | 9 | 3L21,3M1 | 楕円形 | 台形 | 楕円形 | 120 | 100 | 88 | 68 | 76 | 3 | 土師貫土小2・浅洲焼鉢1 | | |
| SK227 | 9 | 3L16・21 | 楕円形 | 漏斗形 | 不整形 | 108 | 60 | 88 | 56 | 96 | | | 木札、札、漆、動物 残骸、骨 | |
| SK232 | 9/10 | 3L22 | 楕円形 | U字形 | 楕円形 | 100 | 72 | 96 | 48 | 102 | 3 | 土師貫土小1・大2 | 木製品部材、軽石 | |
| SK234 | 18/19 | 4L18・23 | 楕円形 | 蓋形 | 楕円形 | 70 | 60 | 32 | 28 | 16 | | | | |
| SK235 | 18/19 | 4L6・7 | 楕円形 | 台形 | 楕円形 | 68 | 52 | 40 | 28 | 50 | | | | |
| SK238 | 9 | 3L16 | 隅丸方形 | U字形 | 楕円形 | 116 | 110 | 72 | 52 | 111 | | | | |
| SK239 | 9 | 3M2 | 隅丸方形 | U字形 | 楕円形 | 72 | 64 | 48 | 40 | 88 | 1 | 土師土 | 動物残骸、底板 | |
| SK331 | 20/21 | 3M25,3N5, 4M21,4N1 | 隅丸方形 | 彎曲形 | 隅丸方形 | 290 | 230 | 190 | 160 | 55 | | | | |
| SK347 | 16/17 | 4J13 | 隅丸方形 | 彎曲形 | 楕円形 | 80 | 80 | 96 | 92 | 40 | | | | |
| SK348 | 14 | 4I23・24, 4J3・4 | 隅丸方形 | 不明 | 隅丸方形 | 92 | 88 | 56 | 44 | 88 | | | | |
| SK355 | 14 | 4I13・14 | 楕円形 | | 楕円形 | 48 | 40 | 34 | 20 | 88 | 20 | 土師貫土小1 | | |
| SK371 | 20/21 | 6M5 | 楕円形 | 台形 | 不整形 | 150 | 110 | 152 | 84 | 22 | | | | |
| SK401 | 5 | 6J7・12 | 隅丸方形 | 蓋形 | 円形 | 198 | 194 | 144 | 140 | 38 | | | 鉄滓 | |
| SK402 | 2 | 2I2 | 楕円形 | 蓋形 | 楕円形 | 48 | 36 | 68 | 48 | 38 | 2 | 土師貫土大2 | 底板、板材、木札、丸 棒、木札、動物残骸 | |
| SK423 | 5 | 2I16 | 楕円形 | | 楕円形 | (180) | (148) | (160) | (132) | 9 | 1 | 土師貫土大1 | 磁石 | |
| SK431 | 5 | 3J10 | 楕円形 | 台形 | 楕円形 | 32 | 28 | 24 | 20 | 18 | 3 | 土師貫土小3 | | |
| SK434 | 5 | 3K6・7 | 隅丸方形 | 台形 | 楕円形 | 128 | 108 | 92 | 84 | 145 | | | 動物残骸、構物 | |
| SK437 | 16 | 4K6 | 円形 | 台形 | 楕円形 | 100 | 100 | 68 | 52 | 137 | | | 漆敷、板、板材、木札 | |
| SK440 | 18/19 | 3K24・25, 3L4・5 | 楕円形 | 台形 | 方形 | 152 | 116 | 88 | 52 | 158 | | | | |
| SK444 | 14/15 | 3J4 | 楕円形 | 蓋形 | 楕円形 | 48 | 40 | 32 | 24 | 10 | | | | |
| SK445 | 16/17 | 4J11~14・ 16~25 | 長方形 | 蓋形 | 長方形 | 848 | 408 | 780 | 340 | 53 | 55 | 土師貫土小407・大126・不 明1、浅洲焼鉢7・泰1、吉福 陶4、白磁器2、須恵陶坏2・ 土師陶1 | 石鏡、磁石 | |
| SK446 | 14 | 3I4・5・9・10 | 楕円形 | 台形 | 楕円形 | 104 | 80 | 72 | 60 | 28 | | | | |
| SK452 | 18/19 | 3J9 | 隅丸方形 | 台形 | 楕円形 | 88 | 48 | 68 | 48 | 93 | 4 | 土師貫土小1、土師陶3 | 板材 | |

別表4 土器・陶磁器類の観察表

| 報告 番号 | 種類 | 器種 | 分類 | 時期 | 出土グリッド | 出土遺物 | 覆土層位 | 法 量 (g) | | 透孔率 (%) | 備 考 |
|----------|-------|------------|-------|---------------|-------------------|------------------|-------|---------|----------|------------|-----------------|
| | | | | | | | | 口径 | 高さ 底径 | | |
| 1 | 直志器 | 壺 | | | 3N11～13 | SD145 | 1 | — | (3.90) | — | 頸部径 (9.00) |
| 2 | 直志器 | 壺 | | | 2N7 | SD145 | 1 | — | (10.06) | — | |
| 3 | 直志器 | 壺 | | | 3N | SD145 | 1 | — | (7.30) | — | 頸部径 (24.50) |
| 4 | 土師貫土器 | 甗 | A | | 2N7 | SD145 | 表 | — | (2.55) | 6.40 | 凹肥赤切, 内面炭化物 |
| 5 | 土師貫土器 | 甗 | A | | 2N17, 3N18 ～20 | SD145 | 1 | — | (2.10) | 6.30 | 凹肥赤切 |
| 6 | 土師貫土器 | 甗 | C1b | | 2N16, 3N11 ～13 | SD145 | 1 | (12.10) | (3.30) | — | 6 |
| 7 | 土師貫土器 | 甗 | C1a | | 2N7～8 | SD145 | 3 | (7.60) | (1.50) | (6.70) | 4 外底面滑らか |
| 8 | 土師貫土器 | 甗 | C1a | | 3N18～20 | SD145 | 1 | 7.70 | 1.58 | (7.70) | 9 外底面滑らか |
| 9 | 珠洲焼 | 甗 | | 日期 | | SD145 | | (40.50) | (7.30) | — | 1 |
| 10 | 越前焼 | 壺 or 甗 | | 15C | 2N7 | SD145 | 1 | — | — | — | 再タタキ |
| 11 | 直志器 | 有台坪 | | 8C 後 | 5J8 | SD301 | 膝下 | — | (2.95) | — | 高台径 (9.20), ヘラ切 |
| 12 | 直志器 | 甗 | | | 4L19 | SD301 | 4 | (29.70) | (4.70) | — | 2 |
| 13 | 珠洲焼 | 壺 | | 日期 | 5J13 | SD301 | 膝下 | (22.80) | (5.55) | — | 3 |
| 14 | 珠洲焼 | 甗 | | V期 | | SD301 | 2 | — | — | — | 1 再タタキ |
| 15 | 珠洲焼 | 甗 | | 日期 | | SD301 | 膝下 | — | — | — | 1 再タタキ |
| 16 | 珠洲焼 | 甗鉢 | | 日期 | | SD301 | | — | — | — | 1 |
| 17 | 珠洲焼 | 甗鉢 | | 日期 | | SD301 | 1 | — | — | — | 1 |
| 18 | 珠洲焼 | 甗鉢 | | 日期 | | SD301 | 1 | — | — | — | 1 |
| 19 | 珠洲焼 | 甗鉢 | | 期～IV期 | | SD301 | 4 | — | — | — | 1 |
| 20 | 珠洲焼 | 甗鉢 | | | | SD301 | | — | — | — | |
| 21 | 珠洲焼 | 甗鉢 | | | | SD301 | 上4012 | — | — | 11.50 | 頸口7本, 静止赤切 |
| 22 | 珠洲焼 | 甗鉢 | | | | SD301 | 2 | — | — | 13.00 | 静止赤切 |
| 23 | 珠洲焼 | 甗鉢 | | | | SD301 | 上4012 | — | — | 9.80 | 頸口9本, 静止赤切 |
| 24 | 珠洲焼 | 甗鉢 | | | | SD301 | 膝下 | — | — | 11.20 | 内面炭化物 |
| 25 | 珠洲焼 | 甗鉢 | | | | SD301 | 上4012 | — | — | 8.60 | |
| 26 | 瀬戸美濃 | 阿波瀬戸 香炉 | | | 六瀬戸中期 様式IV期 | SD301 | | (8.60) | — | — | 2 |
| 27 | 土師貫土器 | 甗 | B1a | | 5J3 | SD301 | 膝下 | (13.20) | (3.10) | — | 6 1 縁部前面取り |
| 28 | 土師貫土器 | 甗 | C1b-1 | | | SD301 | | (12.80) | (3.10) | — | 3 |
| 29 | 土師貫土器 | 甗 | B1a | | 4L19 | SD301 | 4 | 12.20 | 2.85 | — | 8 1 縁部前面取り |
| 30 | 土師貫土器 | 甗 | C1a-2 | | 5K6 | SD301 | 膝下 | (12.80) | (3.16) | — | 7 2 段ナデ |
| 31 | 土師貫土器 | 甗 | C1a-2 | | 5J13 | SD301 | 膝下 | (12.50) | (3.00) | — | 4 |
| 32 | 土師貫土器 | 甗 | C1a-2 | | 5J2 | SD301 | | (12.40) | (2.75) | — | 4 内外面炭化物 |
| 33 | 土師貫土器 | 甗 | C1a-2 | | 5J10 | SD301 | 1 | 12.20 | 3.22 | — | 14 |
| 34 | 土師貫土器 | 甗 | C1b | | 4L15 | SD301 | 4 | 7.30 | 1.60 | — | 12 裏面凹み |
| 35 | 土師貫土器 | 甗 | C1a | | | SD301 | | (8.40) | (1.78) | — | 5 |
| 36 | 土師貫土器 | 甗 | C1a | | 5J13 | SD301 | 膝下 | 8.80 | 1.70 | — | 11 |
| 37 | 土師貫土器 | 甗 | C1b | | 5I10 | SD301 | 膝下 | 8.40 | 1.72 | — | 13 |
| 38 | 土師貫土器 | 甗 | C1b | | 5J13 | SD301 | 膝下 | (7.80) | (1.60) | — | 5 |
| 39 | 白編 | 甗 | V | | | SD301 | | (16.90) | (3.40) | — | 2 瓣反 |
| 40 | 土師貫土器 | 甗 | C1a-1 | | 6J5 | SD302 | 5 | (12.60) | (3.25) | — | 1 |
| 41 | 土師貫土器 | 甗 | C1a-1 | | | SD302 | | (13.60) | (2.80) | — | 3 |
| 42 | 土師貫土器 | 甗 | C1a-2 | | 6J15 | SD302 | 5 | (13.60) | (2.40) | — | 3 |
| 43 | 青編 | 甗 | B | 13C末～ 14C初 | 5J15 | SD302 | 5 | — | 2.22 | 5.60 | 高台打欠く, 縁部弁文 |
| 44 | 土師貫土器 | 甗 | C1b | | 2G17・18・ 22・23 | SE9 | 1 | (12.50) | (2.95) | — | 7 内外面炭化物 |
| 45 | 土師貫土器 | 甗 | C1b | | | SE9 | 1 | (8.20) | (1.75) | — | 7 |
| 46 | 灰釉陶器 | 甗 | 10C | | | SE9 | | — | (1.40) | (7.00) | 胎付高台 |
| 47 | 土師貫土器 | 甗 | C1a-1 | | 3M22 | SE125 | 膝下 | (13.00) | (2.65) | — | 2 |
| 48 | 土師貫土器 | 甗 | C1b-1 | | 3N3 | SE134 | 1 | 12.60 | 3.33 | — | 13 内外面炭化物 |
| 49 | 土師貫土器 | 甗 | C1b | | | SK2 (SB251-3) | 1 | (8.00) | (1.56) | — | 3 |
| 50 | 土師貫土器 | 甗 | B1a | | | SK11 | 1 | (13.00) | (2.75) | — | 3 1 縁部前面取り |
| 51 | 直志器 | 坪蓋 | | | | SK20 | | (16.00) | (1.56) | — | 1 |
| 52 | 珠洲焼 | 甗鉢 | | 日期 | 2H17 | SK28 | 1 | (27.80) | (7.10) | — | 2 頸口8本 |
| 53 | 珠洲焼 | 甗 | | 日期 | 2H17 | SK28 | 1 | (42.00) | (2.65) | — | 1 |
| 54 | 土師貫土器 | 甗 | C1b | | 2H17 | SK28 | 1 | (7.00) | (1.40) | — | 4 |
| 55 | 土師貫土器 | 甗 | C1a-1 | | | SK35 | 1 | 14.00 | 3.10 | — | 10 |
| 56 | 越前焼 | 甗鉢 | | 16C | | SK42 | | — | (9.20) | (18.00) | 頸口9本, 内面炭化物 |
| 57 | 土師貫土器 | 甗 | C1a-2 | | | SK80 | 21・18 | (13.00) | (3.40) | — | 6 2 段ナデ |
| 58 | 土師貫土器 | 甗 | C1a-1 | | | SK80 | 1 | (13.00) | (3.05) | — | 4 |
| 59 | 土師貫土器 | 甗 | C1a-2 | | | SK80 | 1 | (13.20) | (3.45) | — | 3 |
| 60 | 土師貫土器 | 甗 | C1b | | | SK80 | | 8.20 | 1.60 | — | 8 |
| 61 | 土師貫土器 | 甗 | C1a | | | SK80 | 5 | 8.30 | 1.65 | — | 13 外面炭化物 |
| 62 | 土師貫土器 | 甗 | C1a | | | SK80 | 12 | 8.20 | 1.79 | — | 15 内面炭化物 |
| 63 | 土師貫土器 | 甗 | C1a | | | SK80 | 13 | 8.00 | 1.62 | — | 13 |
| 64 | 土師貫土器 | 甗 | C1a | | | SK80 | 11 | 8.30 | 1.80 | — | 16 |
| 65 | 土師貫土器 | 甗 | C1b-1 | | 2F22, 2G2 | SK81 | 上 | (12.20) | (3.65) | — | 5 |
| 66 | 土師貫土器 | 甗 | C1b-1 | | 2F22, 2G2 | SK81 | 上 | (12.00) | (3.40) | — | 2 |

| 報告番号 | 種別 | 源種 | 分類 | 時期 | 出土グリッド | 出土遺構 | 覆土層位 | 法 量 (cm) | | | 遺存率 (%) | 備 考 |
|------|-------|-----|--------|---------------|-----------|-------|------|----------|---------|---------|------------|-------------------------|
| | | | | | | | | 口縁 | 高さ | 底径 | | |
| 67 | 土師貫土器 | 甕 | C I a① | | 2F22, 2G2 | SK81 | 上 | 12.40 | 3.65 | — | 14 | 内面炭化物 |
| 68 | 土師貫土器 | 甕 | C II b | | 2F22, 2G | SK81 | 上 | 7.80 | 1.85 | — | 16 | 底部滑らか |
| 69 | 土師貫土器 | 甕 | C II a | | 2F22, 2G2 | SK81 | 上 | 8.00 | 1.45 | — | 8 | |
| 70 | 白磁 | 甕 | IX | 13C中～ 14C初 | 2F22 | SK81 | 上 | (11.60) | (3.00) | — | 3 | 口先び |
| 71 | 珠洲焼 | 甕 | | 目録 | 2G7・12 | SK86 | | (51.80) | (7.20) | — | 1 | 赤タキ |
| 72 | 土師貫土器 | 甕 | C I a② | | 2G7・12 | SK86 | 1 | (14.00) | (3.10) | — | 3 | |
| 73 | 土師貫土器 | 甕 | C I a② | | 2G7・12 | SK86 | 1 | (14.00) | (2.85) | — | 3 | 外面炭化物 |
| 74 | 土師貫土器 | 甕 | C I a② | | | SK86 | F | (13.00) | (2.85) | — | 3 | |
| 75 | 土師貫土器 | 甕 | C I a② | | 2G7・12 | SK86 | 上 | (12.20) | (2.70) | — | 5 | 内面炭化物 |
| 76 | 土師貫土器 | 甕 | C I a② | | 2G12 | SK86 | 上 | (13.00) | (2.80) | — | 3 | 外面炭化物 |
| 77 | 土師貫土器 | 甕 | C I a② | | A | SK86 | II | 13.40 | 3.20 | — | 16 | 外面炭化物 |
| 78 | 土師貫土器 | 甕 | C I a② | | 2G12? | SK86 | 上 | (12.80) | (2.80) | — | 2 | 外面炭化物 |
| 79 | 土師貫土器 | 甕 | C I a② | | 2G7・12 | SK86 | 上 | (12.40) | (2.95) | — | 5 | 2段ノズ、内外面炭化物 |
| 80 | 土師貫土器 | 甕 | C I a② | | | SK86 | 上 | (12.30) | (3.10) | — | 6 | |
| 81 | 土師貫土器 | 甕 | C I a② | | 2G12 | SK86 | 上 | (12.20) | 3.20 | — | 10 | 2段ノズ |
| 82 | 土師貫土器 | 甕 | C I a② | | 2G7・12 | SK86 | 上 | (12.50) | (2.55) | — | 4 | 内外面炭化物 |
| 83 | 土師貫土器 | 甕 | C I a② | | 2G7 | SK86 | 上 | (13.20) | (3.00) | — | 5 | |
| 84 | 土師貫土器 | 甕 | C I a② | | | SK86 | F | (10.17) | (2.65) | — | 3 | 2段ノズ |
| 85 | 土師貫土器 | 甕 | C I a② | | 2G7・12 | SK86 | 上 | (11.80) | (2.45) | — | 2 | 外面炭化物 |
| 86 | 土師貫土器 | 甕 | C I a② | | 2G7・12 | SK86 | 上 | (12.00) | (3.20) | — | 6 | 内外面炭化物 |
| 87 | 土師貫土器 | 甕 | C II a | | | SK86 | F | (8.00) | (1.63) | — | 7 | 外面炭化物 |
| 88 | 土師貫土器 | 甕 | C II a | | 2G7 | SK86 | 上 | 7.70 | 1.65 | — | 13 | |
| 89 | 土師貫土器 | 甕 | C II a | | | SK86 | 1 | (7.60) | (1.60) | — | 4 | 内外面炭化物、上げ底 |
| 90 | 土師貫土器 | 甕 | C II a | | 2G7・12 | SK86 | 上 | 8.20 | 1.65 | — | 9 | 内外面炭化物、灯明蓋 |
| 91 | 土師貫土器 | 甕 | C II a | | | SK86 | | 9.10 | 1.50 | — | 16 | 上げ底 |
| 92 | 土師貫土器 | 甕 | C II a | | 2G7 | SK86 | 上 | 8.00 | 1.56 | — | 15 | |
| 93 | 土師貫土器 | 甕 | C II b | | A | SK86 | F | (8.00) | (1.68) | — | 7 | 内面炭化物 |
| 94 | 土師貫土器 | 甕 | C II b | | | SK86 | F | 8.00 | 1.68 | — | 15 | 内面炭化物 |
| 95 | 土師貫土器 | 甕 | C II b | | | SK86 | 3 | 8.00 | 1.70 | — | 16 | 上げ底 |
| 96 | 土師貫土器 | 甕 | C II b | | 2G7・12 | SK86 | 上 | 7.80 | 1.52 | — | 10 | 内面炭化物 |
| 97 | 白磁 | 甕 | | 15C前半 | | SK86 | | (10.00) | (1.60) | — | 1 | |
| 98 | 土師貫土器 | 甕 | C I a① | | | SK90 | 3 | (13.60) | (2.76) | — | 4 | |
| 99 | 土師貫土器 | 甕 | C II b | | | SK90 | 3 | (8.60) | (1.75) | — | 6 | |
| 100 | 土師貫土器 | 甕 | A | | | SK95 | 膝下 | — | (5.30) | 6.70 | | 回転糸切、外面炭化物 |
| 101 | 土師貫土器 | 甕 | C I b | | 2M8 | SE101 | 上 | (13.00) | (2.50) | — | 4 | |
| 102 | 黒志路 | 甕 | | 9C後 | 3M17 | SE113 | | (12.00) | (3.40) | — | 2 | 小底 |
| 103 | 珠洲焼 | 椀鉢 | | 目録 | 3M18 | SE115 | | (13.60) | (4.00) | — | 1 | |
| 104 | 珠洲焼 | 椀鉢 | | IV期 | 3M18 | SE115 | 2 | (34.00) | (11.55) | — | 1 | 内面炭化物 |
| 105 | 珠洲焼 | 甕 | | | 3M18 | SE115 | 膝下 | — | (10.30) | (18.00) | | 内面炭化物 |
| 106 | 珠洲焼 | 甕 | | | 3M17 | SE116 | | — | (10.60) | — | | 内面炭化物 |
| 107 | 黒志路 | 飯台片 | | 9C前～中 | | SK122 | | 12.20 | 8.00 | 3.20 | 8 | へら切 |
| 108 | 珠洲焼 | 甕 | | 甲期 | 2N11 | SK123 | | (52.70) | (9.30) | — | 1 | |
| 109 | 珠洲焼 | 甕 | | V期 | 2N11 | SK123 | 皿 | (19.20) | (6.70) | — | 2 | 把手前縁あり |
| 110 | 土師 | 甕 | | 古墳前期 | 2N3 | SK123 | 1 | (18.00) | (4.80) | — | 3 | 外面炭化物 |
| 111 | 土師器 | 長瀬甕 | | | 3M19 | SK130 | 1 | (20.00) | (2.35) | — | 1 | |
| 112 | 土師貫土器 | 甕 | C I a① | | 3M24 | SE131 | 1 | (15.80) | (2.42) | — | 3 | |
| 113 | 珠洲焼 | 甕 | | | 3M24 | SE131 | | — | — | — | | |
| 114 | 珠洲焼 | 甕 | | | 3M1 | SK143 | 4 | — | (8.02) | — | | |
| 115 | 土師貫土器 | 甕 | D II | | 3M1 | SK143 | 膝下 | 5.00 | 1.93 | — | 16 | 回転糸切、上げ底 |
| 116 | 黒志路 | 有台片 | | 8C末 | 2M21 | SK185 | 6 | (13.40) | (3.85) | (7.00) | 2 | |
| 117 | 土師貫土器 | 甕 | D I | | | SK200 | 4 | 9.00 | 2.00 | 5.25 | 14 | 回転糸切 |
| 118 | 珠洲焼 | 甕 | | | | SE205 | 膝下 | — | 7.05 | 9.60 | | 静止糸切、内外面炭化物 |
| 119 | 土師貫土器 | 甕 | C I b① | | | SE205 | 3 | (13.80) | (2.60) | — | 4 | 外底面粗粒、外面炭化物 |
| 120 | 珠洲焼 | 椀鉢 | | IV期 | | SK206 | 4 | (34.40) | (11.15) | (12.50) | 7 | 脚口12本、外面粗粒 |
| 121 | 珠洲焼 | 甕 | | | | SK206 | 4 | — | (4.85) | — | | 頸部径 (21.80) |
| 122 | 土師貫土器 | 甕 | C I a① | | | SK206 | 4 | (13.10) | (2.83) | — | 4 | 2段ノズ、外面炭化物 |
| 123 | 土師貫土器 | 甕 | C I a① | | | SK206 | 2 | (12.10) | (3.45) | — | 4 | 内外面炭化物 |
| 124 | 黒志路 | 甕 | | | | SK307 | | — | (3.70) | — | | 頸部径 (19.00)、外面タキ、内面当て具痕 |
| 125 | 土師 | 甕 | | 養生後期～ 古墳前期 | | SK355 | 1 | (20.00) | (5.20) | — | 2 | 有段口縁、126と同一個体か |
| 126 | 土師 | 甕 | | 養生後期～ 古墳前期 | | SK355 | 1 | — | 13.60 | 4.20 | | ケズリ、内外面炭化物、125と同一個体か |
| 127 | 土師貫土器 | 甕 | D I | | | SK431 | 1 | 10.00 | 2.15 | 6.80 | 10 | 回転糸切 |
| 128 | 土師貫土器 | 甕 | C II b | | | SE432 | 1 | 7.80 | 1.65 | — | 9 | 口縁水平でない |
| 129 | 珠洲焼 | 甕 | | | | SE432 | 4 | (13.10) | (6.70) | — | | 外タキ、底部や中摩耗、内面炭化物 |
| 130 | 土師貫土器 | 甕 | D I | | | SE435 | 4 | 8.30 | 1.90 | — | 8 | 回転糸切、外面炭化物 |
| 131 | 珠洲焼 | 椀鉢 | | V期 | | SE435 | a | 30.60 | 11.70 | 13.00 | 15 | 扇形赤心、脚口9本、静止糸切、内外面炭化物 |
| 132 | 珠洲焼 | 甕 | | II～甲期 | | SK437 | 1 | — | — | — | | 外面唇子口タキ |
| 133 | 珠洲焼 | 椀鉢 | | | 2G2～7 | SK1 | 1 | — | — | — | | 1/市口部 |
| 134 | 土師器 | 甕 | | | 2G2～7 | SK1 | 1 | — | (4.75) | (7.00) | | 回転糸切、外面炭化物 |

土器・陶磁器類の観察表

| 報告番号 | 種類 | 器種 | 分類 | 時期 | 出土グリッド | 出土遺跡 | 覆土層位 | 法量 (cm) | | | 透率 (%) | 備考 | |
|------|-------|-----|---------|---------------|-------------------------|------|-------|---------|---------|---------|--------|--------|--------------------|
| | | | | | | | | 口径 | 高さ | 底径 | | | |
| 135 | 土師質土器 | 甕 | C II a | | | | SE8 | (8.00) | (1.40) | — | 4 | 外底面滑らか | |
| 136 | 土師質土器 | 甕 | C I b | | | | SE8 | (13.20) | (2.70) | — | 2 | 内外面炭化物 | |
| 137 | 土師質土器 | 甕 | C I a 2 | | | | SK31 | 1 | (13.00) | (2.55) | — | 2 | 内面炭化物 |
| 138 | 土師質土器 | 甕 | B I b | | | | SK79 | 3 | (13.00) | (3.20) | — | 6 | 京郡系、内外面炭化物 |
| 139 | 土師質土器 | 甕 | C I a 1 | | | | SK89 | 1 | (14.00) | (3.00) | — | 3 | |
| 140 | 土師質土器 | 甕 | B II b | | 3I22, 3I23, 3I8 | | SK89 | 上 | (9.00) | (1.15) | — | 2 | 京郡系、口縁部炭化物 |
| 141 | 白磁 | 甕 | B II ? | | | | SK89 | 上 | — | 1.50 | — | | 高台付 (3.20)、高台内底痕 |
| 142 | 瀬戸美濃 | 甕 | | 15C 後 | 3I22・23, 3I23・3・7・8, 5I | | SK89 | 上 | (10.00) | (4.20) | — | 3 | 黒釉 |
| 143 | 青磁 | 甕 | B-I | | | | SK117 | 1 | — | (3.15) | (5.00) | | 高台欠く、筋違弁文 |
| 144 | 土師質土器 | 甕 | C I a 1 | | | | SI135 | 1 | (13.00) | (3.40) | — | 7 | |
| 145 | 須恵系 | 有台坪 | | 8C 後 | | | SK142 | 1 | (12.20) | (3.35) | — | 4 | 高台径 (8.70)、ヘラ切り |
| 146 | 須恵系 | 坏蓋 | | | | | SK142 | 1 | — | (2.00) | — | 2 | 京郡系 (14.00)、天月部ケズ目 |
| 147 | 灰洲焼 | 磁鉢 | | V 期 | | | SK142 | 2 | (40.00) | (6.00) | — | 2 | 口縁内面部に透状文 |
| 148 | 灰洲焼 | 磁鉢 | | | | | SK142 | 2 | — | (3.65) | — | | |
| 149 | 土師質土器 | 甕 | C I a 1 | | | | SK171 | 3 | 13.00 | 3.50 | — | 12 | 外面炭化物 |
| 150 | 土師質土器 | 甕 | C I a 1 | | | | SK171 | 2・3 | (12.80) | (3.00) | — | 4 | |
| 151 | 土師質土器 | 甕 | C I a 1 | | | | SK171 | 1・2・3 | (13.20) | (3.15) | — | 6 | 外面炭化物 |
| 152 | 土師質土器 | 甕 | C I b 2 | | | | SK171 | 3 | (12.20) | (3.10) | — | 6 | |
| 153 | 土師質土器 | 甕 | C I a 1 | | | | SK171 | 2・3 | (12.60) | (3.00) | — | 3 | 内面炭化物 |
| 154 | 土師質土器 | 甕 | C I a 1 | | | | SK171 | 2・3 | (13.20) | (2.85) | — | 4 | |
| 155 | 土師質土器 | 甕 | D I | | | | SK187 | 1 | (11.00) | (2.40) | (7.10) | 4 | 回転糸切、内外面炭化物 |
| 156 | 灰洲焼 | 磁鉢 | | V 期 | | | SK187 | 継下・1 | (32.40) | (11.60) | — | 5 | |
| 157 | 灰洲焼 | 磁鉢 | | VI 期 | | | SK187 | 3 | (34.00) | (9.20) | — | 2 | 脚口厚減 |
| 158 | 越前焼? | 甕 | | | | | SK188 | 1 | (26.80) | (6.50) | — | 1 | 口縁部 |
| 159 | 土器 | 甕 | | 養生後掘り 古墳前期 | | | SK214 | 1 | (20.00) | (4.20) | — | 2 | 有段口縁、縦凹線 |
| 160 | 灰洲焼 | 磁鉢 | | | | | SE236 | 1 | (35.20) | (6.80) | — | | 脚口厚減、内外面下部開口炭化物 |
| 161 | 土師質土器 | 甕 | C II a | | | | SK321 | 1 | (8.20) | (1.50) | — | 3 | 内外面炭化物 |
| 162 | 土師質土器 | 甕 | C II b | | | | SK321 | 1 | (7.40) | (1.50) | — | 5 | 外底面滑らか |
| 163 | 青磁 | 甕 | | | 13C 末～ 14C 初 | 6J1 | SK322 | 1 | (22.00) | (4.50) | — | 3 | 筋違弁文 |
| 164 | 土師質土器 | 甕 | C II a | | | | SK322 | 1 | 8.00 | 1.38 | — | 9 | 外底面滑らか |
| 165 | 土師質土器 | 甕 | C II b | | | | SK326 | 1 | (8.00) | (1.60) | — | 5 | |
| 166 | 土師質土器 | 甕 | C II b | | | | SK408 | 1 | 8.00 | 1.75 | — | 10 | 外底面滑らか |
| 167 | 灰洲焼 | 甕 | | III 期 | | | SK445 | 82 | (57.00) | (12.90) | — | 3 | 内面炭化物 |
| 168 | 灰洲焼 | 磁鉢 | | IV 期 | | | SK445 | 76・1 | (36.20) | (5.90) | — | 2 | |
| 169 | 灰洲焼 | 磁鉢 | | | | | SK445 | 2 | — | (8.75) | 11.40 | | 静止糸切 |
| 170 | 青磁 | 甕 | B-I | | 14C 中 | | SK445 | 45 | — | (3.95) | (3.00) | | 内底面双魚文、透弁文、漆つぎ |
| 171 | 土師質土器 | 甕 | C I a 1 | | | | SK445 | 46 | (12.00) | (3.25) | — | 7 | |
| 172 | 土師質土器 | 甕 | C I b 1 | | | | SK445 | 10 | 12.00 | 3.60 | — | 15 | 内外面炭化物、灯明皿 |
| 173 | 土師質土器 | 甕 | C I b 1 | | | | SK445 | 41 | 12.00 | 3.70 | — | 16 | 内面炭化物 |
| 174 | 土師質土器 | 甕 | C I b 1 | | | | SK445 | 72 | (11.80) | (3.45) | — | 7 | 外面炭化物 |
| 175 | 土師質土器 | 甕 | C I b 1 | | | | SK445 | | (12.70) | (3.33) | — | 6 | 外面炭化物 |
| 176 | 土師質土器 | 甕 | C I b 1 | | | | SK445 | 32 + 20 | 12.20 | 3.50 | — | 16 | 内面炭化物 |
| 177 | 土師質土器 | 甕 | C II b | | | | SK445 | 38 | 7.80 | 1.90 | 7.10 | 14 | |
| 178 | 土師質土器 | 甕 | C II b | | | | SK445 | 85 | 7.60 | 1.73 | 6.50 | 10 | |
| 179 | 土師質土器 | 甕 | C II b | | | | SK445 | 2 | 8.10 | 1.75 | 7.20 | 11 | |
| 180 | 土師質土器 | 甕 | C II b | | | | SK445 | 78・1 | 7.40 | 1.71 | 6.85 | 8 | |
| 181 | 土師質土器 | 甕 | C II b | | | | SK445 | | 7.80 | 1.76 | 6.65 | 16 | 底部凹み |
| 182 | 土師質土器 | 甕 | C II b | | | | SK445 | 66 | 7.20 | 1.75 | 6.80 | 11 | |
| 183 | 土師質土器 | 甕 | C II b | | | | SK445 | | 8.00 | 2.00 | 7.00 | 10 | 底部凹み |
| 184 | 土師質土器 | 甕 | C II b | | | | SK445 | 21 | 7.70 | 1.76 | 7.00 | 15 | 上げ底 |
| 185 | 土師質土器 | 甕 | C II b | | | | SK445 | | 7.60 | 1.80 | 6.80 | 9 | 底部凹み |
| 186 | 土師質土器 | 甕 | C II b | | | | SK445 | 1 | 7.20 | 1.83 | 6.15 | 13 | 内外面炭化物 |
| 187 | 土師質土器 | 甕 | C II b | | | | SK445 | 60 | 7.40 | 1.62 | 6.70 | 16 | 底部凹み |
| 188 | 土師質土器 | 甕 | C II b | | | | SK445 | 25 | 8.00 | 1.95 | 7.05 | 15 | 底部凹み |
| 189 | 土師質土器 | 甕 | C II b | | | | SK445 | 74 | 7.40 | 1.65 | 6.20 | 7 | 底部凹み |
| 190 | 土師質土器 | 甕 | C II b | | | | SK445 | 8 | 7.20 | 1.65 | 5.55 | 16 | |
| 191 | 土師質土器 | 甕 | C II b | | | | SK445 | 64 | 8.00 | 1.86 | 7.45 | 16 | |
| 192 | 土師質土器 | 甕 | C II b | | | | SK445 | 79 | (7.80) | (1.65) | (6.70) | 4 | |
| 193 | 土師質土器 | 甕 | C II b | | | | SK445 | 29 | (7.50) | (1.60) | (6.20) | 7 | 外面炭化物 |
| 194 | 土師質土器 | 甕 | C II b | | | | SK445 | 47 | 7.10 | 1.65 | 6.35 | 16 | 底部凹み |
| 195 | 青磁 | 甕 | B? | | 14C | | SK462 | | — | (2.50) | 5.20 | | 高台内底輪なし、透弁文? |
| 196 | 土師器 | 甕 | | | 19C | | P2119 | 1 | 12.20 | 3.22 | 5.50 | 14 | 回転糸切 |
| 197 | 土師質土器 | 甕 | C II a | | | | P2146 | 1 | (9.00) | (1.50) | — | 4 | 外底面滑らか |
| 198 | 灰洲焼 | 甕 | | III 期 | | | P2166 | 1 | (22.60) | (7.80) | — | 1 | 再タタキ、黒釉 |
| 199 | 土師質土器 | 甕 | C I a 1 | | | | P2184 | 1 | 12.50 | 3.50 | — | 14 | |
| 200 | 青磁 | 甕 | D | | 14C | 2M8 | P2M6 | 1 | (16.00) | (3.40) | — | 2 | 腹反 |
| 201 | 土師器 | 高坪 | | | 古墳前期 | 3I11 | P3I15 | 1 | — | (4.90) | — | | 腹反厚 3.80 |

| 報告番号 | 種類 | 原料 | 分類 | 時期 | 出土グリッド | 出土遺構 | 覆土層位 | 法 量 (cm) | | | 遺存率 (%) | 備 考 | |
|------|-------|------|---------|-----------|--------|-------|------|----------|--------|--------|------------|----------------|----------------------|
| | | | | | | | | 口徑 | 高さ | 底径 | | | |
| 202 | 土師器 | 甕 | | | 3J17 | P3J16 | I | — | (1.90) | 6.70 | — | 回転糸切、外面炭化物 | |
| 203 | 白磁 | 合子蓋 | | | | P3J22 | I | (6.00) | (1.35) | — | — | 2) 内外面炭化なし | |
| 204 | 白磁 | 甕 | B-1 | 13C末～14C初 | | P3L19 | I | (16.00) | (4.15) | — | — | 1) 編造片文 | |
| 205 | 漆器残 | 漆鉢 | | | 3M11 | P3M9 | 3 | — | (5.60) | — | — | 最大径(31.80) 摩耗 | |
| 206 | 白磁 | 甕 | | | 3M6 | P3M43 | I | (9.00) | (1.70) | — | — | 2) | |
| 207 | 白磁 | 甕 | E | 15C前 | 3M12 | P3M49 | I | (17.70) | (4.48) | — | — | 2) 口縁部肥厚 | |
| 208 | 土師質土器 | 甕 | C I a 2 | | | P3L23 | I | (13.80) | (2.75) | — | — | 5) 内外面炭化物 | |
| 209 | 白磁 | 甕 | B-1 | 13C末～14C初 | | P4I69 | I | — | (3.90) | — | — | 1) 編造片文 | |
| 210 | 漆器残 | 漆or漆 | | | | P4J51 | I | — | — | — | — | 漆つき? | |
| 211 | 土師質土器 | 甕 | C II a | | | 5K20 | II | (8.00) | (1.75) | — | — | 4) | |
| 212 | 黒土器 | 甕 | | | 2L4 | | I | (24.00) | (1.95) | — | — | 1) | |
| 213 | 土師器 | 甕 | | 10C前 | 9M21 | | VI | 12.40 | 4.00 | 5.10 | 11 | 1) 回転糸切 | |
| 214 | 白磁 | 甕 | B-1 | 13C末～14C初 | | | III | (16.80) | 3.20 | 8.40 | 3 | 1) 編造片文 | |
| 215 | 白磁 | 甕 | B-1 | 13C末～14C初 | 6J21 | | III | (18.40) | (2.80) | — | — | 2) 編造片文 | |
| 216 | 白磁 | 甕 | B?? | | 9K17 | | III | — | (3.20) | 5.40 | — | 1) 高台内輪削ぎ、遺存片々 | |
| 217 | 白磁 | 甕 | IX | 13C中～14C初 | | | III | 不明 | (9.50) | 2.30 | — | — | 2) 口縁 |
| 218 | 白磁 | 甕 | III | 12C中～後 | 6J3 | | II | — | (1.60) | (3.80) | — | — | 1) 高台部分炭化物、内輪面削ノ口輪削ぎ |
| 219 | 白磁 | 甕 | | | 6K17 | | V | — | (1.80) | 4.20 | — | — | |
| 220 | 白磁 | 甕 | | | | | 不明 | (9.40) | (1.80) | — | — | 3) | |

別表5 木製品観察表

| 報告番号 | 品名・部位 | 出土地点 | 遺構 | 層位 | 長さ | 法 量 (cm) | | | 遺存状況 | 木取り | 原料 | 備考 | | | |
|------|-------|-------|-----|----|--------|----------|-----|-----|---------|--------|-------|-------|------|-------------------------|------------------------|
| | | | | | | 幅 | 厚さ | 径 | | | | | | | |
| 237 | 漆板 | SE9 | 8層 | 高 | 5.2 | | 底 | 7.2 | 11 | 14.0 | 一部 | 横木 | トチノキ | 内外面漆に朱の顔料検出 | |
| 238 | 漆板 | SE9 | 8層 | 高 | (1.1) | | 底 | 9.8 | 11 | 10.6 | 一部 | 横木 | タリ | 内外面漆に朱の顔料検出 | |
| 239 | 漆物残 | SE9 | | | 12.6 | 6.0 | 0.7 | | 両面欠損 | 板口 | スギ | | | 表面部のみに腐蝕あり、内面にヤビキあり | |
| 240 | 漆物残 | SE9 | 1層 | | 21.3 | 2.8 | 0.4 | | 両面欠損 | 板口 | スギ | | | 木釘穴3つ | |
| 241 | 漆編み残 | SE9 | | | 7.5 | | | | 1/2欠損 | 丸材 | モクレン属 | | | | |
| 242 | 漆材 | SE9 | | | 6.1 | 3.0 | 1.4 | | 両面欠損 | 板口 | スギ | | | V字状の切り込みつき、全面におこげ | |
| 243 | 漆部 | SE11 | 3層 | | 8.5 | 2.4 | 1.7 | | ほぼ完形 | 板口 | モクレン属 | | | 全体黒漆塗り | |
| 244 | はし | SE11 | 5層 | | 20.9 | 0.6 | 0.4 | | 完形 | 板口 | スギ | | | | |
| 245 | 漆板 | SE125 | 3層 | 高 | (5.2) | | 底 | 9 | 11 | 13.0 | 1/2欠損 | 横木 | タラノキ | 内外面漆に朱の顔料検出 | |
| 246 | 漆板 | SE125 | 3層 | 高 | (0.8) | | 底 | 6.8 | 11 | (7.8) | 一部 | 横木 | ケヤキ | 内外面漆に見込み朱の顔料 | |
| 247 | 漆板 | SE125 | 3層 | 高 | 3.6 | | 底 | 8.8 | 11 | 19.4 | 一部 | 横木 | ケヤキ | 内外面漆に朱の顔料検出 | |
| 248 | 漆材 | SK143 | 最下層 | | 20.4 | 4.5 | 3.9 | | 片端欠損 | 板口 | スギ | | | 約2×2の方形の穴2個 | |
| 249 | 漆材 | SK143 | 最下層 | | 20.3 | 4.7 | 2.6 | | 1/2欠損 | 板口 | スギ | | | 約2×2の方形の穴2個、12と同様の部材? | |
| 250 | 漆板 | SE205 | 6層 | | 24.9 | 7.6 | 0.6 | | 1/2欠損 | 板口 | スギ | | | 木釘穴4つ、表面・直線上の切り跡痕多数あり | |
| 251 | 漆板 | SE205 | 6層 | | 25.5 | 11.6 | 0.5 | | 1/2欠損 | 板口 | スギ | | | 留め具つき、木釘穴2個、1片角あり | |
| 252 | 漆板 | SE205 | 6層 | | 33.4 | 4.4 | 0.5 | | 中央部切欠 | 板口 | スギ | | | 木釘穴4個、側面に1個、縁状痕、こげ跡痕力あり | |
| 253 | 漆板 | SE205 | 6層 | | 18.8 | 5.5 | 0.5 | | 片端欠損 | 板口 | スギ | | | 止め具も一部残存、縁状痕多数あり | |
| 254 | 漆板 | SE205 | 6層 | 高 | (2.6) | | 底 | 6.0 | 11 | (8.6) | 一部 | 横木 | | | 内面・裏面上に朱漆塗り、外面・裏面に朱の顔料 |
| 255 | 漆板 | SE205 | 6層 | 高 | 2.7 | | 底 | 6.4 | 11 | 11.2 | 一部 | 横木 | ブナ属 | 無白 | |
| 256 | 漆板 | SE205 | 6層 | 高 | (2.6) | | 底 | 8.2 | 11 | (13.8) | 一部 | 横木 | ブナ属 | 内外面漆に見込み朱の顔料 | |
| 257 | 漆物残 | SK206 | 4層 | | 15.8 | 7.8 | 0.9 | | 1/2欠損 | 板口 | スギ | | | 木釘穴1個、側面に3個計4個 | |
| 258 | はし | SK206 | 4層 | | (15.1) | 0.6 | 0.6 | | 片端欠 | 板口 | スギ | | | | |
| 259 | はし | SK223 | 4層 | | 23.3 | 0.6 | 0.6 | | 完形 | 板口 | スギ | | | | |
| 260 | 漆板 | SK224 | 下層 | 高 | 1.0 | | 底 | 7.6 | 11 | 9.6 | 一部 | 横木 | ブナ属 | 内外面漆塗り | |
| 261 | 漆板 | SK224 | 下層 | 高 | (1.3) | | 底 | 7.4 | 11 | 9.4 | 一部 | 横木 | | | 内外面漆塗り、見込み朱の顔料 |
| 262 | はし | SK227 | 7層 | | 19.4 | 0.6 | 0.4 | | 完形 | 板口 | スギ | | | | |
| 263 | はし | SK227 | 7層 | | 20.4 | 0.5 | 0.5 | | 完形 | 板口 | スギ | | | | |
| 264 | はし | SK227 | 7層 | | 19.6 | 0.6 | 0.4 | | 完形 | 板口 | スギ | | | | |
| 265 | 漆材 | SK232 | 最下層 | | 16.0 | 3.7 | 4.1 | | 1/2欠損 | 板口 | スギ | | | 一端にこげ跡、約3方形の穴2つ | |
| 266 | 漆材 | SK236 | 3層 | | 36.0 | 16.0 | 2.5 | | 両面欠損 | 板口 | マツ属 | | | 上部5×3の四角形の四、側面に5×3の方形の穴 | |
| 267 | 漆物残 | SK239 | 7層 | 高 | 8.6 | | | 8.8 | | | スギ | | | 身のみ存 | |
| 267 | 漆物残 | SK239 | 7層 | | | | | 8.0 | | | スギ | | | 前縁部板と同一 | |
| 268 | 漆板 | SD301 | | | 15.8 | 7.0 | 1.0 | | 1/2欠損 | 板口 | スギ | | | 木釘穴2個、1片方木釘残存 | |
| 269 | 漆板 | SK402 | 最下層 | | 22.9 | 11.1 | 1.1 | | 1/2欠損 | 板口 | スギ | | | | |
| 270 | 漆材 | SK402 | 最下層 | | 25.1 | 17.5 | 4.2 | | 両面欠損 | 板口 | タリ | | | 両面、片面加工 | |
| 271 | 漆 | SK402 | 最下層 | | 6.6 | | | 2.8 | | | 丸材 | ヤブツバキ | | | 先6面カット、帆の先 |
| 272 | 漆板 | SE407 | 9層 | 高 | (5.0) | | 底 | 7.5 | 11 | 13.6 | ほぼ完形 | 横木 | ケヤキ | 内外面漆塗り、朱みあり | |
| 273 | 漆物残 | SE407 | 9層 | 高 | 7.0 | | 0.5 | 11 | 13.0 | | ほぼ完形 | 板口 | スギ | 底なし | |
| 274 | 漆材 | SE407 | 9層 | | 30.5 | 1.2 | 1.6 | | 両面欠損 | 板口 | スギ | | | 先端部こげ跡あり、断面ほぼ方形 | |
| 275 | 漆物残 | SE432 | 4層 | | 25.2 | 6.3 | 0.7 | | 両面、片面欠損 | 板口 | スギ | | | こげ跡1個あり | |

石製品観察表

| 報告品名・部位 | 出土地点 | | 法量 (cm) | | | 遺存状況 | 木取り | 素材 | 備考 | |
|---------|------|-------|---------|---------|-------|--------|---------|-----------|----------------------------|----------------|
| | 遺構 | 層位 | 長さ | 幅 | 厚さ | | | | | |
| 276 | 曲物底板 | SE432 | 4層 | 15.3 | 4.2 | 0.6 | 両端・片面欠損 | 埴目 | 側面に木釘穴1個 | |
| 277 | 曲物底板 | SK434 | 4層 | 34.4 | 5.6 | 0.8 | 両面欠損 | 板目 | 木釘穴1つ・裏面全面にこげ跡 | |
| 278 | 曲物底板 | SK434 | 4層 | 24.7 | 9.0 | 0.8 | 両面・片面欠損 | 埴目 | 木釘穴9つ・線状痕・表面こげ跡 | |
| 279 | 曲物底板 | SK434 | 4層 | 47.0 | 5.3 | 1.2 | 両面欠損 | 板目 | 木釘穴1個 | |
| 280 | 曲物納戸 | SK434 | 4層 | 高 (8.9) | | | ほぼ完成形 | 側板板目・底板板目 | | |
| 281 | 木札 | SE435 | 4層 | 8.4 | 2.1 | 0.1 | 下部欠損 | 埴目 | 上部に孔1つ・上部土痕状に加工 | |
| 282 | 漆桶 | SE435 | 8層 | 14.0 | 3.7 | 7.6 | 1/4欠損 | 横木 | ボナ嵐 ボネあり・内外面黒漆。見込み未漆で模様 | |
| 283 | 漆桶 | SE435 | 4層 | 高 5.4 | 幅 8.6 | 口 14.8 | ほぼ完成形 | 横木 | ボナ嵐 外面・黒漆に朱の模様。内面：朱漆塗り | |
| 284 | 曲物底板 | SE435 | 8層 | 24.1 | 8.4 | 1.2 | 1/2欠損 | 埴目 | 木釘穴3個・こげ・線状跡痕多数 | |
| 285 | 曲物底板 | SE435 | 8層 | 54.0 | 13.7 | 1.9 | 両端欠損 | 埴目 | スギ 木釘穴6個。側面黒さく3個 | |
| 286 | 曲物底板 | SE435 | 8層 | 29.1 | 6.7 | 1.1 | 全端欠損 | 板目 | 木釘穴5個 (大きさ・形もバラバラ) | |
| 287 | 高脚下駄 | SE435 | 8層 | 20.0 | 9.0 | 2.9 | ほぼ完成形 | 埴目 | モクレン属 | |
| 288 | 高脚下駄 | SE435 | 8層 | 13.4 | 9.9 | 5.3 | 1/4欠損 | 板目 | ヤマグワ | |
| 289 | 柱根 | SE435 | 8層 | 13.5 | | | 9.7 | 柱根の一部 | 丸材 | クリ |
| 290 | 杭 | SE435 | 8層 | 9.4 | | | 5.0 | 杭の先端 | 丸材 | |
| 291 | 杭 | SE435 | 8層 | 23.7 | | | 3.5 | 上部欠損 | 丸材 | クリ |
| 292 | 杭 | SE435 | 8層 | 22.1 | | | 3.5 | 杭の先端 | 丸材 | |
| 293 | 棒 | SE435 | 8層 | 25.6 | | | 3.6 | 下部欠損 | 丸材 | 先端Y字形 |
| 294 | 木札 | SE435 | | 19.4 | 2.9 | 0.6 | ほぼ完成形 | 埴目 | スギ | 上部下部双方の左右に切り込み |
| 295 | 木札 | P2199 | 層下層 | 7.9 | 2.4 | 0.4 | 下部欠損 | 板目 | スギ | 署名「藤民科来」? |
| 296 | 柱根 | P2199 | | 44.0 | | | 9.5 | 上部欠損 | 丸材 | コナラ属 アカガシ亜属 |
| 297 | 杭 | P2199 | | 12.5 | | | 4.0 | 上部欠損 | 丸材 | |
| 298 | 板材 | 219 | 即層 | 24.7 | 3.6 | 1.2 | 1/2欠損 | 埴目 | 埴目 | 先端部にこげ |
| 299 | 杭 | 4M2 | みぞ日層 | 26.7 | | | 2.9 | | 丸材 | 下部断り痕・上部自然木 |
| 300 | 杭 | 4M2 | みぞ日層 | 50.0 | | | 3.5 | 完形 | 丸材 | 両端が欠けている上下断り痕 |
| 301 | こま | 4M17 | 日層 | (7.2) | | | 5.4 | ほぼ完成形 | | 全体の2/3ほどにこげ跡 |
| 302 | 板材 | 5K1 | | 40.2 | 1.5 | 0.5 | | 一部 | | 板材の割れた物か? |
| 303 | 杭 | 8J24 | | 18.2 | | | 2.5 | 上部欠損 | 丸材 | 先端3面欠け切られ尖る |
| 304 | 部材 | 9J16 | V層 | 12.4 | 5.0 | 2.6 | 1/2欠損 | 板目 | スギ | 径12cmほどの円形有孔部材 |
| 305 | 木札 | 9J16 | V層 | 13.9 | 1.9 | 0.4 | ほぼ完成形 | 埴目 | スギ | |
| 306 | 木札 | 9J16 | V層 | 13.8 | 1.8 | 0.4 | ほぼ完成形 | 埴目 | | |

別表6 石製品観察表

| No. | 遺構・グリッド | 層位 | 素材 | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | 重量 (g) | 備考 | |
|-----|---------|-----|-------|---------|----------|-----------|-----------|--------|---|
| 307 | SK21 | 1層 | 石鐘 | 安山岩 | 7.4 | 5.5 | 1.9 | 91.0 | 両端欠損 |
| 308 | SK42 | 6層 | 赤白 | 細礫岩 | 7.6 (高さ) | 30.0 (直径) | | 850.0 | 下白 |
| 308 | SK42 | 6層 | 赤白 | 細礫岩 | 5.8 (高さ) | 21.0 (直径) | | 840.0 | 縦熱・上白 |
| 309 | SK89 | 4層 | 石白 | 安山岩 | 19.0 | 10.7 | 12.8 | 2760.0 | 上白 |
| 310 | SK90 | 3層 | 板石 | 凝灰岩 | 6.9 | 3.2 | 3.4 | 132.0 | 一部欠損・底面三面・細い溝切溝有 |
| 311 | SK108 | 層下層 | 門石類 | 安山岩 | 10.8 | 10.7 | 2.9 | 360.0 | 表面に黒け跡有 |
| 312 | SD001 | 中層 | 不明 | 凝灰岩 | 5.0 | 3.7 | | 3.7 | 79.0 |
| 313 | SK423 | | 板石 | 凝灰岩 | 8.2 | 7.0 | 5.1 | 315.0 | 底面二面・上部両面部分に多数の磨切痕有 |
| 314 | SE432 | 4層 | 板石 | 凝灰岩 | 7.8 | 9.2 | 6.8 | 687.5 | 底面四面・深い溝切痕有・四角の底面に有することから円筒形のもの似いた可能性あり |
| 315 | SK445 | | 石鐘 | 滑石 | 7.6 (高さ) | 18.0 (口径) | 10.6 (底径) | 545.0 | 内外面磨削り・磨けき |
| 316 | P2M64 | 1層 | 板石 | 凝灰岩 | 9.4 | 4.7 | 1.2 | 128.5 | 側面に深い溝切溝有・底面二面 |
| 317 | P3J75 | 1層 | 板石 | 凝灰岩 | 15.4 | 3.7 | 2.4 | 272.0 | 底面二面・一部欠損・磨削数本有 |
| 318 | P3M9 | | 磨石類 | 安山岩 | 16.8 | 10.5 | 5.1 | 1270.0 | 一部欠損・上面被熱し赤変 |
| 319 | RM20 | V層 | 石鐘 | 滑石 | | | | 55.0 | 暗灰色・内外面磨削り |
| 320 | 5J8 | V層 | 石鐘 | 滑石 | | | | 47.0 | 赤みを帯びた灰色。ヨコ磨りが主体・孔あり |
| 321 | 5J20 | V層 | 石鐘 | 滑石 | | | | 14.5 | 灰白色。孔径1cm |
| 322 | 5M11 | 即層 | 岩塊 | 輝緑岩 | 13.0 | 6.6 | 3.2 | 385.0 | 磨製石斧を加工?・上部に溝切痕有 |
| 323 | RJ12 | V層 | 板石 | 凝灰岩 | 10.1 | 3.0 | 2.5 | 89.0 | 底面四面・一部欠損 |
| 324 | 9M18 | 即層 | 板石 | 凝灰岩 | 11.0 | 2.7 | 2.1 | 93.5 | 底面二面・細い溝切痕有・一部欠損 |
| 325 | 5K5 | ペルト | 板石 | 凝灰岩 | 7.4 | 1.9 | 1.4 | 37.8 | 底面二面・上面縦方向に数本の刻み有 |
| 326 | 6J22 | V層 | 不明 | 安山岩 | 7.5 | 5.0 | 3.6 | 142.0 | 正面に線状溝有 |
| 327 | 3H4 | V層 | 磨石類 | 安山岩 | 16.3 | 13.4 | 6.6 | 1600.0 | 全面に磨けき |
| 328 | 8K15 | 即層 | 磨石類 | 安山岩 | 11.1 | 7.6 | 4.1 | 560.0 | 凹痕有 |
| 329 | 1L110 | V層 | 燧石 | 安山岩 | 11.0 | 6.0 | 3.2 | 209.0 | 側面に磨削有 |
| 330 | 5J8 | V層 | 磨製石斧 | 砂岩 | 6.5 | 5.9 | 3.0 | 186.0 | 一部欠損 |
| 331 | 8M8 | 即層 | 不明 | 泥岩・凝灰岩 | 7.9 | 6.0 | 0.9 | 41.0 | 孔径5mm |
| 332 | 4M18 | V層 | 不明 | 滑石 | 2.9 | 2.2 | 1.0 | 9.0 | 側面に文様の刻み有り |
| 333 | 9M6 | 即層 | 石鐘未成品 | チャート | 2.3 | 2.3 | 0.6 | 3.0 | 両面に磨削有 |

別表7 土鐘一覽表

| No. | 出土地点 | 期序 | 遺構 | 重量 (g) | | | 遺存状態 | |
|-----|------|----|------|--------|-------|-----|-------|---------------|
| | | | | 長さ | 最大径 | 穴径 | | |
| 334 | 0J3 | Ⅲ期 | 包含期 | 8.0 | 4.4 | 1.5 | 127.0 | 完整 |
| 335 | 7I1 | Ⅳ期 | 包含期 | 4.8 | (4.3) | 1.5 | 38.7 | 縦割部分 (上部少し欠損) |
| 336 | 5L8 | Ⅳ期 | 包含期 | (3.7) | (3.4) | 1.5 | 30.0 | 縦割部分 (上部少し欠損) |
| 337 | 7M14 | Ⅳ期 | 包含期 | (4.3) | 3.4 | 1.5 | 14.6 | 側片部3分1 |
| 338 | 6I5 | Ⅳ期 | 包含期 | 48.0 | 2.8 | 0.7 | 33.0 | 完整 (復元) |
| 339 | 6M14 | Ⅳ期 | 包含期 | 4.1 | 2.4 | 0.7 | 11.2 | 縦割部分 (上部少し欠損) |
| | 6I6 | Ⅲ期 | 包含期 | 6.4 | 4.0 | 1.5 | 86.8 | 完整 (上部少し欠損) |
| | 9K12 | Ⅲ期 | 包含期 | 5.4 | 3.9 | 1.1 | 38.9 | 縦割部分 |
| | 6J13 | Ⅲ期 | 包含期 | 4.9 | 4.2 | 1.5 | 38.5 | 縦割部分 |
| | 7N7 | Ⅲ期 | 包含期 | 4.1 | (3.3) | 1.5 | 18.6 | 縦割部分 (上部少し欠損) |
| | 2H16 | 1期 | SK35 | 5.3 | 3.1 | 1.1 | 56.6 | 完整 |
| | 6H1 | V期 | 包含期 | (3.2) | (2.1) | 0.7 | 6.5 | 側片部3分1 (上部欠損) |

別表9 銭貨観察表

| No. | 銭貨名 | 出土地点 | 解位 | 初録年 | 編者 | 貨幣形式 |
|-----|------|-------|----|--------|---------------|-------|
| 221 | 天型元貨 | SK35 | I | 御厨917 | 天型元貨と聖學元貨2枚總者 | 18-4 |
| 222 | 聖學元貨 | SK35 | I | 北米1068 | 天型元貨と聖學元貨2枚總者 | 49-1 |
| 223 | 元豐通寶 | 8L16 | Ⅲ | 北米1078 | | 51-11 |
| 224 | 皇宋通寶 | 6L13 | Ⅲ | 北米1038 | | 41-5 |
| 225 | 崇寧元貨 | 35T | | 北米1004 | | 34-1 |
| 226 | 聖學元貨 | 8K8 | Ⅲ | 北米1101 | | 60-2 |
| 227 | 聖學元貨 | 10M24 | Ⅳ | 北米1068 | | 49-1 |
| 228 | 阜通元貨 | 9M12 | Ⅲ | 北米995 | | 32-1 |
| 229 | 永樂通寶 | SX89 | 6 | 明1408 | | β-32 |
| 230 | 元豐通寶 | SD313 | I | 北米1078 | | 51-14 |
| 231 | 明通元貨 | 8K1 | Ⅳ | | | β-4 |
| 232 | 寛永通寶 | 3K1~3 | Ⅱ | | 背文・波形・大 | |
| 233 | 寛永通寶 | 10K2 | Ⅱ | | 背文・文・中 | |
| 234 | 寛永通寶 | 5M | Ⅲ | | 背文・無・中 | |
| 235 | 寛永通寶 | 8N | Ⅲ | | 背文・無・大 | |
| 236 | 寛永通寶 | 9K | Ⅲ | | 背文・無・中 | |

別表10 土器・陶磁器類の組成表

| 種別 | 器種 | 遺 構 出 土 | | | | | | 左記以外 | 遺構外出土 | 合 計 |
|-----------|---------|---------|-------|------|------|-------|-------|------|-------|------|
| | | SD145 | SD301 | SK80 | SK86 | SK445 | SX171 | | | |
| 土 師 器 | 埴 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 21 | 21 | 42 |
| | 碗 | 9 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 21 | 24 | 55 |
| | 甕 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 19 | 37 | 59 |
| | 壺 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 20 | 6 | 26 |
| | 不明 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 7 | 10 |
| | 埴 | 9 | 5 | 0 | 0 | 2 | 0 | 59 | 61 | 136 |
| 須 恵 器 | 埴蓋 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 13 | 17 | 33 |
| | 甕 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 3 | 10 |
| | 壺 | 0 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 22 | 31 |
| | 長頸瓶 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | 横瓶 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| | 広口瓶 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 民 船 陶 器 | 飯甕 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 4 | 7 |
| | 不明 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| | 甕 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 |
| | 皿 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 3 |
| | 皿 (I期) | 13 | 130 | 26 | 153 | 126 | 39 | 604 | 1536 | 2627 |
| | 皿 (II期) | 21 | 138 | 122 | 272 | 407 | 4 | 765 | 2843 | 4572 |
| 土 師 質 土 器 | 不明 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 3 | 13 | 17 |
| | 甕 | 1 | 2 | 0 | 1 | 3 | 0 | 5 | 29 | 41 |
| | 壺 | 0 | 4 | 0 | 0 | 1 | 0 | 4 | 16 | 25 |
| 珠 洲 焼 | 磁鉢 | 1 | 7 | 0 | 1 | 7 | 0 | 54 | 46 | 116 |
| | 壺 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 |
| | 磁鉢 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 越 前 焼 | 碗 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 12 | 17 |
| | 皿 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 4 | 7 |
| | 壺 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 |
| 瀬 戸 美 濃 | 香炉 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | 碗 | 0 | 3 | 0 | 0 | 4 | 2 | 14 | 66 | 89 |
| | 皿 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 9 | 12 |
| 青 磁 | 壺 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 5 | 9 |

別表8 金属製品・鉄滓観察表

| No. | 出土地点 | 期位 | 種別 | 重量 (g) | | | |
|-----|-------|-----|----------|--------|-----|-----|-------|
| | | | | 長さ | 幅 | 厚さ | |
| 341 | 7290 | V | 刀子 | 10.5 | 2.0 | 0.6 | 23.0 |
| 342 | 8L25 | Ⅲ | 刀子 | 9.0 | 0.7 | 0.2 | 6.5 |
| 343 | 4M | Ⅲ | 鋸 | 7.8 | 7.4 | 0.5 | 135.0 |
| 344 | SK241 | 遺下層 | バックル | 2.0 | 1.8 | 0.6 | 3.0 |
| 345 | 3I1 | Ⅳ | 針状金銀 | 4.8 | 3.3 | 0.5 | 8.5 |
| 346 | 5J3 | Ⅳ | 釦り金銀 | 3.0 | 2.9 | 0.4 | 3.5 |
| 347 | SX143 | 1 | 板状金銀 | 3.6 | 3.4 | 1.2 | 15.0 |
| 348 | 8N5 | Ⅲ | 板状金銀 | 5.4 | 3.3 | 0.7 | 20.0 |
| 349 | 11K5 | Ⅳ | キセル | 9.5 | 1.0 | 0.9 | 9.5 |
| 350 | 4K11 | Ⅳ | キセル | 5.0 | 1.1 | 0.7 | 2.0 |
| 351 | 8M20 | Ⅳ | 工具 | 7.5 | 1.9 | 1.3 | 45.0 |
| 352 | SK86 | 5 | 金貨 | 13.4 | 0.7 | 0.6 | 12.0 |
| 353 | 8K10 | V | 金貨 | 17.9 | 1.1 | 0.9 | 58.5 |
| 354 | 2M15 | Ⅲ | 梗 (くさび) | 4.9 | 1.3 | 0.6 | 13.8 |
| 355 | P2H16 | 1 | 板状金銀 | 5.0 | 1.3 | 0.4 | 9.8 |
| 356 | 8L16 | Ⅲ | 板状金銀 | 3.7 | 2.2 | 0.6 | 13.2 |
| 357 | 5M1 | Ⅲ | 棒状金銀 (大) | 5.0 | 2.2 | 1.4 | 40.5 |
| 358 | SK407 | | 釘 | 9.0 | 0.7 | 0.7 | 7.8 |
| 359 | P2H16 | 1 | 釘 | 7.9 | 0.7 | 0.8 | 11.5 |
| 360 | 4M6 | Ⅳ | 棒状金銀 | 8.3 | 0.8 | 0.9 | 19.8 |
| 361 | SK42 | 3 | 棒状金銀 | 9.8 | 1.2 | 0.9 | 13.5 |
| 362 | SX143 | 1 | 板状金銀 | 4.5 | 2.0 | 0.8 | 4.0 |
| 363 | 6Lベムト | | 羽口 | | | | |
| 364 | 7M17 | | 羽口 | | | | |
| 365 | SD301 | 4 | 鉄滓 | | | | |
| 366 | P2J44 | 1 | 羽口 | | | | |
| 367 | SD301 | 4 | 鉄滓 | | | | |
| 368 | SX93 | 1 | 鉄滓 | | | | |
| 369 | SD301 | 2 | 鉄滓 | | | | |
| 370 | SX317 | 1 | 鉄滓 | | | | |
| 371 | P2H14 | 1 | 鉄滓 | | | | |
| 372 | P2H14 | 1 | 鉄滓 | | | | |
| 373 | SK200 | 2 | 鉄滓 (流出滓) | | | | |
| 374 | SK200 | 1 | 鉄滓 | | | | |
| 375 | P2M20 | 1 | 鉄滓 | | | | |

土器・陶磁器類の組成表

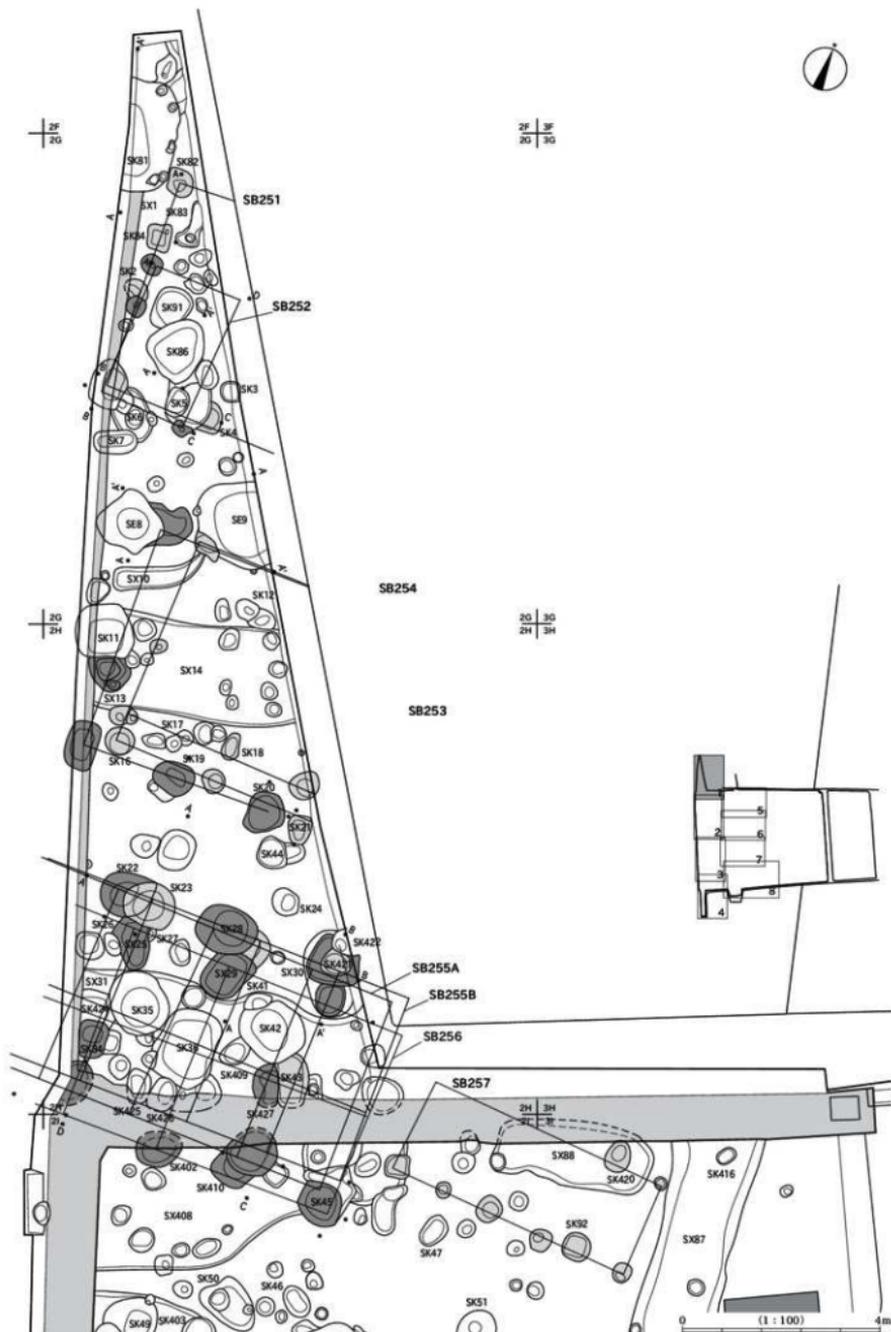
| 種別 | 器種 | 遺 構 出 土 | | | | | | | 遺構外出土 | 合 計 |
|------|----|---------|-------|------|------|-------|-------|------|-------|------|
| | | SD145 | SD301 | SK80 | SK86 | SK445 | SX171 | 左記以外 | | |
| 青 磁 | 窓 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| | 飯椀 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 |
| | 不明 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 6 |
| 白 磁 | 碗 | 0 | 2 | 0 | 2 | 0 | 2 | 2 | 11 | 19 |
| | 皿 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 5 | 10 | 16 |
| | 甕 | 1 | 3 | 0 | 1 | 2 | 0 | 14 | 0 | 21 |
| | 高 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| 肥前陶器 | 碗 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 | 6 |
| | 皿 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | 7 |
| | 漆鉢 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | 7 |
| | 茶入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 |
| | 不明 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 肥前磁器 | 碗 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 20 | 22 |
| | 皿 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 4 |
| | 不明 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 越中瀬戸 | 碗 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 4 |
| | 窓 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 |
| 京・信系 | 碗 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| | 碗 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 17 | 19 |
| 不 明 | 皿 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 10 | 10 |
| | 不明 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 | 6 |
| 合 計 | | 60 | 316 | 148 | 431 | 554 | 47 | 1659 | 4905 | 8120 |

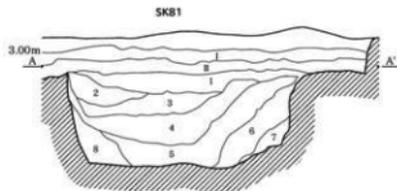
図 版

凡 例

- 1 遺構図において、分割図は調査区全体を網羅したのではなく、西側部分のみとした。分割図の後に遺構土層断面図、エレベーション図を掲げた。
- 2 遺構分割図において、掘立柱を構成するピットにトーンを添付した（重複している建物についてはトーン濃度を変えた）。
- 3 土層の表記は、基本土層はローマ数字、遺構覆土は算用数字を使用した。
- 4 遺物実測図での土器断面は須恵器塗りつぶし、その他白抜きとした。
- 5 木製品・製鉄遺物は、焼けた部分や鉄がタール状に付着したところがある。これらはトーンで表記した。
■ 焼けた部分・タール状付着範囲
- 6 赤漆はトーンで色彩を表記する。
■ 赤漆
- 7 石器・石製品の敲打痕・磨痕・炭はトーンで表記した。
■ 敲打痕 ■ 磨痕 ■ 炭

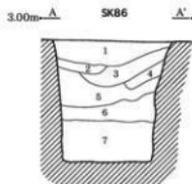






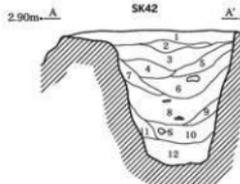
SKB1

- 1 灰褐色粘質土
- 2 灰色粘質土
- 3 褐色粘質土 [わずかに遺物を混入]
- 4 灰褐色粘質土 [わずかに遺物を混入]
- 5 灰褐色粘質土
- 6 黒褐色砂質土
- 7 黒褐色土 [炭化物を多く混入]
- 8 黒褐色粘質土



SKB6

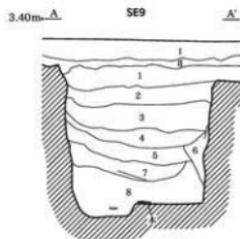
- 1 黒褐色粘質土
- 2 褐色粘質土
- 3 灰褐色粘質土 [粒子が細か〜]
- 4 灰褐色粘質土
- 5 黒褐色砂質土
- 6 黒褐色粘質土
- 7 黒褐色粘質土



SK42

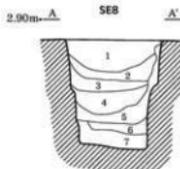
SK42

- 1 灰褐色粘質土
- 2 灰色粘質土
- 3 褐色粘質土
- 4 灰褐色粘質土
- 5 灰褐色粘質土
- 6 黒褐色砂質土
- 7 褐色粘質土
- 8 黒褐色粘質土
- 9 褐色粘質土
- 10 黒褐色粘質土
- 11 褐色粘質土
- 12 黒褐色粘質土



SE9

- 1 黒色粘質土
- 2 暗褐色粘質土
- 3 黒色粘質土
- 4 灰褐色粘質土
- 5 黒褐色砂質土
- 6 褐色粘質土
- 7 褐色粘質土
- 8 黒褐色粘質土

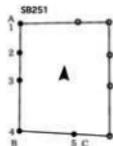
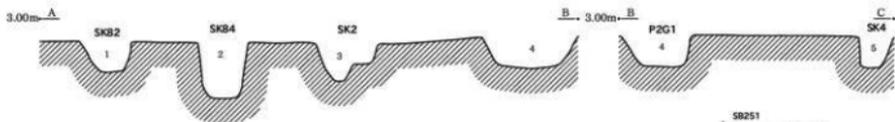


SEB

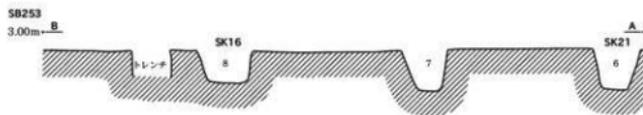
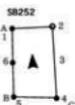
SEB

- 1 黒褐色粘質土 [灰褐色粘土ブロック混入]
- 2 灰褐色粘質土 [炭化物混入]
- 3 黒褐色粘質土 [炭化物混入]
- 4 黒褐色粘質土
- 5 黒色粘質土 [炭化物混入]
- 6 黒色砂質土 [炭化物混入]
- 7 黒色土

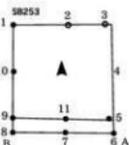
SB251

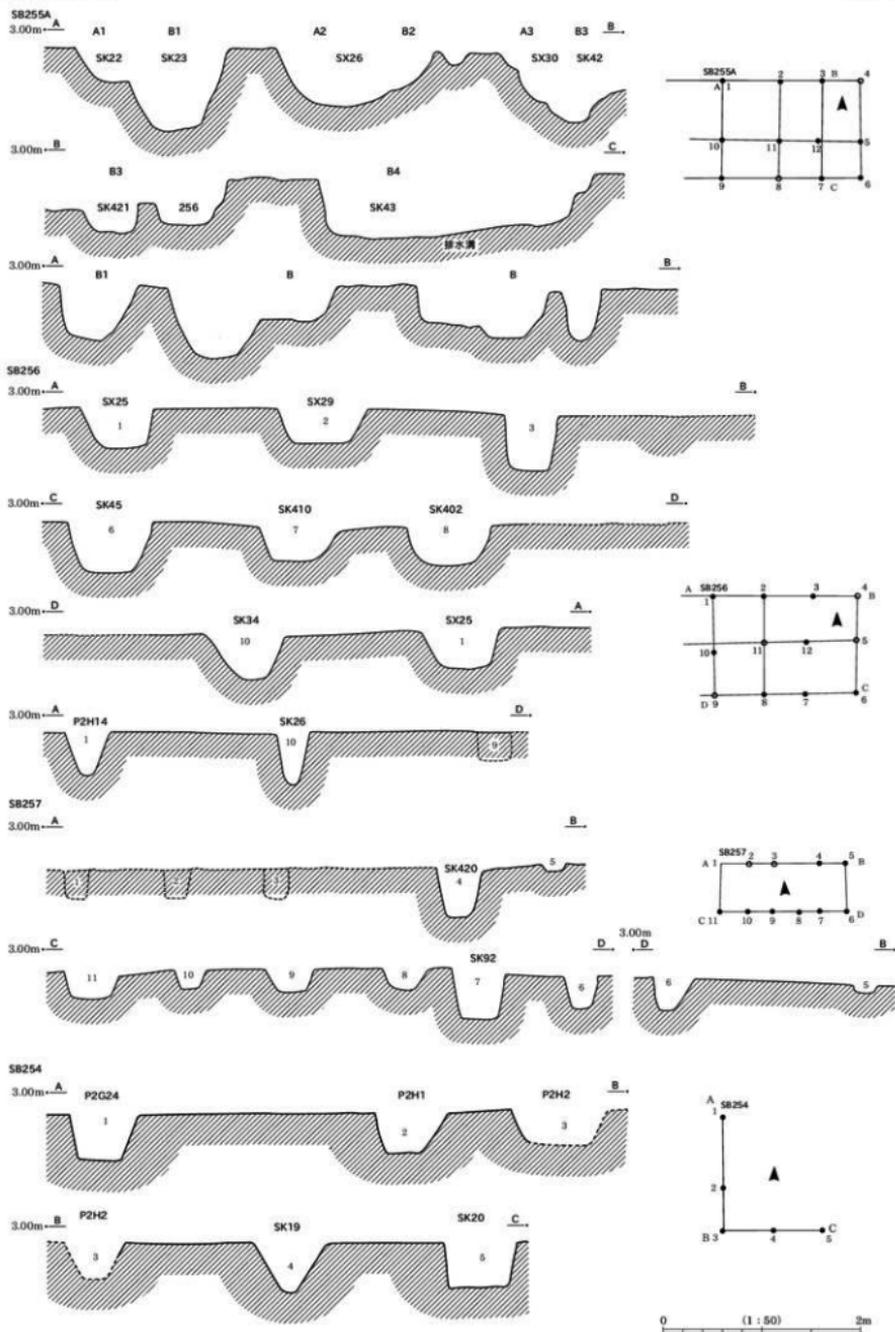


SB252



SB253

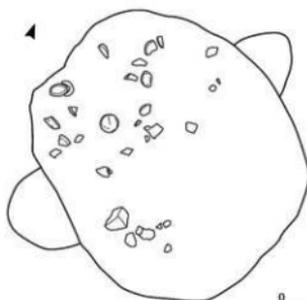
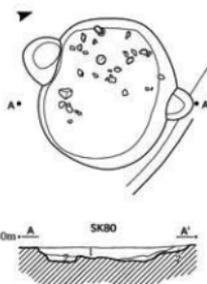






SK80

SK80遺物佈置図

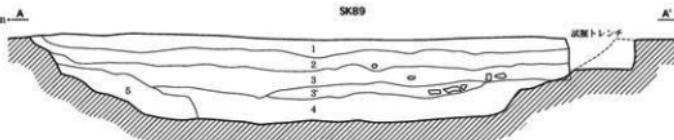


- SK80
1 黒褐色粘質土
[わずかに炭化物混入]
2 黒褐色粘質土
[赤褐色粘質ブロックを混入]

0 (1:20) 1m

2.90m

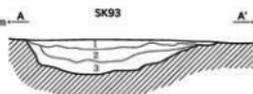
SK89



- SK89
1 にぶい黄褐色粘質土
2 黒褐色粘質土
3 灰黄褐色砂質土
[炭化物混入]
3' 黒褐色粘質土
[炭化物混入・遺物出土]
4 灰黄褐色砂質土
5 やや明るい灰黄褐色粘質土

2.90m

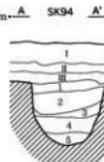
SK93



- SK93
1 灰褐色粘質土
[炭化物・遺物混入]
2 黒褐色粘質土
[炭化物混入]
3 灰黄褐色砂質土
[細かい・灰色粘土ブロック混入]
灰黄褐色粘質土 (地山)

3.40m

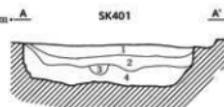
SK94



- SK94
I 褐色粘質土 (日本田耕作土)
II 灰褐色土 (日本田耕作土床土)
III 灰色粘質土
1 灰褐色粘質土
2 褐色粘質土
3 褐色粘質土
[遺物混入]
4 黒褐色粘質土
5 黒褐色土
[炭化物混入]

3.00m

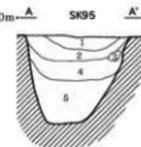
SK401



- SK401
1 灰褐色粘質土
2 灰黄褐色粘質土
3 灰黄褐色砂質土
4 黒褐色粘質土
[炭化物混入]

3.00m

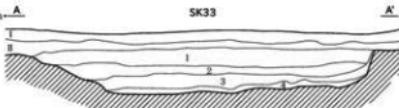
SK95



- SK95
1 褐色粘質土
2 灰黄褐色粘質土
3 灰黄褐色砂質土
4 褐色砂質土
[炭化物・遺物混入]
5 黒褐色土 (炭化物混入)

3.00m

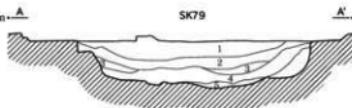
SK33



- SK33
I 褐色粘質土 (日本田耕作土)
II 灰褐色土 (日本田耕作土床土)
1 褐色粘質土
2 灰色粘質土
3 褐色粘質土
[わずかに遺物を混入する]
4 黒褐色粘質土
[炭化物が多く混入する]

3.00m

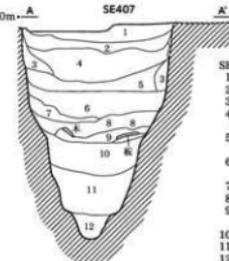
SK79



- SK79
1 灰色粘質土 (炭化物・遺物混入)
2 灰黄褐色粘質土 (灰色粘土ブロック混入)
3 灰黄褐色砂質土 (灰色粘土ブロック混入)
4 黒褐色粘質土 (炭化物混入)
5 にぶい灰褐色粘質土

3.00m

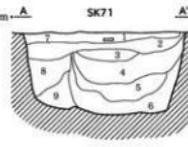
SE407



- SE407
1 褐色粘質土
2 灰褐色粘質土
3 灰黄褐色砂質土
4 黒褐色土
[炭化物混入]
5 黄色粘質土
[炭化物混入]
6 黒色粘質土
[炭化物混入]
7 褐色砂質土
8 褐色粘質土
9 黒褐色土
[炭化物混入・木炭]
10 灰黄褐色粘質土
11 灰色粘質土
12 黒色土

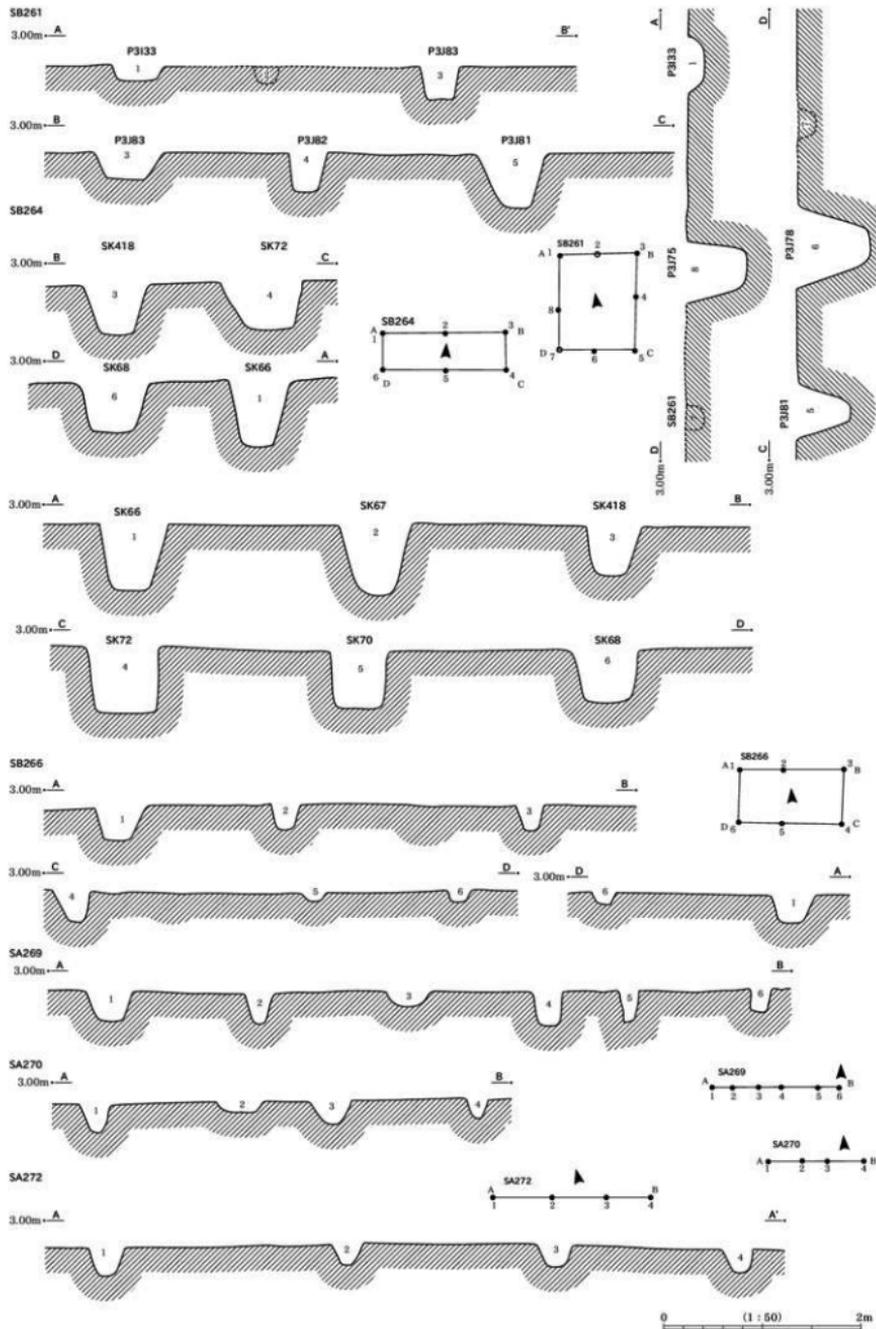
3.00m

SK71

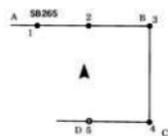
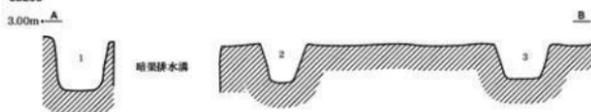


- SK71
1 灰黄褐色粘質土
[炭化物・遺物混入]
2 灰褐色粘質土
[灰色粘土ブロック混入]
3 灰黄褐色砂質土
[灰色粘土ブロック混入]
4 褐色粘質土
5 黒褐色粘質土
6 にぶい黄褐色粘質土
7 褐色粘質土
8 にぶい黄褐色砂質土
9 にぶい黄褐色砂質土

0 (1:50) 2m

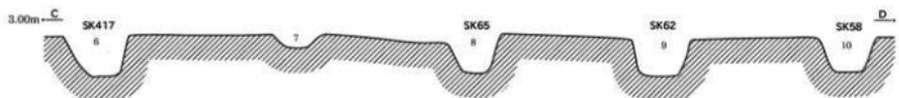
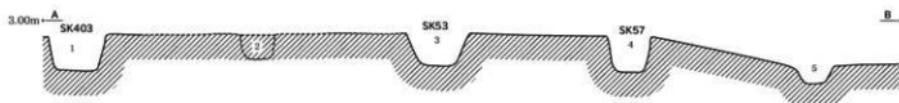


SB265

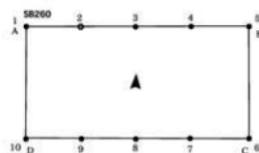


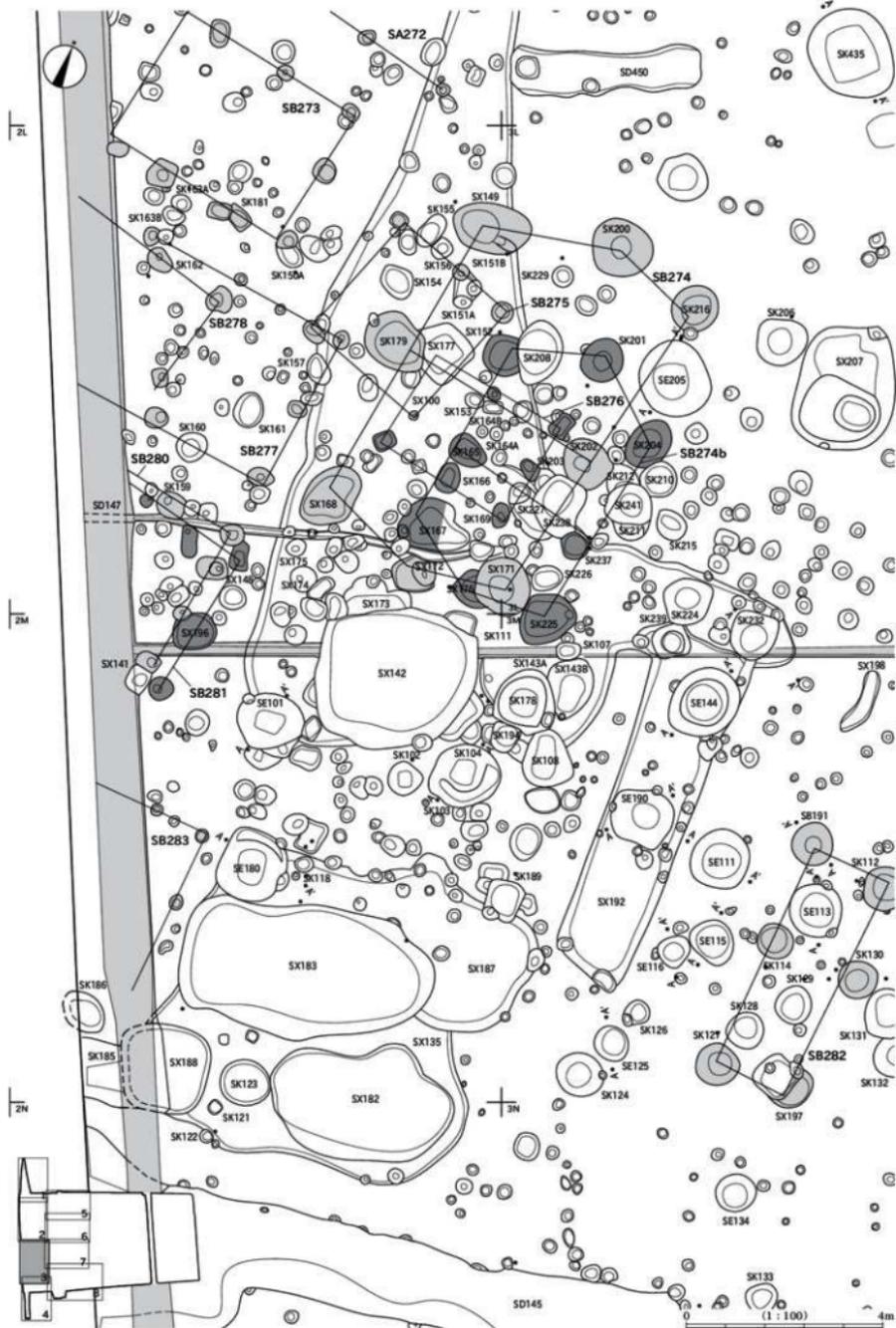
0 (1:50) 2m

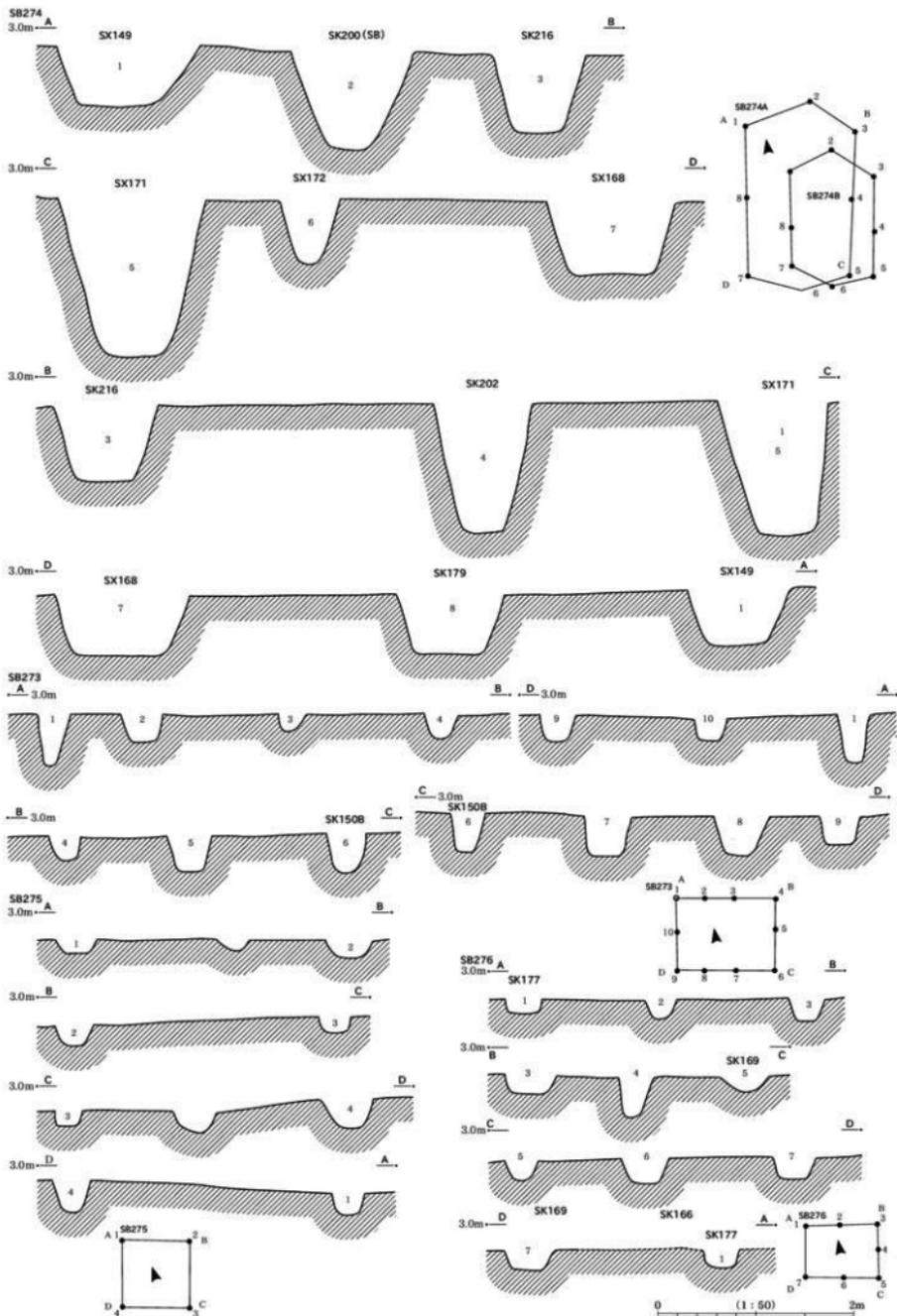
SB260

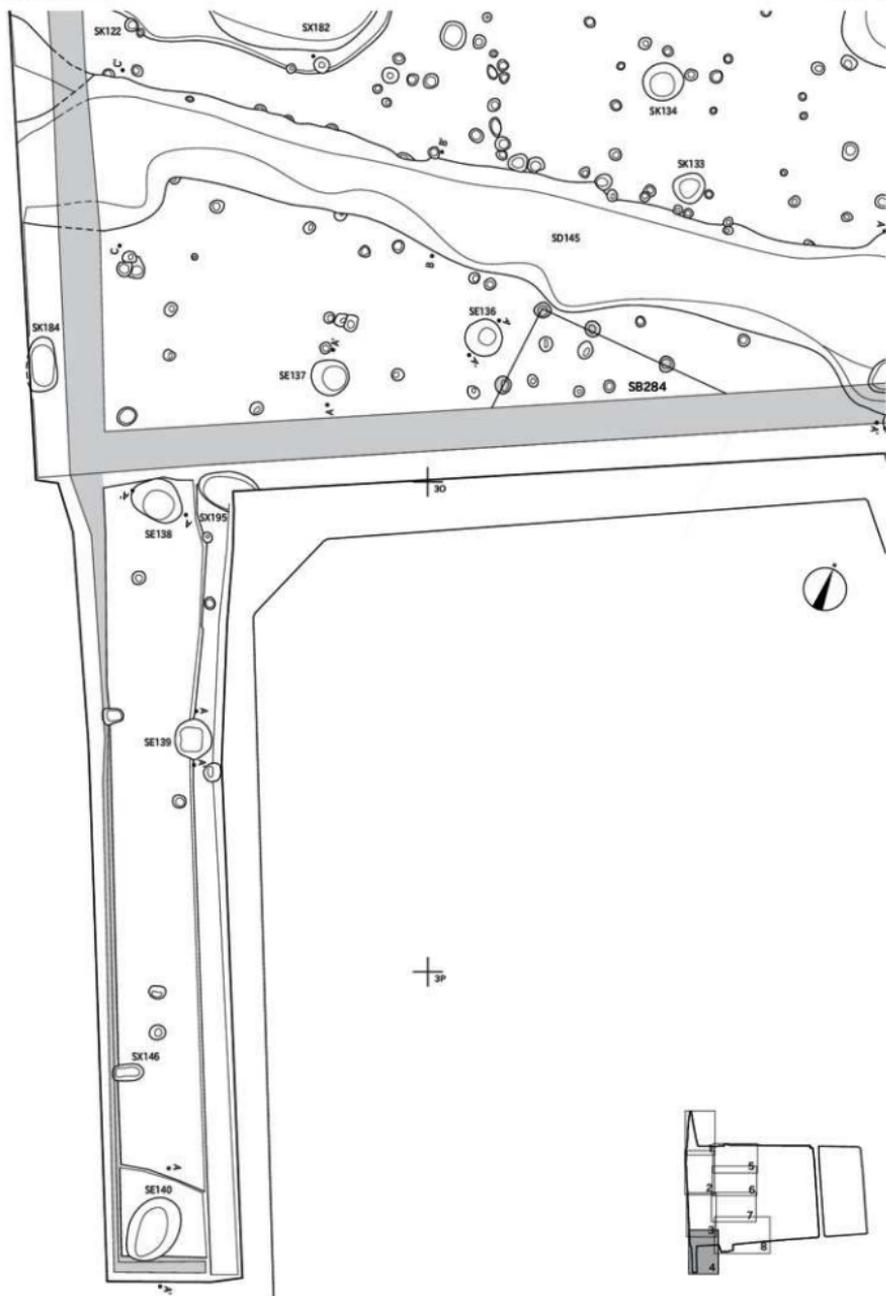


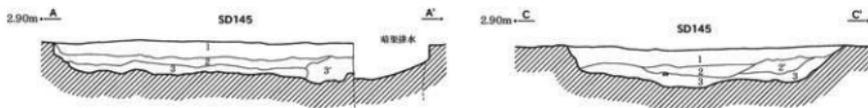
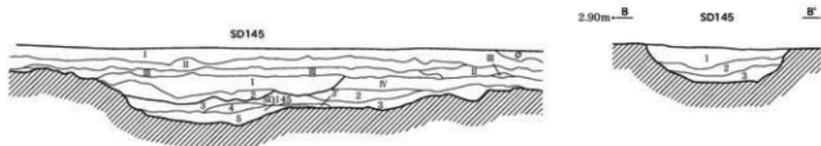
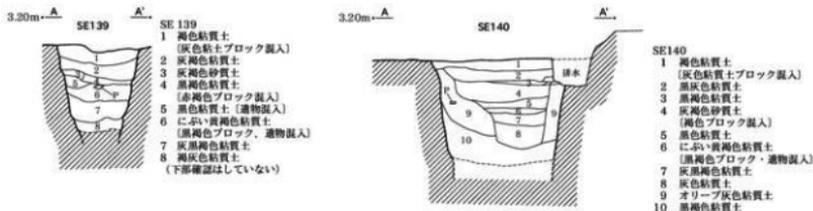
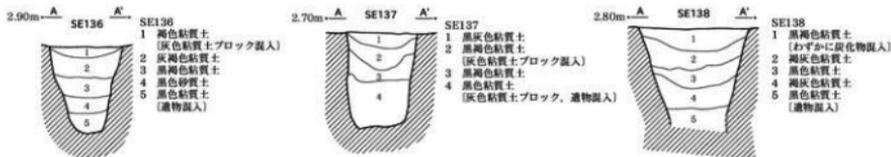
0 (1:60) 3m



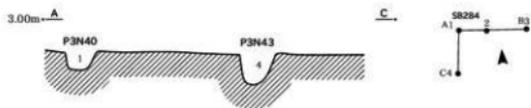
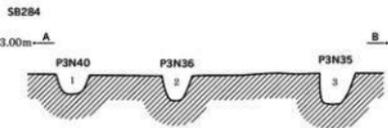


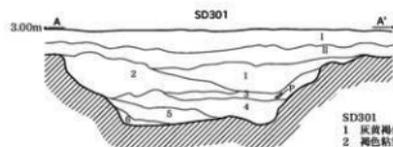




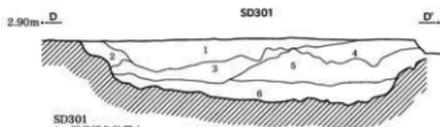
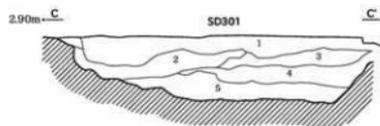


- SD 145**
- 1 灰黒褐色粘質土
 - 2 黒褐色粘質土
 - 3 褐灰土
 - 4 黒褐色粘質土 (赤褐色ブロック混入)
 - 5 黒色粘質土 (遺物混入)
 - 6 におい、質褐色粘質土 (黒褐色ブロック混入、遺物混入)

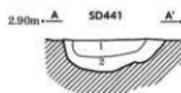




- SD301
 1 灰黄褐色粘質土
 2 褐色粘質土
 3 褐色粘質土
 4 黒褐色粘質土
 5 黒色粘質土
 6 オリーブ灰色粘質土



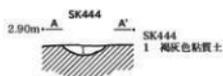
- SD301
 1 灰黄褐色粘質土
 2 褐色粘質土
 3 褐色粘質土
 4 黒褐色粘質土
 5 黒色粘質土
 6 オリーブ灰色粘質土



- SD441
 1 褐色粘質土
 2 にお、黄褐色粘質土



- SD302
 1 灰褐色粘質土



- SK444
 1 褐色粘質土

SB282

3.00m A

SK191

SK112

B 3.00m C

SK127

D



3.00m B

SK112

SK130

C



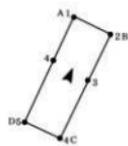
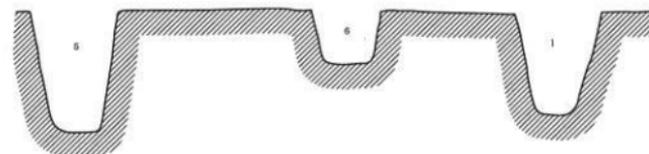
3.00m D

SK117

SK114

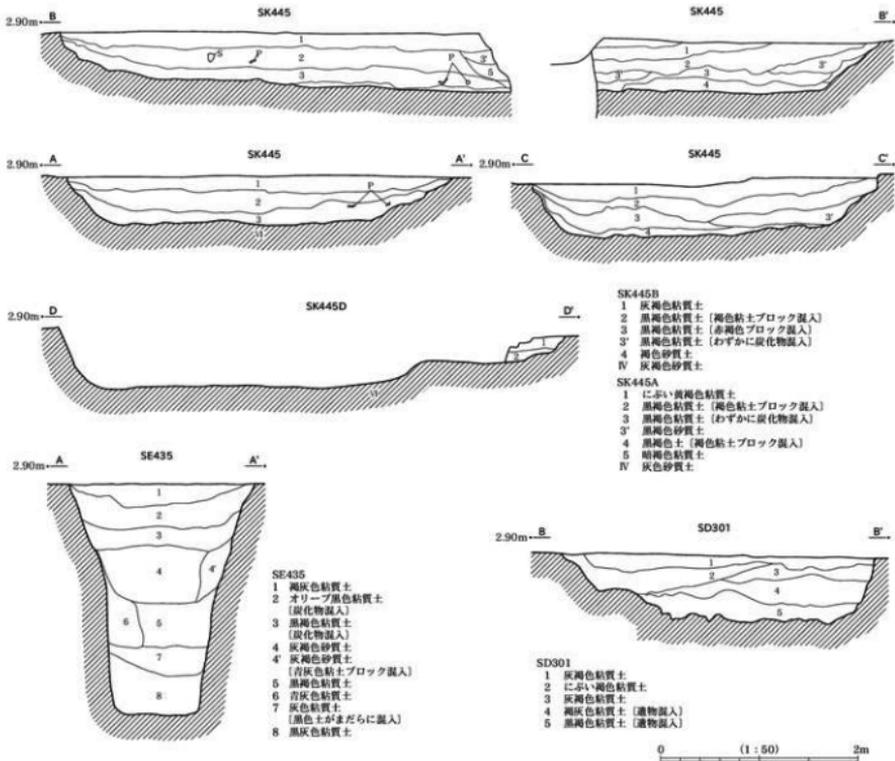
SK191

A

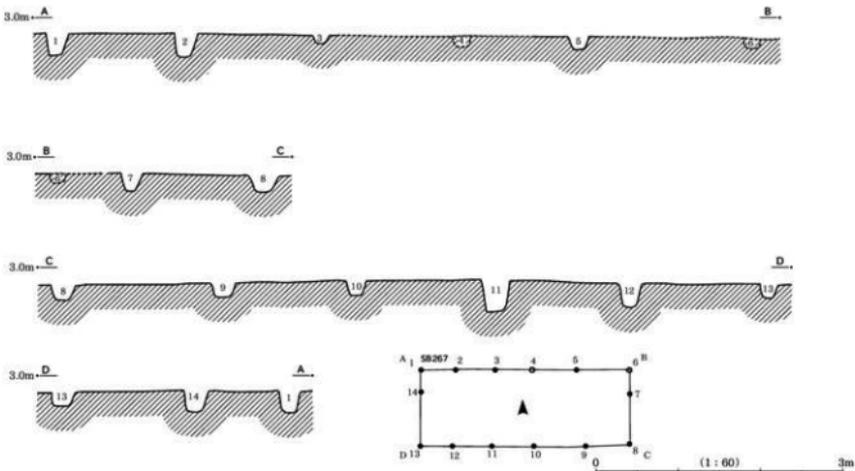


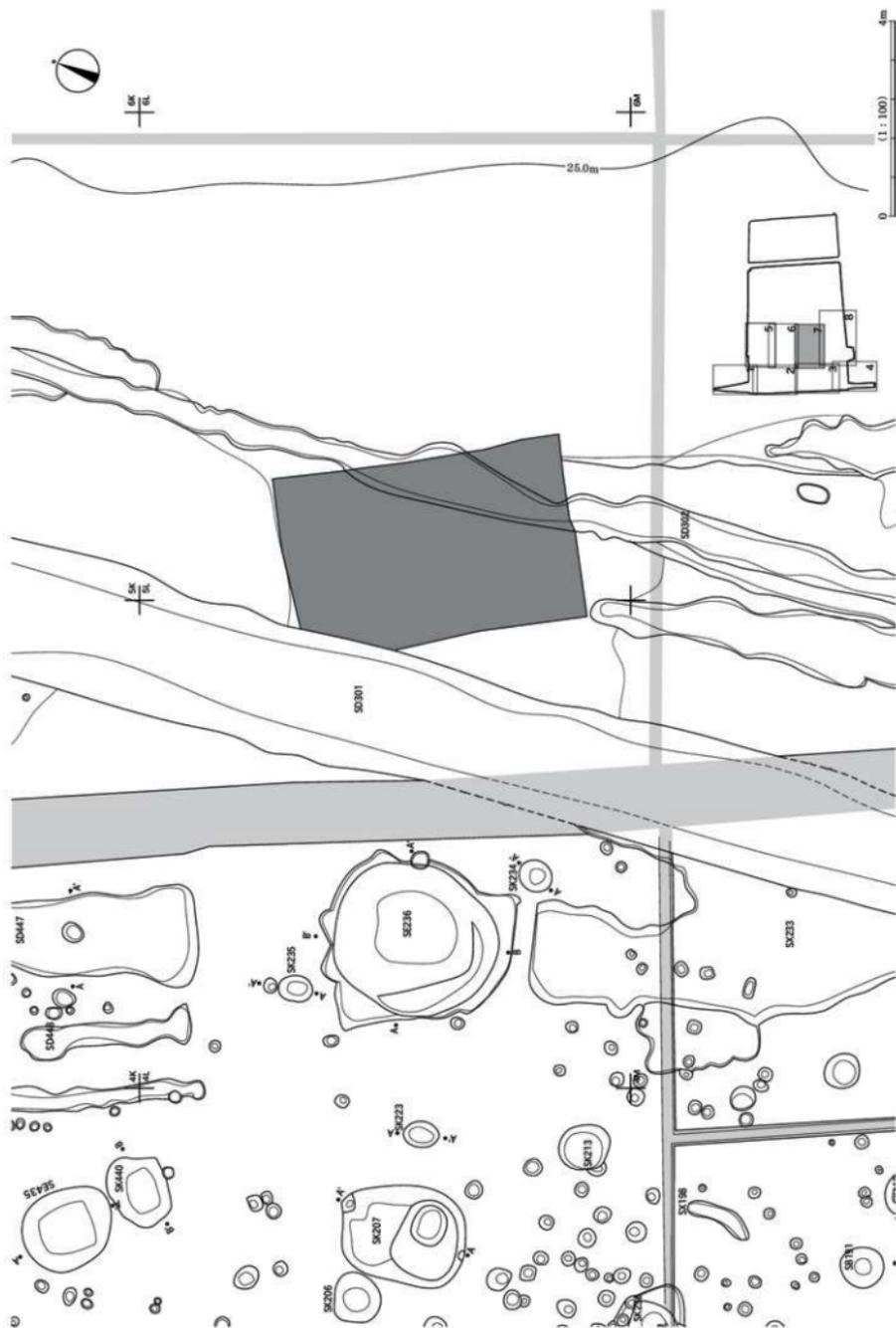
0 (1 : 50) 2m

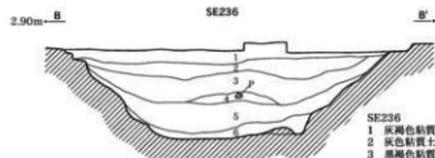
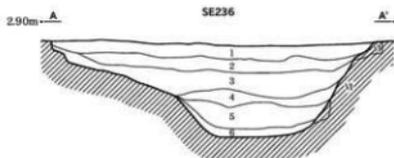




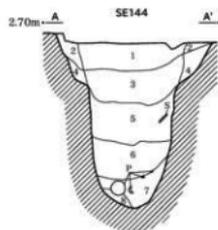
SB267



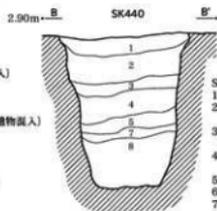




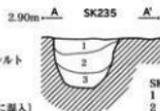
- SE236
 1 灰褐色粘質土
 2 灰色粘質土
 3 黒褐色粘質土
 4 灰褐色砂質土
 5 灰褐色砂質土
 6 灰黒褐色粘質土



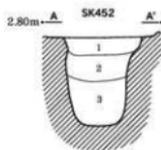
- SE144
 1 褐灰色粘質土
 2 褐色粘質土
 3 [灰色粘質土ブロック混入]
 4 黒褐色粘質土
 5 褐色粘質土
 6 灰褐色粘質土
 7 [炭化物混入]
 8 黒土がまだらに混入
 [遺物・炭化物混入]



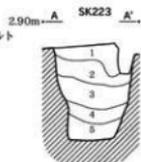
- SK440
 1 褐灰色粘質土シルト
 2 褐灰色粘質土
 3 黒褐色粘質土
 4 灰褐色粘質土
 5 灰褐色砂質土
 6 灰オリーブ色粘質土
 7 灰褐色粘質土
 8 黒灰色粘質土



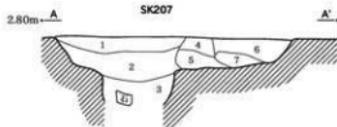
- SK235
 1 灰褐色粘質土
 2 灰色粘質土
 3 灰黒色粘質土



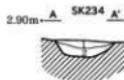
- SK452
 1 褐灰色粘質土シルト
 2 黄褐色粘質土
 3 黒灰色粘質土



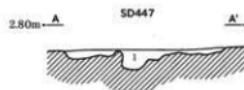
- SK223
 1 灰褐色粘質土
 2 灰色粘質土
 3 黒褐色粘質土
 4 灰褐色粘質土
 5 黒褐色粘質土



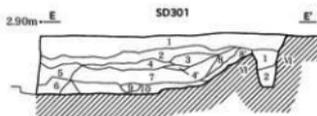
- SK207
 1 灰褐色粘質土
 2 灰色粘質土
 3 黒褐色粘質土
 4 灰褐色砂質土
 5 [赤褐色ブロック混入]
 6 黒褐色粘質土
 7 におい・黄褐色粘質土
 [黒褐色ブロック混入]



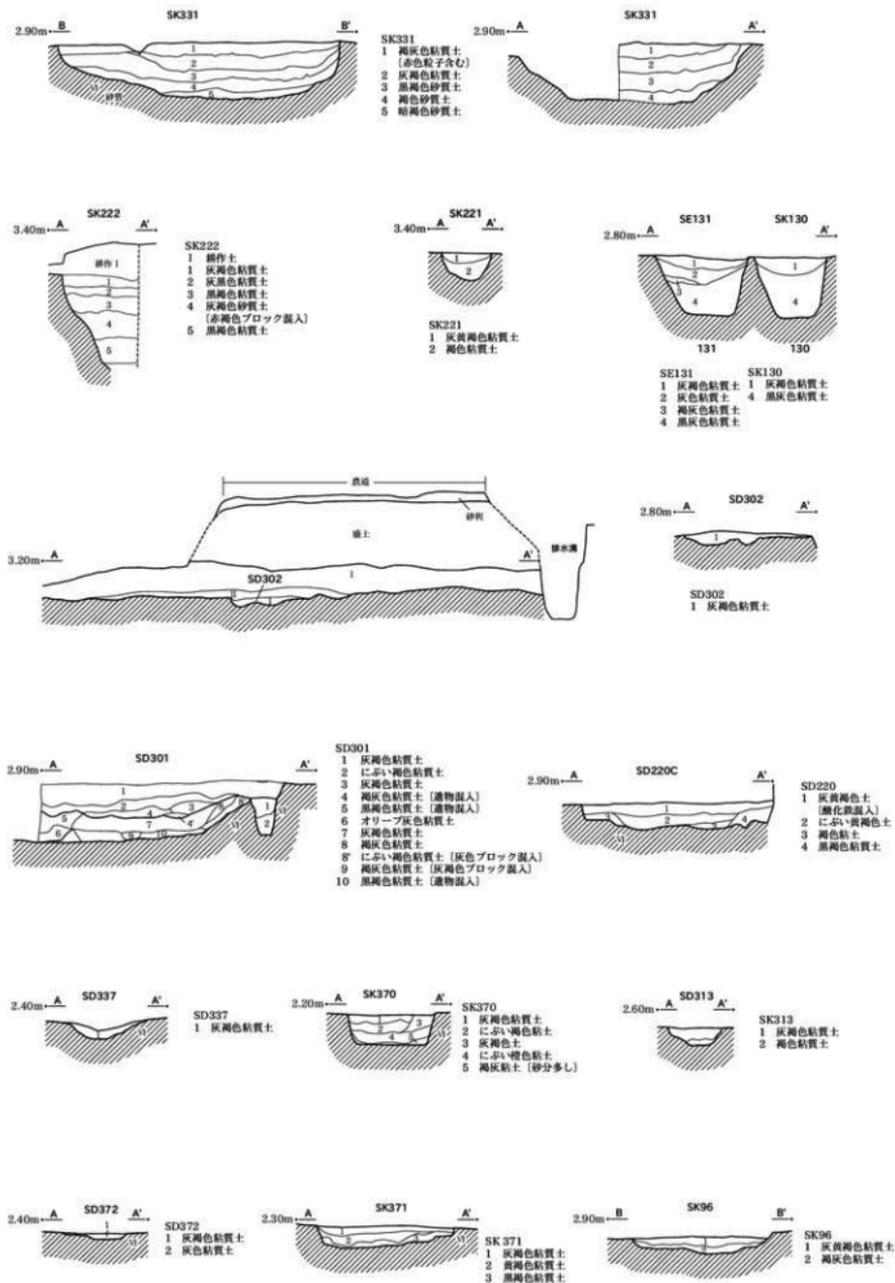
- SK234
 1 灰褐色粘質土
 2 灰色粘質土

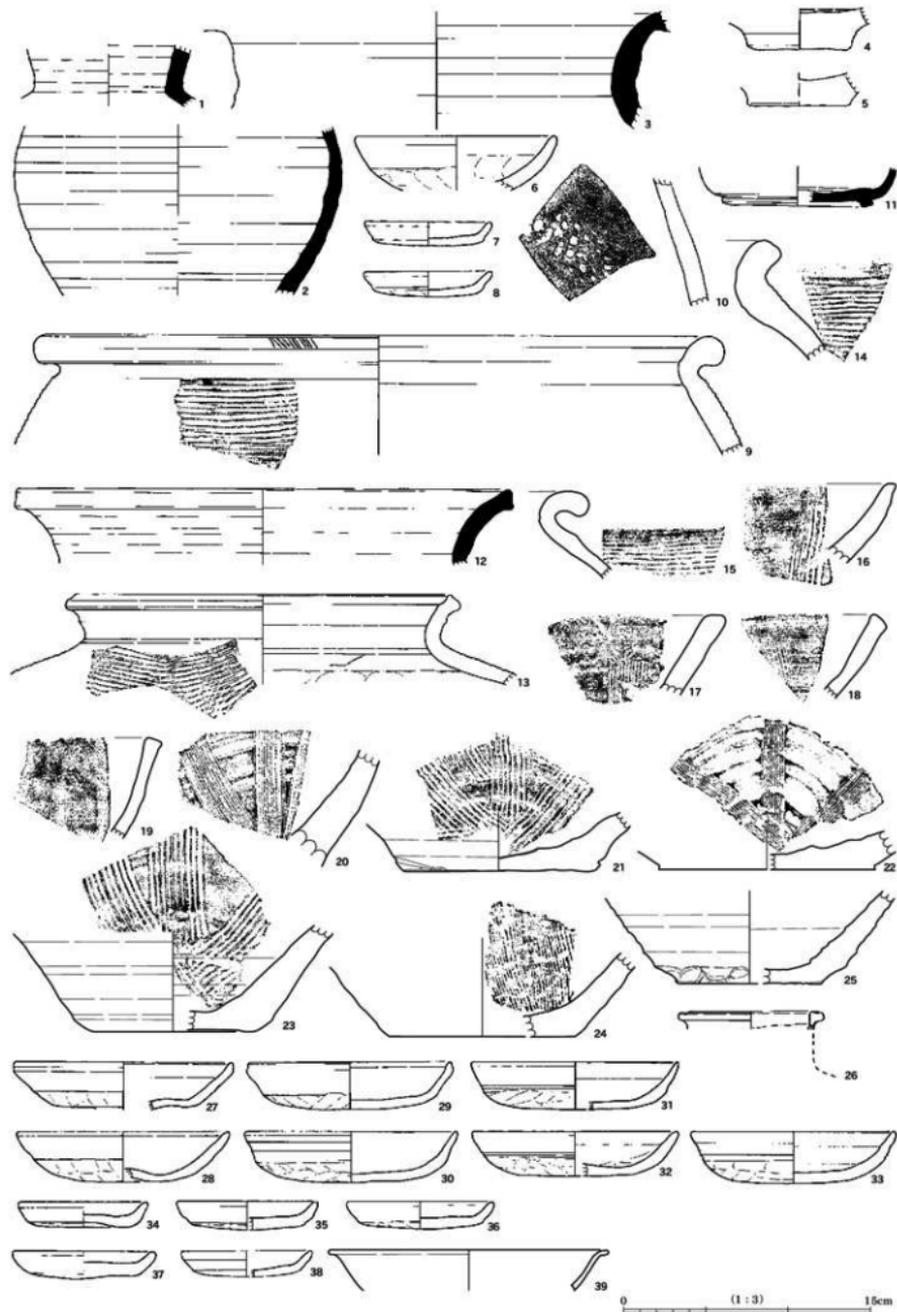


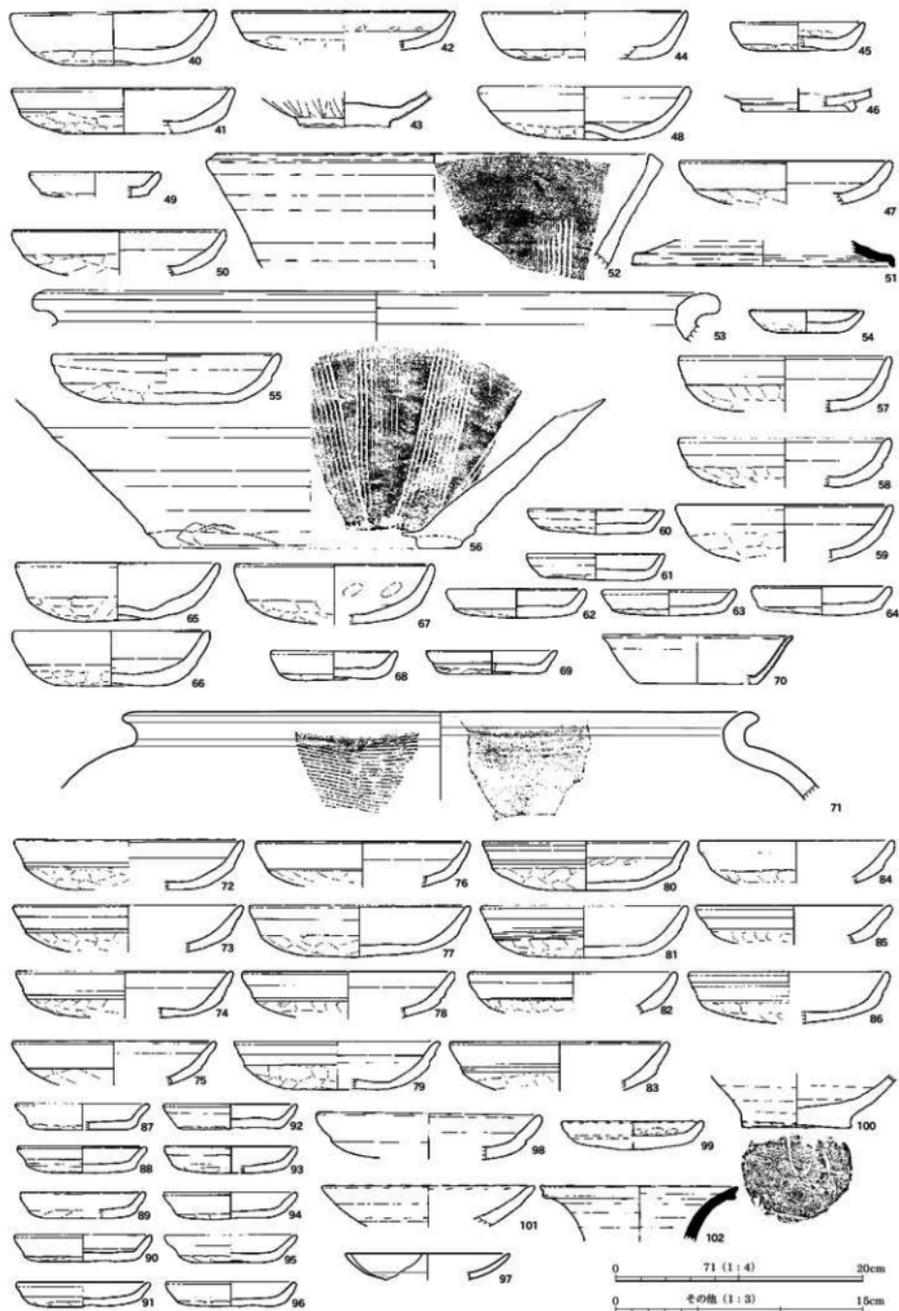
- SD447
 1 褐灰色粘質土シルト

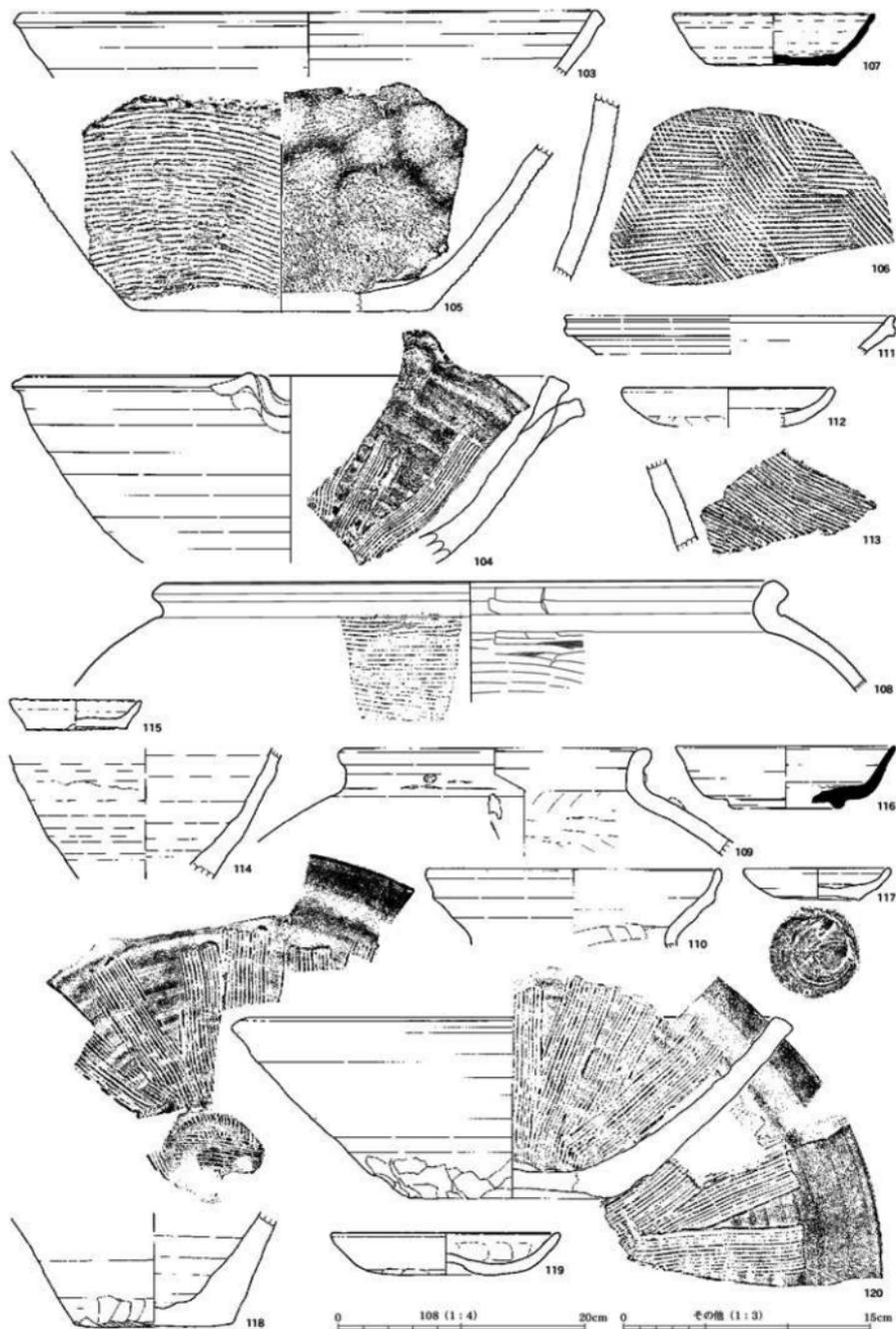


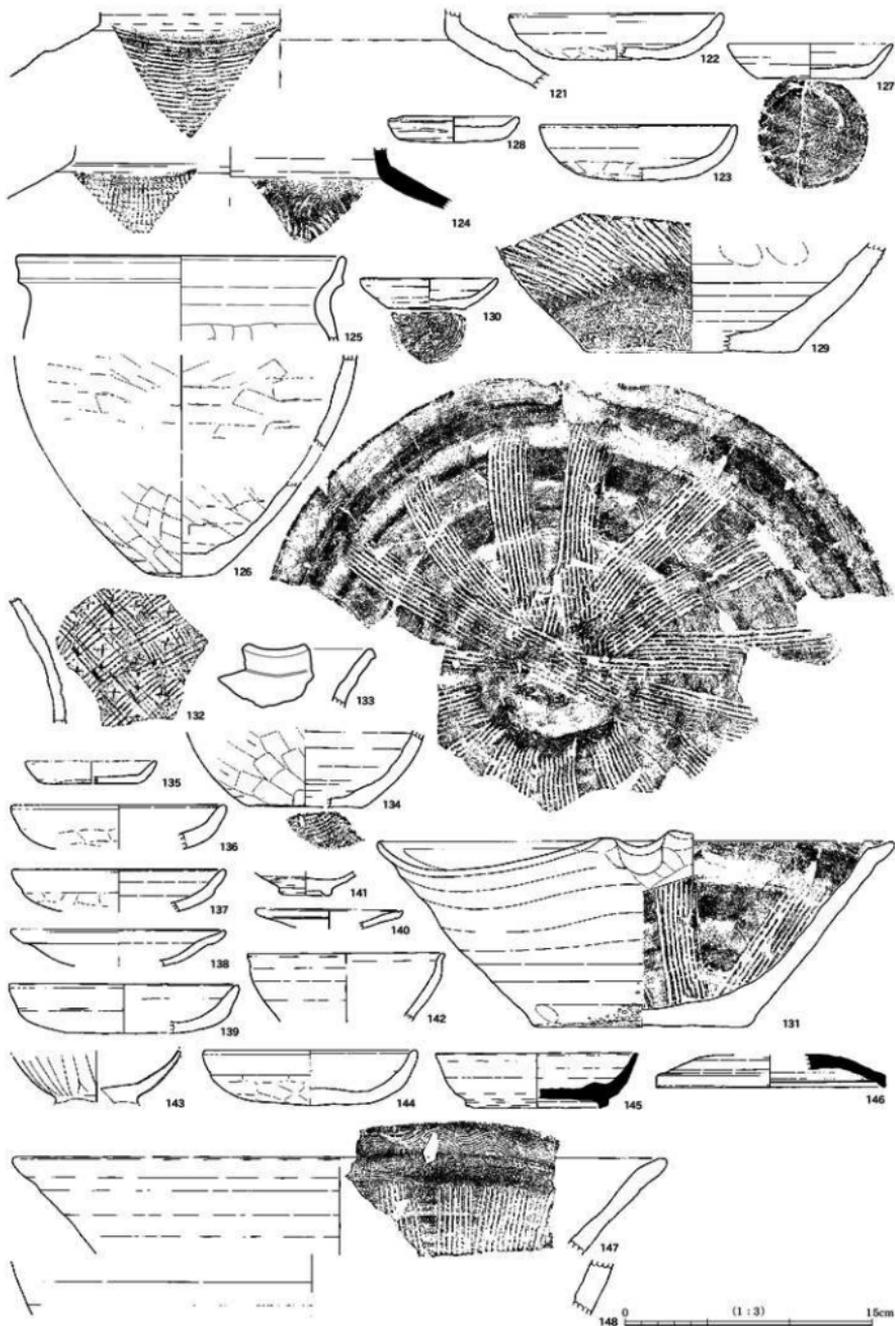
- SD301
 1 灰褐色粘質土
 2 におい・褐色粘質土
 3 灰褐色粘質土
 4 褐灰色粘質土
 5 黒褐色粘質土
 6 オリーブ灰色粘質土
 7 灰褐色粘質土
 8 灰褐色粘質土
 9 におい・褐色粘質土
 10 黒褐色粘質土

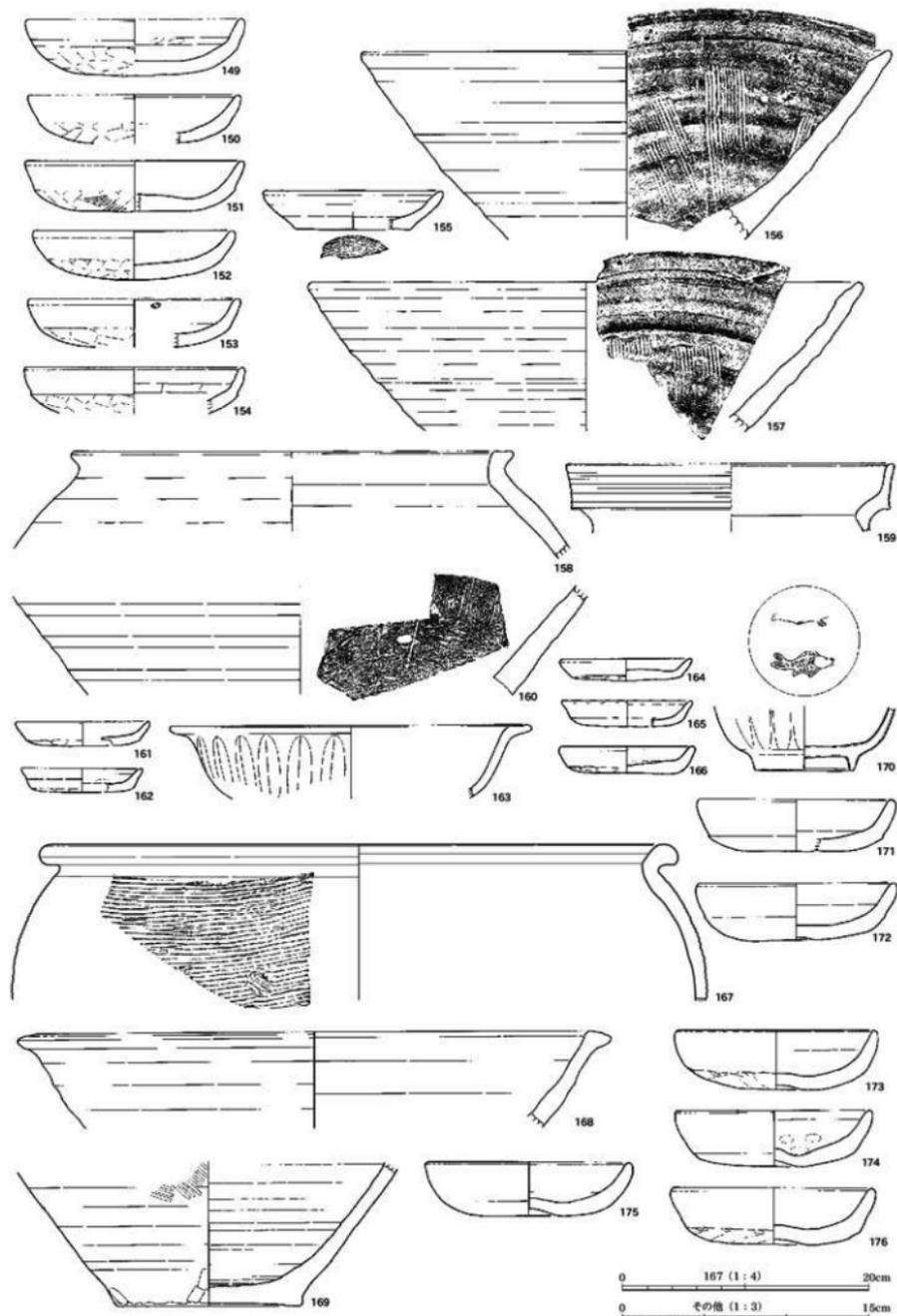


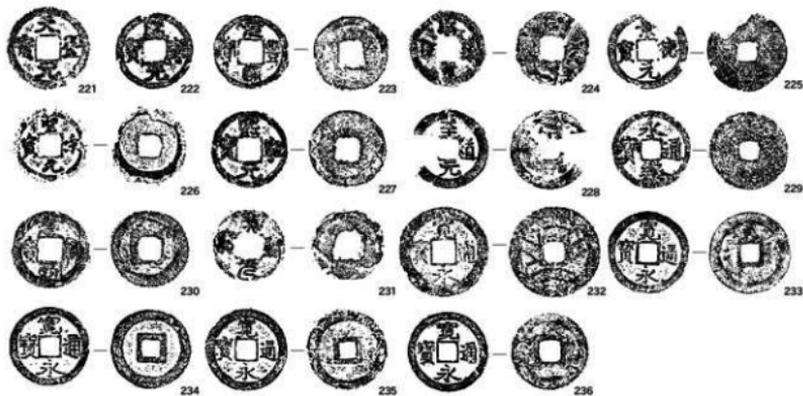
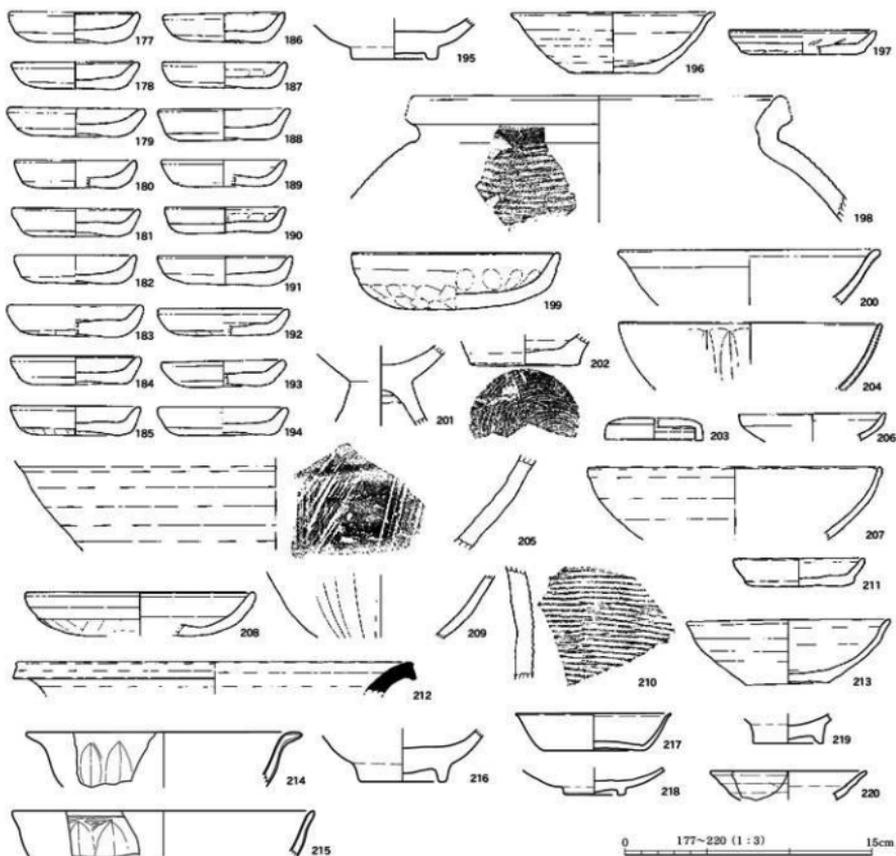


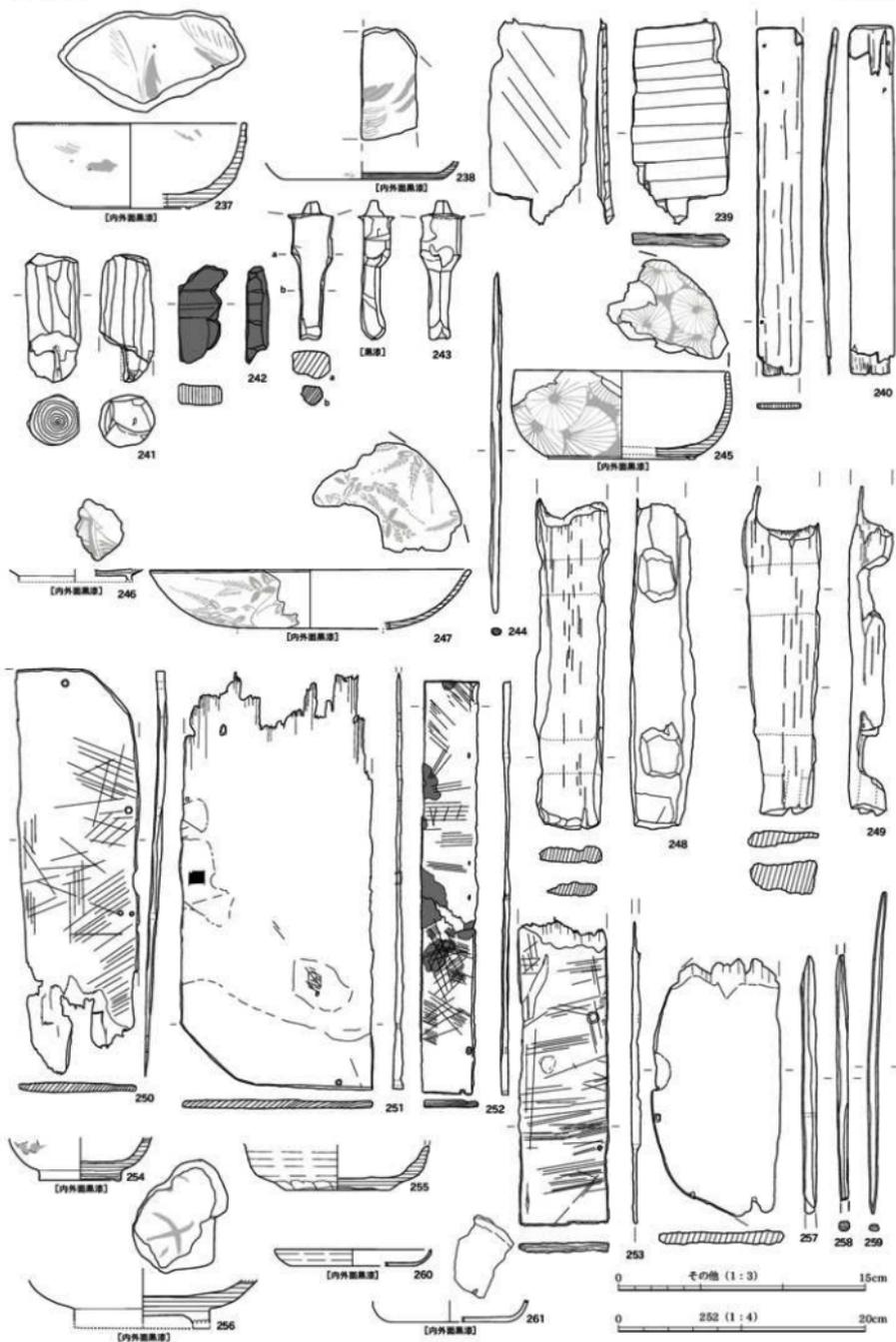


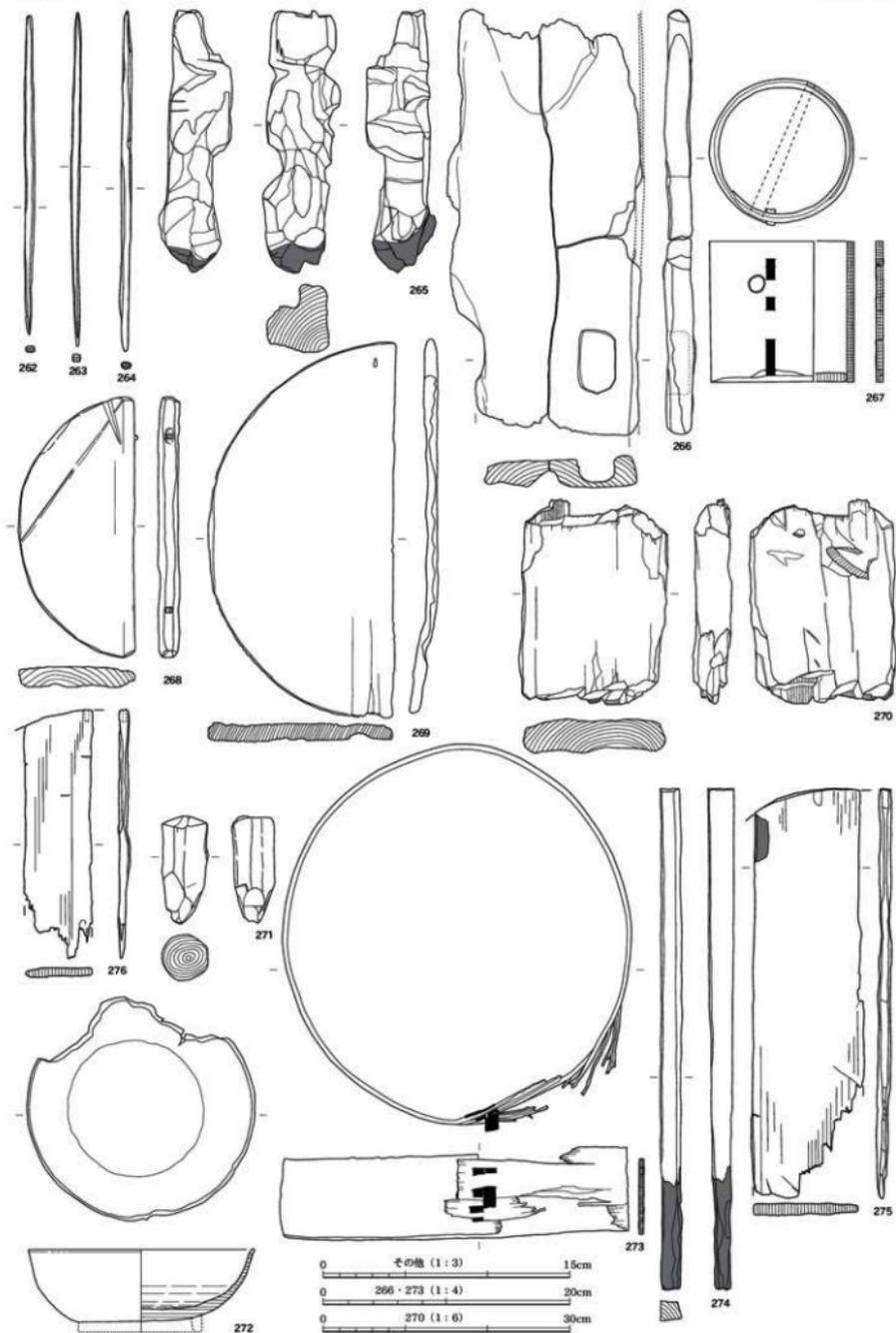


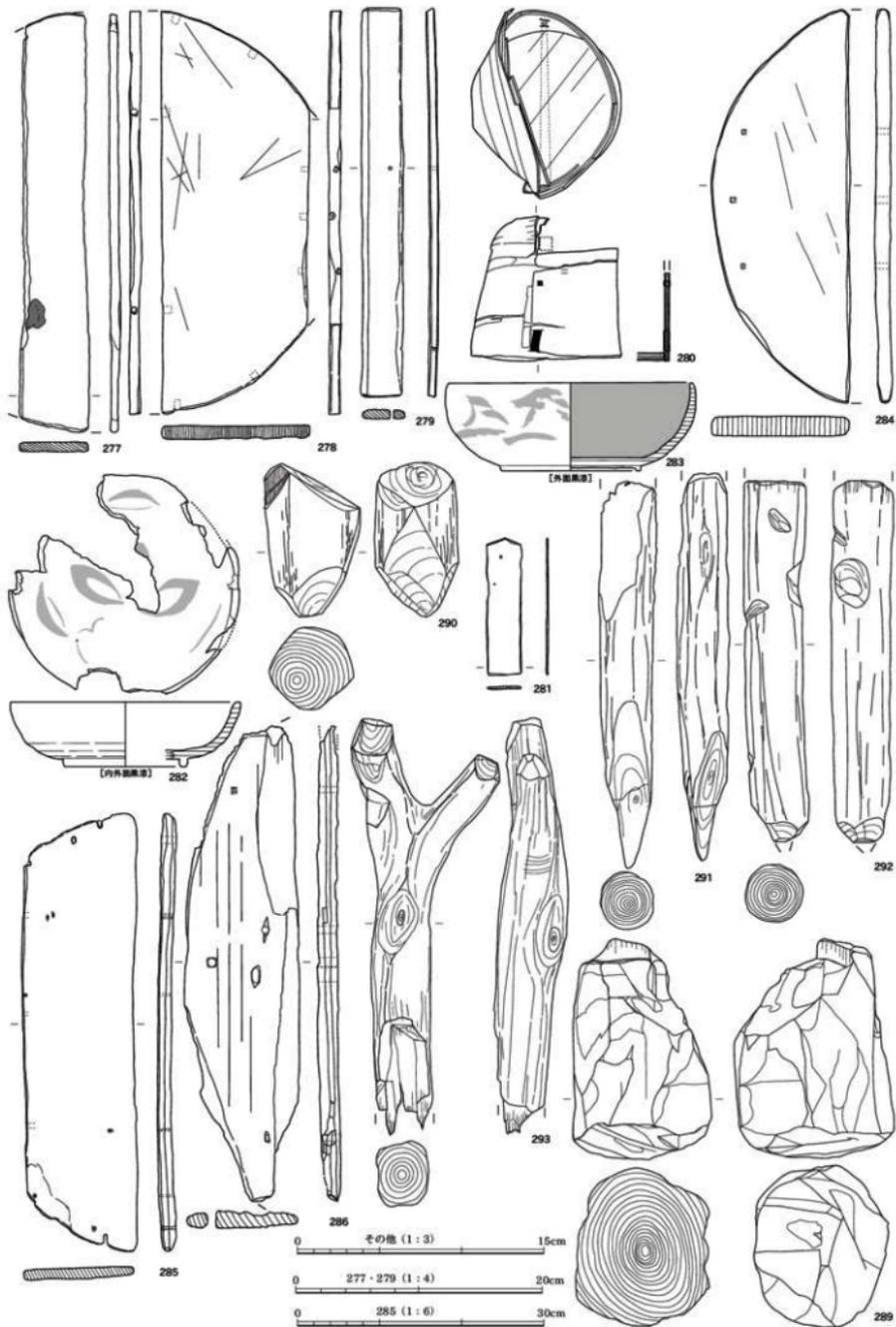


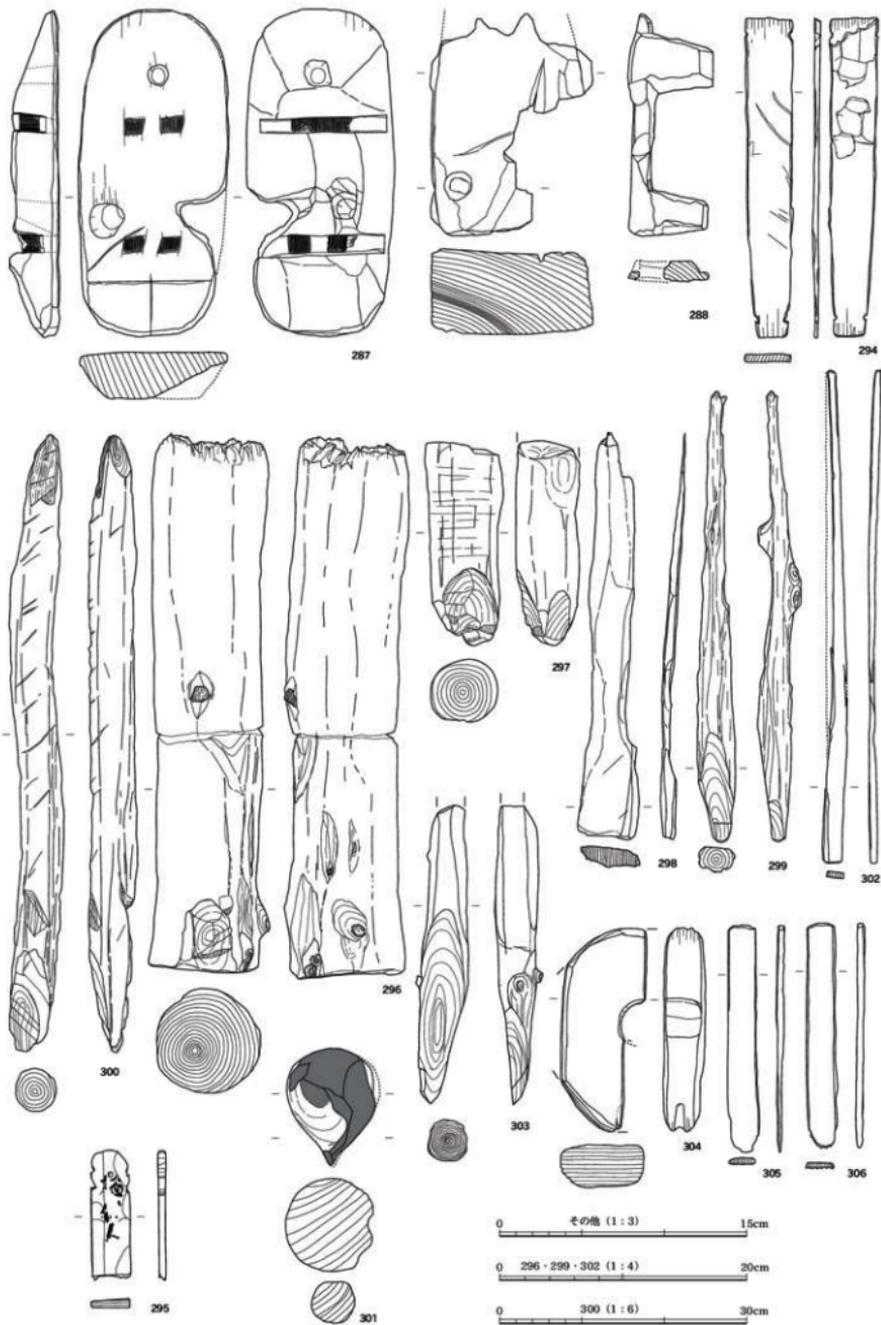


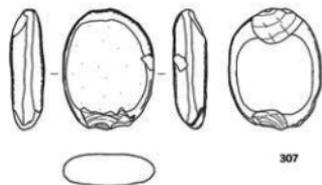




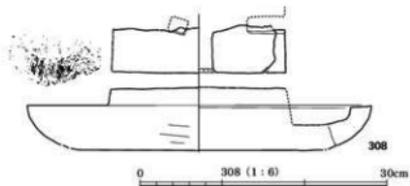




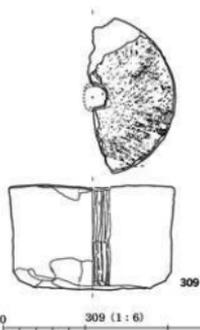




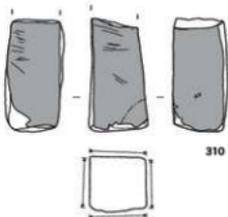
307



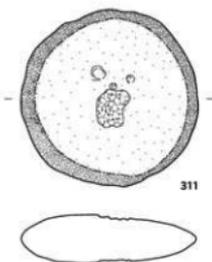
308



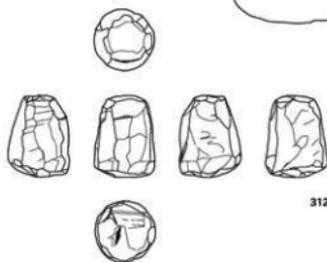
309



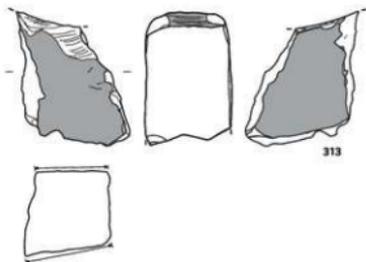
310



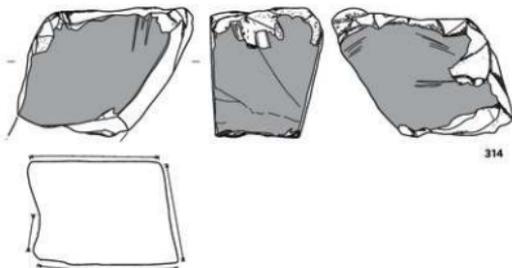
311



312



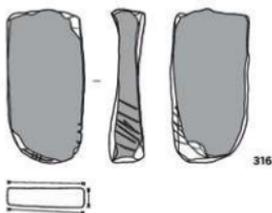
313



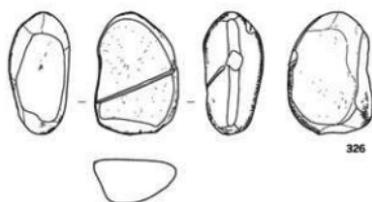
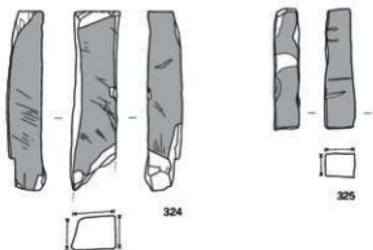
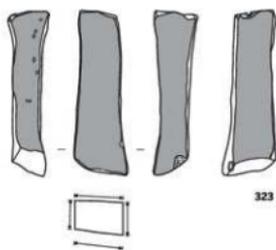
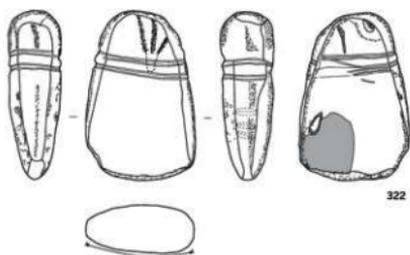
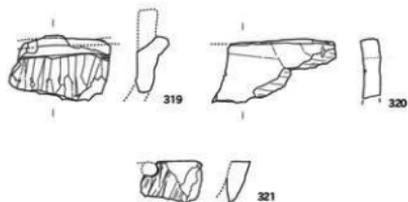
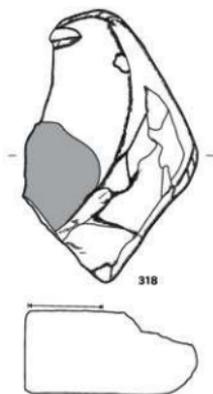
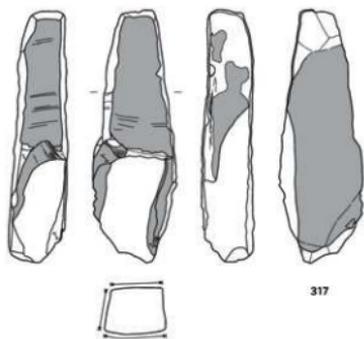
314

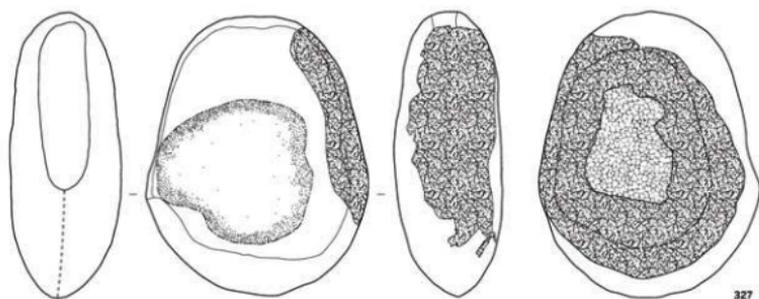


315



316

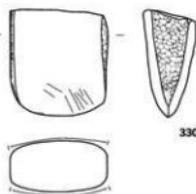
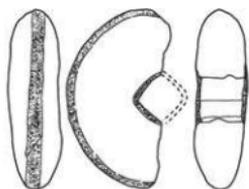




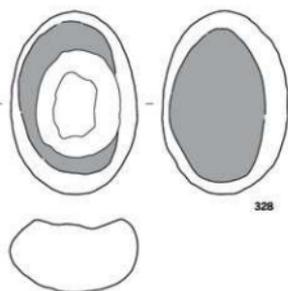
327



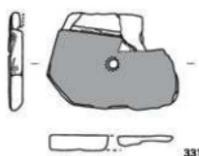
329



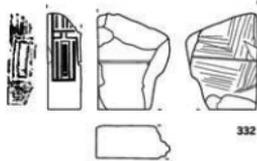
330



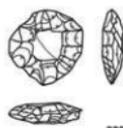
328



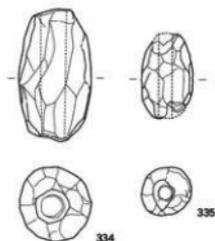
331



332



333



334

335



336



337



338



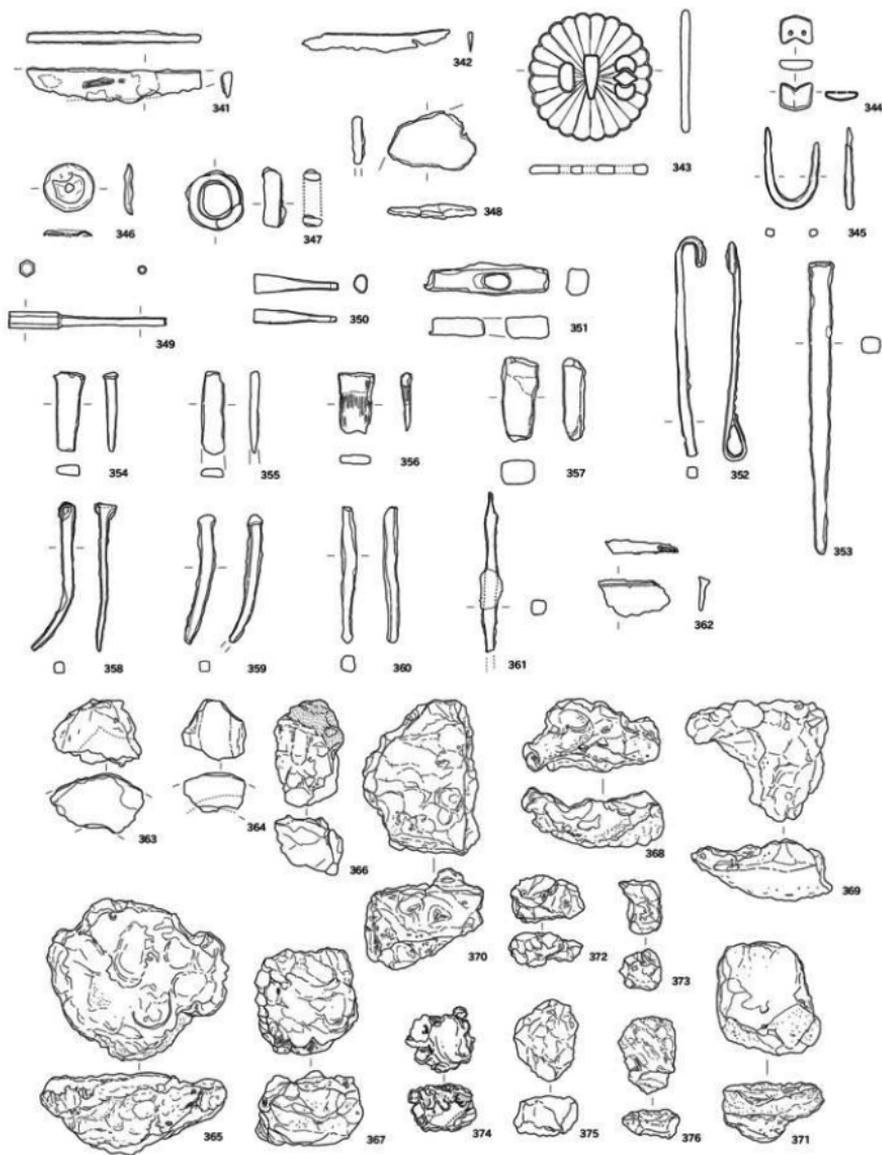
339



340

0 332・333 (2:3) 5cm

0 その他 (1:3) 15cm



0 (1:3) 16cm



通跡周辺空中写真【昭和22年】

（11月11日米軍撮影）



調査区近景（南から 左奥に番神堂）



調査区近景（東から 左奥に米山）



调查区完照状况



遺構集中区完脱状況【西側部】



2G・2J区 (北から)



2F・2J区 (南西から)



SK86 完掘 (東から)



SK86 土層断面 (東から)



SE8 遺物出土状況 (東から)



SE9 最深度遺物出土状況 (東から)



SE101 土層断面 (東から)



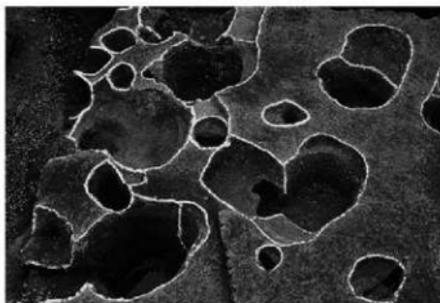
SE101 完掘 (東から)



SK81 土層断面 (東から)



SK81 完掘 (北から)



SB255 完掘 (東から)



SK235 土層断面 (東から)



SK42 土層断面 (東から)



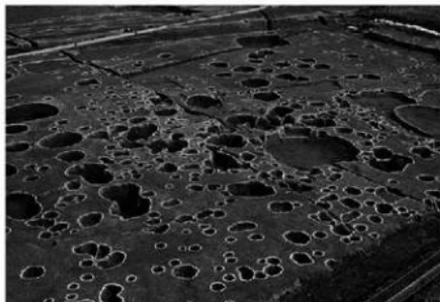
SK42 遺物出土状況 (東から)



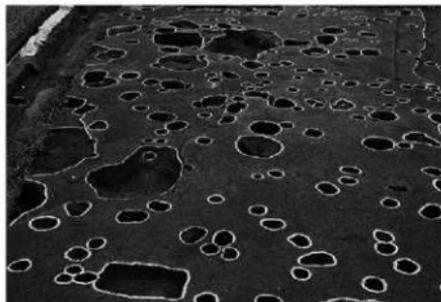
SK33 土層断面 (南から)



P2H14 遺物出土状況 (東から)



2M・2N・3M・3N区 (北西から)



2I・2J区 (南から)



SK80 遺物出土状況 (南から)



SK80 土層断面 (南から)



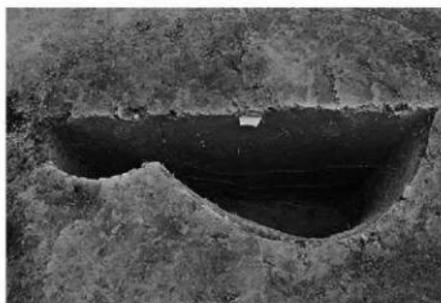
SE407 最深部遺物出土状況 (南から)



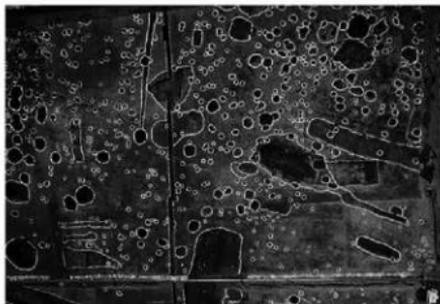
SE407 土層断面 (南から)



SK79 土層断面 (南から)



SK71 土層断面 (南から)



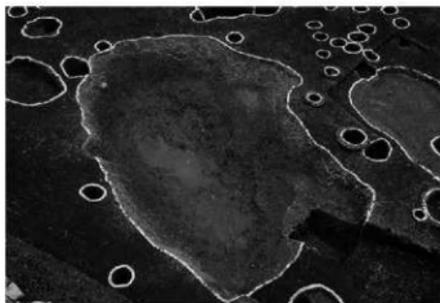
2~4・I~K区



4I・5I・5J区 (北から)



SK89 土層断面 (南から)



SK89 完掘 (北東から)



SK89 土層断面 (東から)



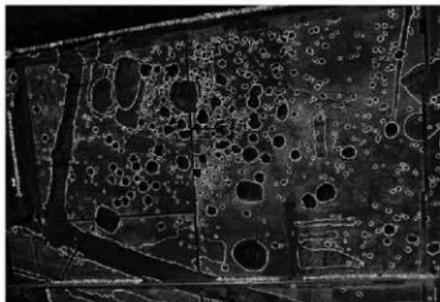
SK93 土層断面 (東から)



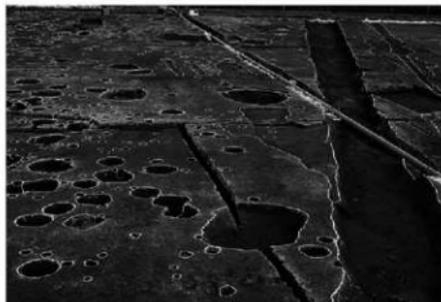
SK94 土層断面 (東から)



SK401 土層断面 (東から)



4I・4J・5I・5J区



5I・5J・5K区 (南から)



SD301A-A' 土層断面 (南から)



SD301B-B' 土層断面 (南から)



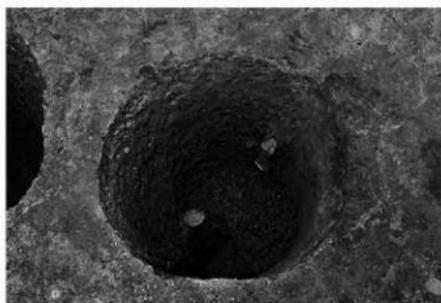
SE139 土層断面 (南から)



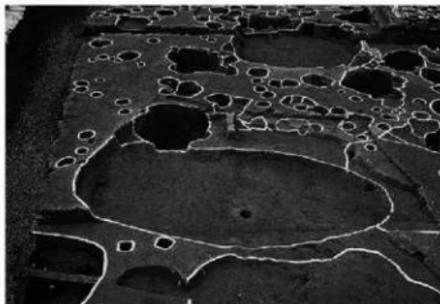
SK438 土層断面 (東から)



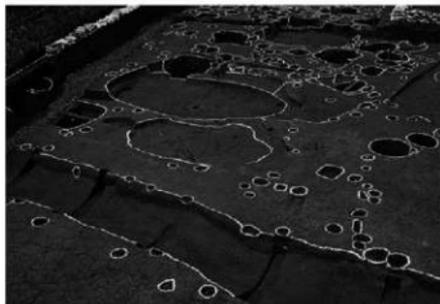
SK124 発掘 (東から)



SK125 発掘 (東から)



2N・2M区 (南から)



2N・3M区 (南から)



SD145A-A' 土層断面 (東から)



SD145B-B' 土層断面 (西から)



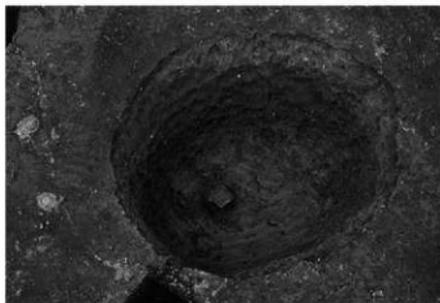
SE180 土層断面 (南から)



SK187 土層断面 (西から)



SK130 遺物出土状況 (南から)



SE129 最深度遺物出土状況 (東から)



SB275P2 (SK171) (南から)



SB275P5 (SK149) 土層断面 (東から)



SK182 土層断面 (南から)



SK135 土層断面 (南から)



SK225 完掘



SK204 完掘 (西から)



SK209 完掘 (東から)



SK239 完掘 (東から)



3N・4M区 (南から)



SD145C-C' 土層断面 (西から)



SD301 土層断面 (南から)



SK228 土層断面 (南から)



SK331 完掘 (南から)



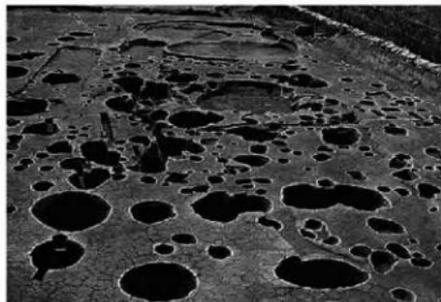
SK331 土層断面 (南から)



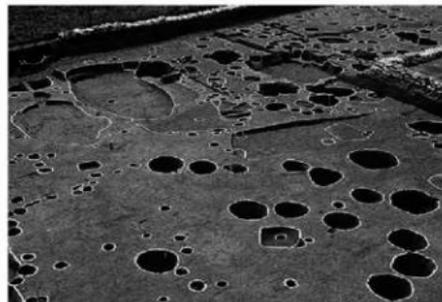
SK222 土層断面 (北から)



SK227 土層断面 (北東から)



2L・3L区 (北から)



2M・3M区 (東から)



2O・2P区 (北から)



SK234 土層断面 (東から)



SE140 土層断面 (東から)



SE111 土層断面上層 (北から)



SE111 土層断面上層 (北から)



SE407 完掘 (東から)



2J・3K区



3I・3J・4I・4J区 (北から)



4K・4L区 (北から)



SK445 完掘 (南西から)



SK445 土層断面 (南から)



SK445 土層断面 (南から)



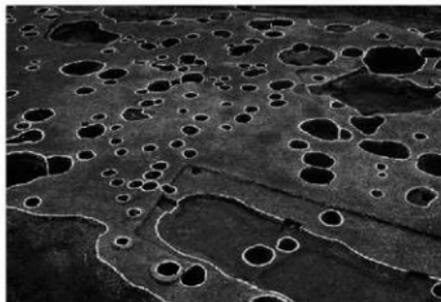
SE435 遺物出土状況上層 (北から)



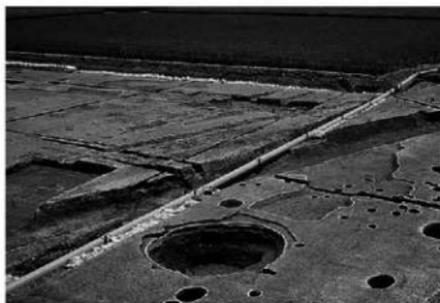
SE435 遺物出土状況最下層 (北から)



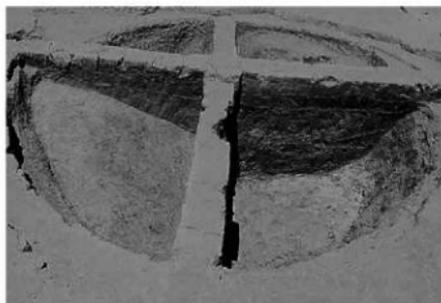
3L・3K・4L・4K区 (東から)



2～3I区 (東から)



4M・4N区 (北西から)



SE236 土層断面 (南から)



SE236 完掘 (南から)



SE144 土層断面 (東から)



SE144 完掘 (東から)



SK440 土層断面 (南から)



SE111 遺物出土状況 (東から)



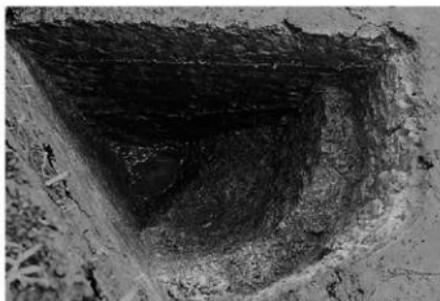
SK207 遺物出土状況 (東から)



SE205 遺物出土状況 (東から)



SE205 土層断面 (東から)



SK94 土層断面 (東から)



SK93 完掘状況 (西から)



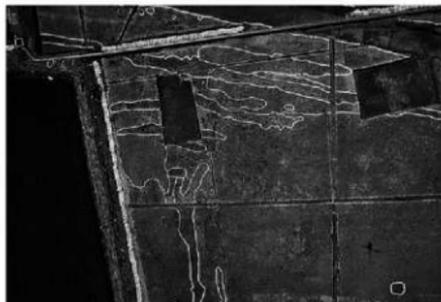
SK401 土層断面 (東から)



SE190 土層断面 (南から)



10I~12M区 (東から)



10I~12M区 (南から)



10I~11J区 (北から)



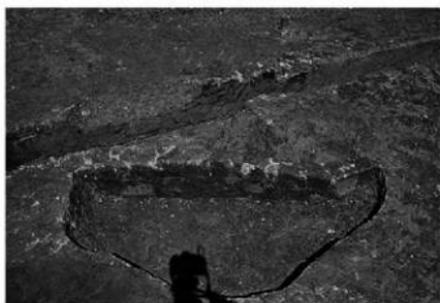
11I・11J区 (北から)



10J・11J区 (北から)



10N・11N区 (南から)



SK371 土層断面 (南から)



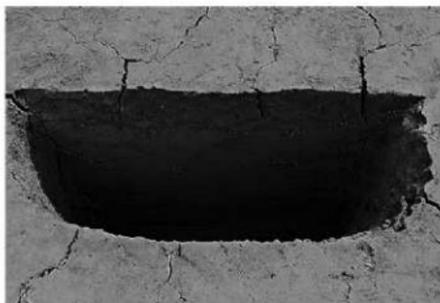
SK222 土層断面 (北から)



B・C区



C区



SK436 土層断面 (東から)



SK206 土層断面 (東から)



B・C区 (西から)



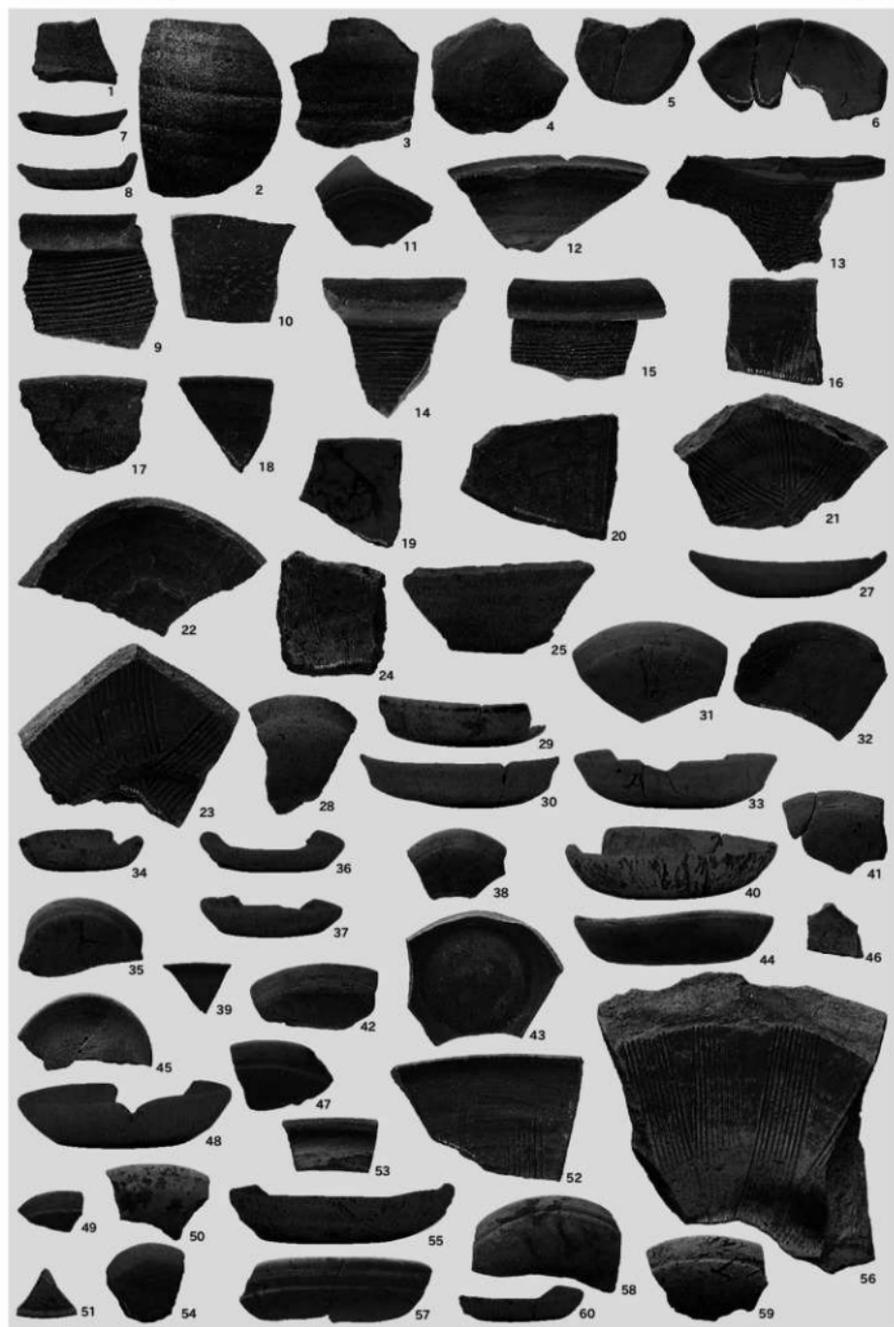
B・C区 (東から)

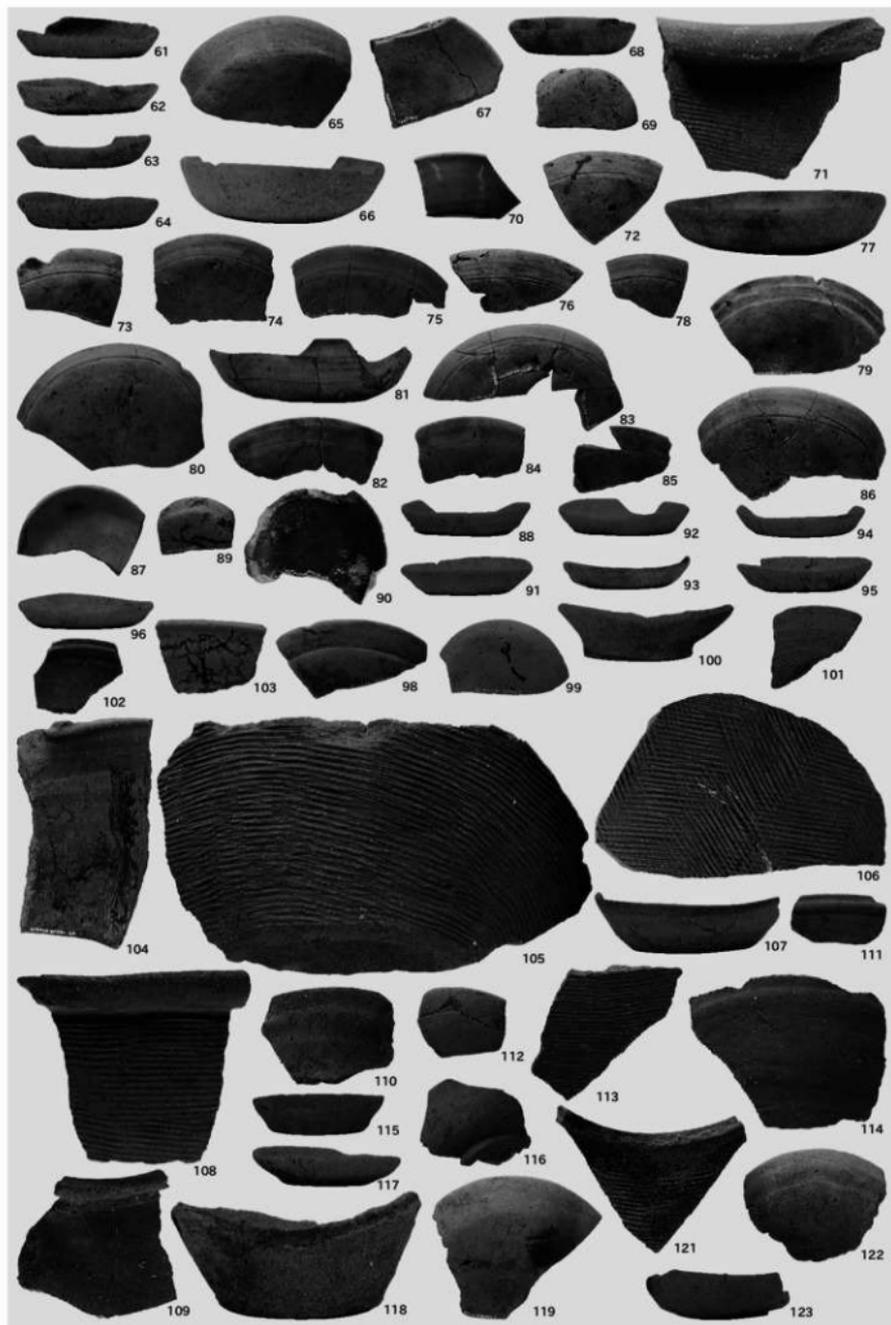


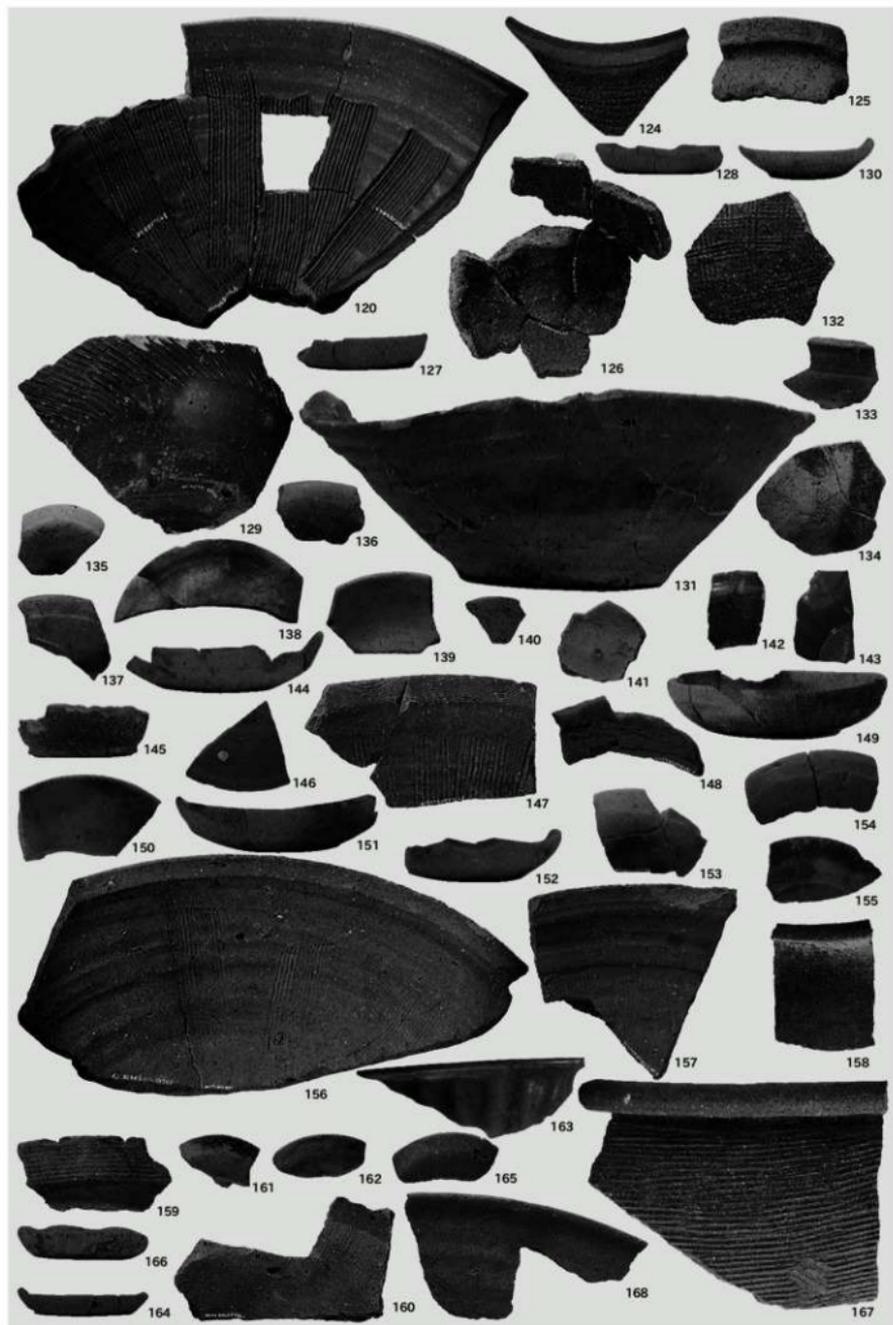
91・9J区 (北西から)

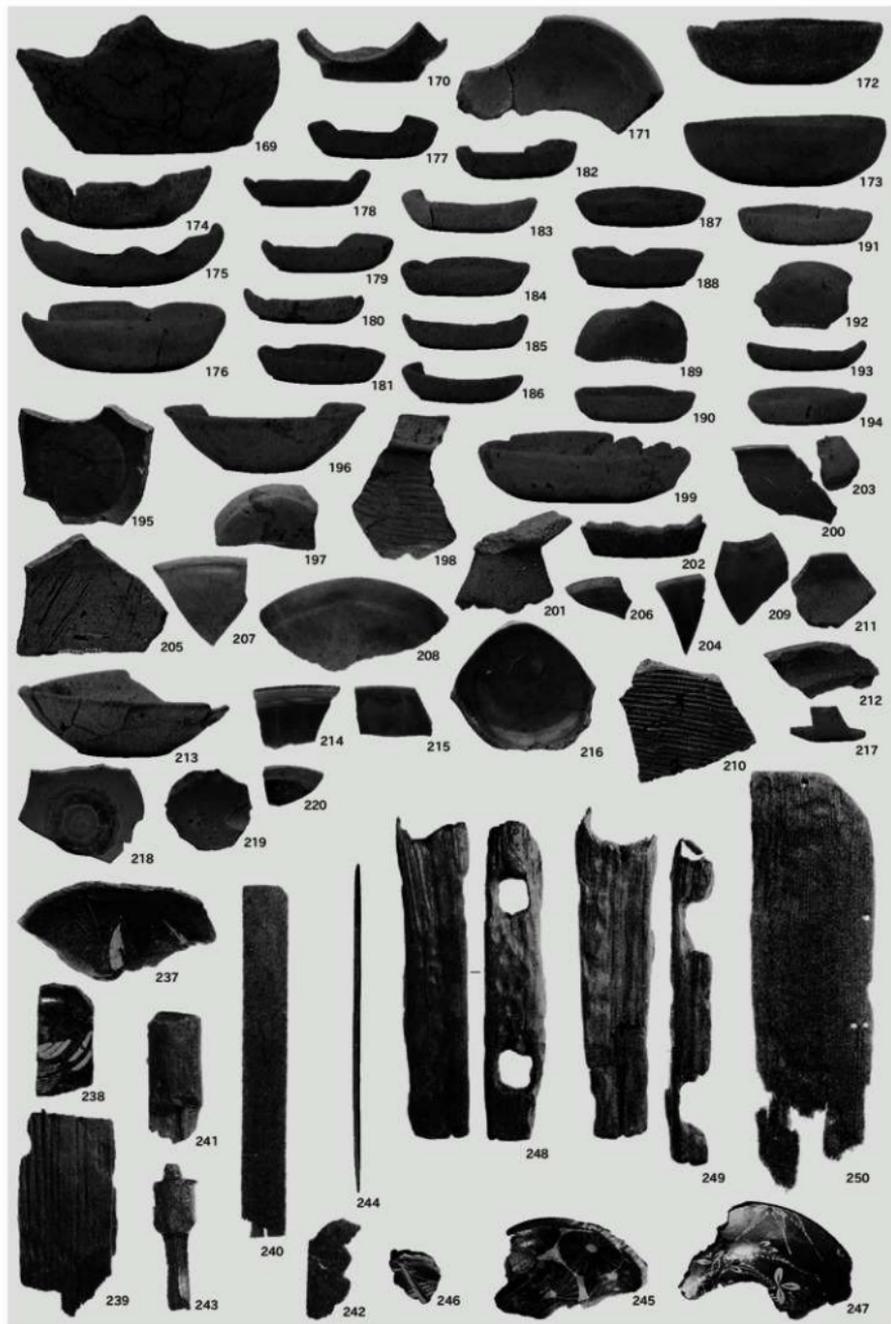


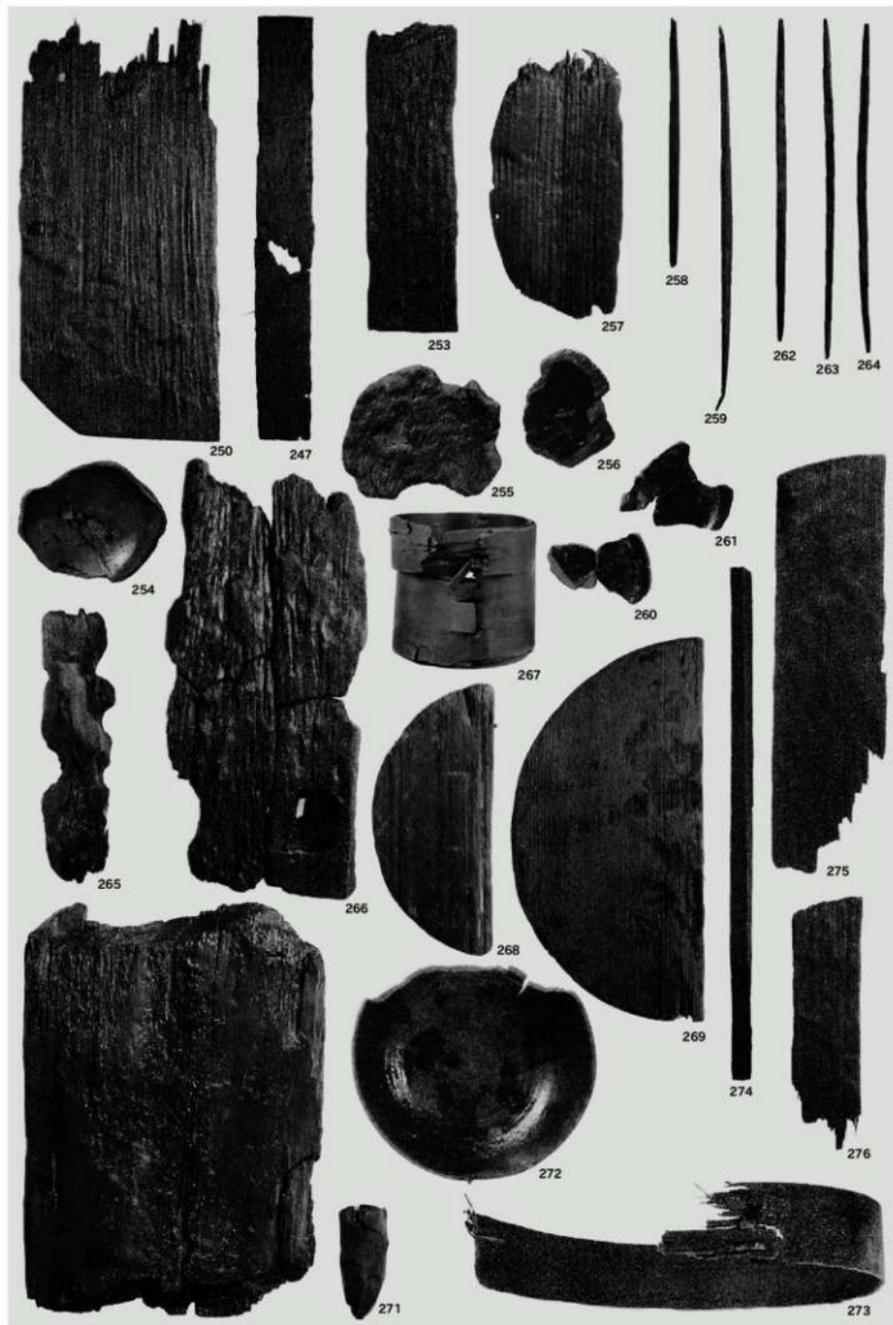
91・9J区 (東から)

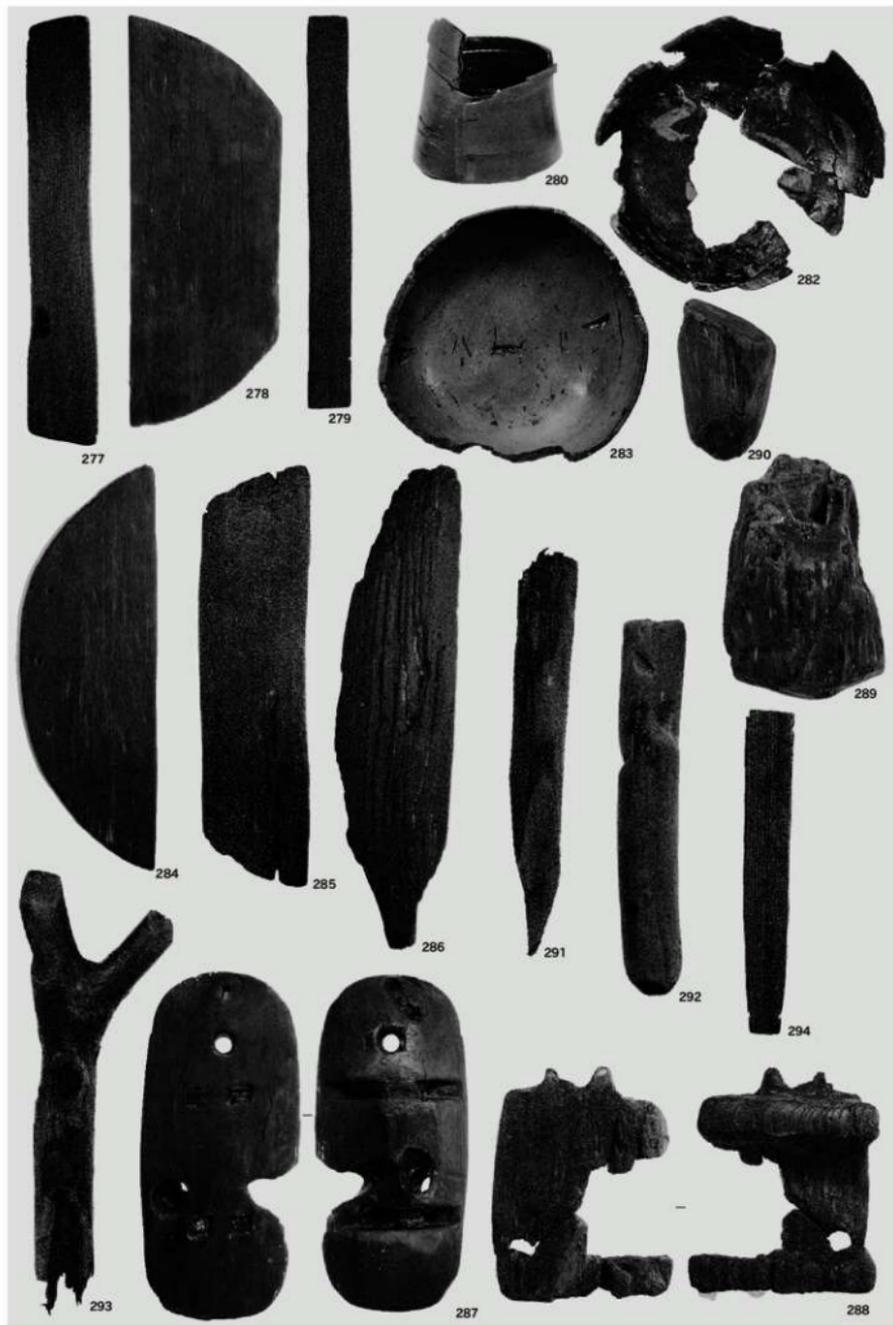


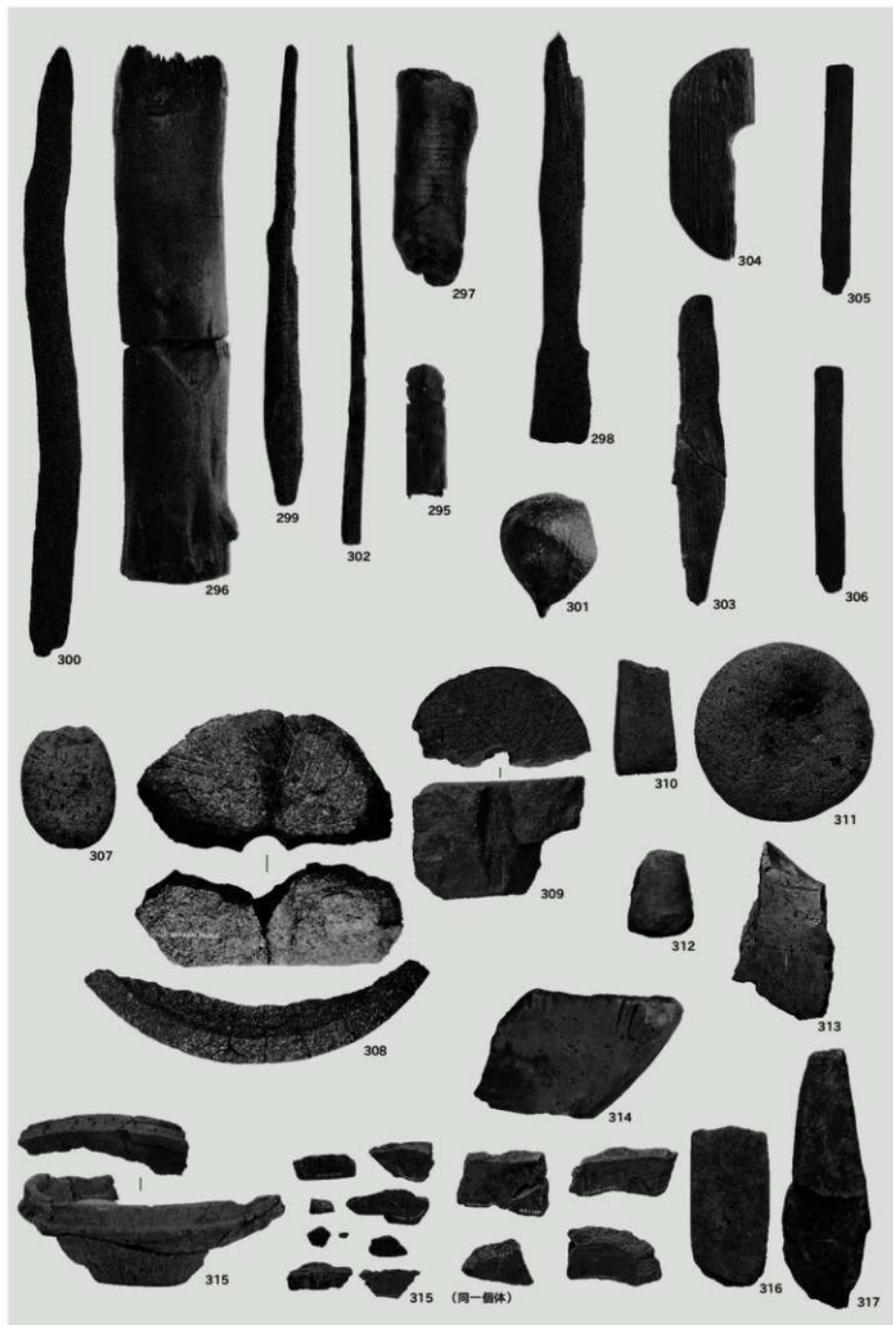














報告書抄録

| | | | | | | | | |
|--------------|--|-----------------------|--|-------------------------------|--|------------------------|------------------------|-------------------|
| ふりがな | しもおきたいせきいち | | | | | | | |
| 書名 | 下沖北遺跡 I | | | | | | | |
| 副書名 | 一般国道 8 号 柏崎バイパス関係発掘調査報告書 II | | | | | | | |
| 巻次 | | | | | | | | |
| シリーズ名 | 新潟県埋蔵文化財調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第 125 集 | | | | | | | |
| 編著者名 | 山本 肇 加藤義孝 佐藤弘一 金子正宏 山崎忠良 高橋 保 | | | | | | | |
| 編集機関 | 財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒 956-0845 新潟県新潟市大字金津 93 番地 1 TEL 0250 (25) 3981 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 2003 (平成 15) 年 3 月 31 日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡 | ふりがな 所在地 | コード 市町村 遺跡番号 | | 北緯 ° ' " | 東経 ° ' " | 調査期間 | 調査面積 m ² | 調査原因 |
| 下沖北遺跡 | 新潟県 柏崎市 大字下方字下沖 38-1 ほか | 15205 | 708 | 37 度 20 分 45 秒 (旧座標) | 138 度 33 分 20 秒 (旧座標) | 20020408 ~ 20021031 | 6,500 | 一般国道 8 号 柏崎バイパス建設 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 | |
| 下沖北遺跡 | 集落跡 | 中世 (13 世紀 ~ 14 世紀) | 掘立柱建物 (29 棟) 権列 (3 基) 方形竪穴伏遺構 (8 基) 区画溝 (3 条) 溝 (30 条) 土坑 (129 基) 井戸 (25 基) | | 土師器(皿、碗) 須恵器(坏、甗) 土師質土器(皿、碗) 珠洲焼(甕、 摺鉢) 陶器(白磁、青磁、染付け 等) 木製品(漆器碗、箸、折敷、柄 杓、下駄) 石製品(石鍋、茶臼、砥 石、磨石等) 金属製品(鐙、刀子、 銭、鉄洋) 土製品(土師、土人形) | | | |

| | |
|--|---|
| 新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 125 集 | |
| 一般国道 8 号 柏崎バイパス関係発掘調査報告書 II | |
| 下沖北遺跡 I | |
| 平成 15 年 3 月 25 日印刷 平成 15 年 3 月 31 日発行 | 編集・発行 新潟県教育委員会 〒 950-8570 新潟市新光町 4 番地 1 電話 025 (285) 5511 財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団 〒 956-0845 新潟市大字金津 93 番地 1 電話 0250 (25) 3981 FAX 0250 (25) 3986 印刷・製本 株式会社 第一印刷所 〒 950-8724 新潟県新潟市和合町 2 丁目 4 番 18 号 電話 025 (285) 7161 |